

Takushoku University Study Abroad Programs

TUSAP



2020
TAKUSHOKU
NEW ORANGE
PROJECT

拓殖大学海外留学プログラム

平成30年度 研修報告

Program Reports of 2018.4 – 2019.3

夏期短期研修

個人研修奨学金



目次

短期研修プログラム

1. 商学部プログラム	ポートランド州立大学（アメリカ）	3
2. 商学部プログラム	慶熙大学校（韓国／インターカルチャー研修）	18
3. 政経学部プログラム	ビート・ランゲージ・センター（イギリス）	31
4. 外国語学部 英米語学科プログラム	ランガラ・カレッジ（カナダ）	42
5. 外国語学部 中国語学科プログラム	北京大学（中国）	57
6. 国際学部プログラム	ダルマプルサダ大学（インドネシア）	75
7. 国際学部プログラム	観光実務研修（カナダ）	89

個人研修奨学金

平成 30 年度研修生	102
(フランス・ドイツ・スペイン・タイ・韓国・カナダ・ブラジル・中国・マレーシア・インドネシア)	

※本文は学生自身が作成したもので、国際部では加筆・修正していません。

【アメリカ（第23回）】 ポートランド州立大学

1. 研修概要

1. 研修先 アメリカ ポートランド州立大学
2. 研修期間 2018年8月14日（火）～2018年9月9日（日）
3. 授業形態 語学研修
4. 滞在方法 ホームステイ
5. 概算費用 学費、滞在費、旅費など 約540,000円

2. 日程

- 8月14日（火） 成田発 カナダ・バンクーバー経由にてポートランド着
空港からポートランド州立学校へ移動
ホームステイのオリエンテーション後、ホストファミリー宅へ
- 8月15日（水） オリエンテーション
- 8月16日（木） プレイメントテスト後、午後より授業開始
- 9月5日（水） Farewell Lunch
- 9月6日（木） 最終プレゼンテーション発表
- 9月8日（土） ポートランド発 カナダ・バンクーバー経由
- 9月9日（日） 成田着、通関後解散

3. 参加者名簿

氏名	学年	学部	学科
五十嵐 伸一	1	商	国際ビジネス
小川 弥生	2	商	経営
高井 大新	2	商	経営
中野 海斗	2	商	経営
飯塚 翔也	2	商	国際ビジネス
尾内 恵利	2	商	国際ビジネス
金古 拓巳	2	商	国際ビジネス

氏名	学年	学部	学科
菊地 慧	2	商	国際ビジネス
寺澤 真衣	2	商	国際ビジネス
高山 凌我	2	商	国際ビジネス
前田 優	2	商	国際ビジネス
渡邊 悠平	2	商	国際ビジネス
安井 優花	2	商	会計
藤原 愛子	3	商	国際ビジネス

※学年は研修参加時のもの

五十嵐 伸一 商学部 国際ビジネス学科 1年

新潟県立新潟北高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ゴミ箱の中の注射器

アメリカ人と日本人

【日本 (日本人) との相違点について】

よく日本人はマナーが良いと言われるのですが、今回の研修においては考えさせられることがたくさんありました。例えば、ポートランドではバスの乗降の際、乗客と運転手は必ずお互いに挨拶をします。日本では私もしていませんでしたし見たこともありませんでした。誰もが自然に行う習慣に感心し、帰国後も実践しています。また、バスでも電車でも乗客の乗降の際の順番争いなど全く見ませんでした。成田空港からの帰路の電車で、乗降の際に我先にと乗降口に向かう人々に恥ずかしさを感じました。

本音と建前って？ある日、朝早く学校へ行くために6時に家を出るときです。「朝早くて危ないし送るよ！」と家族から言われました。(ホームステイ先の家族です。) その時は気を遣って言ってくれていると思い、「気持ちだけで充分だよ！」と断りました。帰宅後、彼からこう問われました。「Shin はオレのことが嫌いなのかい？」(Shin は私のニックネームです)。アメリカ人には建前などありませんから好意の誘いや提案は本心から言っています。快く受けていいことを知りました。但し、初見の場合は別です。身を守る意味でも絶対に断りましょう。欧米人は見たり感じたことをそのまま言葉にしてコミュニケーションをとるので裏表がないように感じます。一方、私達日本人は本音と建前の言葉でコミュニケーションをとるので言葉選びが重要です。

ダークサイドを少し。アメリカは移民文化ですから人種差別が当たり前のようにあります。私も何度か差別的な言葉を浴びせられました。最近ではテニスの大坂選手の US Open 決勝戦の差別は酷かったです。日本人の場合は人種差別というより「集団対個」や「直接ではなく裏」のような部落的なものになるのでしょうか。例えば「村八分」「裏で根回し」等ですかね。現地においてこのような行為を受けた時は、この日本人の愚かさに怒り通越して哀れみすら持ちました。

ボランティア活動で小学校に行ったときの事です。小学校のゴミ箱の中に使用済みの注射器が捨ててありました。アメリカのドラッグの現実を目の当たりにした出来事で、日本では想像もつかないことです。そういえばポートランドでは小学校の登下校の際は保護者が送迎をします。日本では子供が小学校にいたら親は安心ですが、アメリカでは全く安心ではないそうです。こんなことを体験するとその気持ちがよく解かります。

ポートランドにはホームレスが溢れています。日本のホームレスとは違い街中に普通にいます。PSU の校舎の中でもゴミ

箱を平気で漁っています。話しかけてもきますが私は無視をしていました。彼等を刺激しないよう相手にしないが一番です。このことは非常に難しい問題で長くなるので掘り下げませんが、彼等はほぼジャンキーです…。

【ホームステイについて】

ホームステイはホテル代わりに一般家庭に宿泊するものではありません。家族はツアーコンダクターではありません。一般家庭にてその国、その地域の生活様式を実際の生活で実践することです。せっかく一緒に暮らすのですから部屋でスマホなどいじっていないで家族と共に語りましょう。家族の一員になれますし、文化、習慣、考え方も学べます。何より部屋に一人でいるより楽しいですよ。家族とのレクリエーションは大切な事だと思いますが、買物までも家族に連れて行ってもらうのではなく、自らの足でいろいろな所に行ってみましょう。そして家族以外の友達をつくりましょう (日本人以外の)。また、日本人はいつも日本人同士で群れますがせっかく異国の地にいるのですからやめませんか？

各家庭にはローカルルールがあります。ルールに沿って生活しましょう。例えば、私の家では小さい子供がいるので夜10時以降のTVは禁止でした。おかげで毎日遅くまで家族と語る時間が出来ました。また、各家庭のルーティーンとなっていることも一緒に参加したら良いと思います。例えば日曜日のミサ等です。

色々な留学方法があると思いますが、生活に関しては間違いなくホームステイが良いと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

非常に充実した多くの人間関係を構築することが出来たことが一番の収穫です。特に今もほぼ毎日連絡を取り合う家族には毎日の生活だけでなく、親戚関係はもとより勤務先や子供の学校の関係者まで紹介して頂いたり移民の家庭も紹介して頂く等、感謝以外の言葉が見つかりません。

今後の生活では現地で感じた日本との相違点を、アメリカとの相違点といった観点に置き換えて生活してみるのも面白いかなと思います。また、アメリカで得られた人間関係をどのように日本で活かせるかトライしてみたいです。

進路についてはまだまだ1年生ですからゆっくり考えますよ…。



小学校のボランティアにて



家族と共に

小川 弥生 商学部 経営学科 2年

目黒学院高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ホストマザーと友人家族との交流の様子

人も街も優しい“Portland” との出会い

【研修参加の動機について】

私がこの研修に参加した理由は、主に2つあります。1つは、全米一住みやすいと言われているポートランドという街を、実際に自分の目で見て肌で感じたいと考えたからです。TAX FREE という理由以外に、人々が住みやすいと感じるところがどこにあるかを知りたいと思ったことがきっかけです。もう1つは、2020 東京オリンピックが開催されるからです。海外から多くの観光客が増えている今日、街中でも道を聞かれることや困っている外国の方を見かけます。これからますます増えることでしょう。2020 東京オリンピックにボランティアとして関わることが目標です。だから、英語でのコミュニケーション能力を高めたいと思いました。また、私が考えるに、三年生は、就職活動に動き出さなくてはいけない時期です。一年生は、大学生活に慣れることや人間関係の構築など、負担が大きいです。だから二年生の夏は、時間的にも精神的にも一番余裕があり、研修に参加するにはもってこいの時期だと思います。

【研修国・地域の紹介について】

アメリカのオレゴン州にあるポートランド。基本的には、穏やかで、自然が多く暮らしやすいと言われるのが分かる街です。気候は、1日に四季があるように感じるほど、朝・昼・夜で変化があり、正直順応するのは大変でした。ダウンタウンには沢山のショップが並び、ほとんど徒歩で楽しめます。また、交通の便が良く、バスやMAX という路面電車、Street Car は、共通で2.5時間乗り放題のチケットが\$2.50、1日乗り放題のチケットは\$5で利用しやすい上に、日本のように清潔感があり

ます。すべての車両が、ボタン一つでスロープが出るようになっていました。ホームレスや薬物常習者は、優先席もしくは一番後ろの席に居る傾向があるそうです。学内には、給水機があり、多くの学生が水筒を持参しています。コンビニやスーパーでは、ビニールは燃やすと有害物質が流れるため紙袋が基本です。街には、レンタルサイクルや自動式のキックボードのようなものがあります。アプリを入れることで、誰でも簡単に使用できます。このように、ポートランドという街は優しくて魅力的なところが沢山ありました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

高校二年生の時に、オーストラリアで約20日間のホームステイ経験があります。また、アメリカには2度旅行で訪れたことがあったため、比較的すんなりと生活に馴染むことができました。初めてのことはばかりではありませんでしたが、そんな中、ポートランドが住みやすいと言われる理由をいくつか見つけました。例えば、バリアフリーな街並みや環境問題への関心が高いことです。その上で、日本の良さや改善すべき点を考え、見つめ直すことができました。この経験と学びを、身近な存在から発信し共有していきたいです。そして将来、どんな形でもいいので、自分の英語が少しでも武器になるようにすることが目標です。これからの大学生活において、積極的に英語に触れる時間をつくり、自分のスキルとして身につけていきたいと思います。

また、人はもちろんのこと、場所との出会いにも感謝し、大切にしたいと思いました。



午前のクラスメイト



拓大女子と Cannon Beach にて

商学部 短期研修プログラム

アメリカ (第23回)

ポートランド州立大学

高井 大新 商学部 経営学科 2年

麗澤瑞浪高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ホストファミリーと

留学に参加して

【研修参加の動機について】

私がこのプログラムに参加した理由は、以前から英語に興味があり一度もアメリカに行ったことがなかったからです。また、日本とアメリカの文化や生活様式の違いについて自分自身で感じたかったからです。実際にホストファミリーの家にホームステイをすることで、アメリカの生活や考え方の違いを体験したかったからです。

研修に行くオススメの学年は1年生です。早くから研修に参加することで、留学後に自分がやるべきことややりたいことを見つけるチャンスが増えます。早めに研修に参加するに越したことはないと感じました。

【研修国・地域の紹介について】

私はアメリカのハンバーガーショップに行った時に、日本との違いに気づきました。アメリカの店員は「Hello」「How are you」と声をかけてくれます。日本でも「いらっしゃいませ」と声をかけられますが、日本の場合はこの言葉への返事は求めていません。アメリカの店員はとてもフレンドリーです。仕事内容に関係する会話だけでなく「そのシャツどこで買ったの?」という日常会話もします。日本には大抵決められたマニュアルが存在していて、それを元に仕事をしています。しかしアメリカは、自由な服装をしていたり制服をアレンジしています。

次に気づいたのは店員の態度です。日本のお客は店員よりも上の立場で、客もその考えを持っています。そのため、客は態度を偉そうにしている人が多いです。しか

しアメリカでは、「ありがとう」としっかり感謝の気持ちを言葉に出しています。日本のサービスはとても良いものですがその分傲慢な態度を取る客が沢山います。「ありがとう」としっかりと伝えることで店員のモチベーションが上がり、サービス全体の向上に繋がると感じました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私が研修を通して得たことは、物事を見る視野が広がったことと積極的に自分から話しかける能力がついたことです。アメリカ人は日本人と違って、スーパーでお会計を待って並んでいる時など「スモールトーク」と言って初めて会った人でもとても積極的に話しかけたりします。私も実際に並んでいる時に、「そのお菓子美味しいよね」と急に話しかけられて驚いた経験があります。アメリカで生活するにつれて自分からも話しかけることが増えて自信がつくようになりました。

この留学を通していかに自分が英語を話すことができなにかを感じることができました。しかし、これからの社会にとって必要なのは英語力だと感じています。英語を習得することでたくさんの人の意見を交換することができ自分の成長にも繋がって行きます。この留学で自分の思っていることを英語で話すことができなかった悔しさを忘れずに、日々の英語の勉強に力を入れていこうと思いました。



Conversation Class



Foot Lockerにて

中野 海斗 商学部 経営学科 2年

北海道立小樽水産高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ホストファミリーとの写真

アメリカ短期研修

【研修参加の動機について】

私がこのアメリカ短期研修の留学プログラムに参加した理由は、日本国内で生活している中では触れたり感じたりすることはない習慣や文化に触れ、自分の価値観を高めたいと思ったからです。また英語圏で生活することで、自身の英語力を向上させ、将来に役立てたいと思ったからです。

研修には1年生に行くべきだと感じました。理由としては、留学に行くことで新たに感じることや、やりたいことが見つかるので早くに行くべきだと思いました。また長期留学を考えている人は2年生で短期研修に行ってしまうと3年生で長期に行かなければならないからです。

【研修国・地域の紹介】

私がアメリカ短期研修で感じた日本との相違点について、まず気候は朝と夜は15度を下回るのだから寒かったのですが、日中は30度を超えるので気温差が激しかったです。しかし日本より湿度が少なかったのが過ごしやすい気候でした。

私が驚いたことはアメリカのファッションとチップの習慣です。ファッションについて、アメリカは日本と違ってタトゥーをファッションとして認知されていたり、髪をカラフルに染めることもおしゃれとしてみなされていたことに驚きました。日本ではタトゥーをしている人は良い印象を持たれていなかったり、アルバイトをするうえでも髪を染めている人は採用されなかったりと、日本とアメリカのファッションでの感じ方の違いに驚きました。

チップについてはあることは知っていたのですが、チップをあげる機会とあげない機会があることに驚きま

した。チップをあげる機会については、レストラン、タクシーやホテルなどのサービスを受ける場合にチップをあげ、ファストフード店やガソリンスタンドなどの軽いサービスやセルフサービスのお店ではチップをあげないと知り、驚きました。なぜチップをあげるのかについてはポートランドに住むにはお金がかかるのでチップが大切な収入源だとホームステイのマザーに教えてもらいました。日本にはチップをあげる習慣はあまり浸透していませんが。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私がこの研修を通して得たことは、英語力はもちろん、物事を別な角度からとらえることができるようになったことと、コミュニケーション能力が向上したと思います。アメリカ人はとてもフレンドリーで見知らぬ人にも挨拶をしたり、会話をしていたので驚きました。実際に私もバスに乗っていて隣の男の人に「かっこいいリュックだね」と話しかけられたり、信号待ちをしているときに「おはよう、調子はどう？」などと話しかけられました。最初は知らない人に話しかけられる驚きと恐怖で戸惑いましたが、アメリカでの生活を送っているうちに慣れ、いい経験ができたと思いました。

このプログラムを通して、英語に触れる生活を送って苦手だった英語に親近感を覚え、敬遠していたTOEICや英検などの資格に挑戦し、就職や将来の生活に役立てたいと思いました。また、約1か月という浅い期間では学べないことが多いと思ったので長期留学や交換留学を利用してさらに自分自身の英語力や価値観、人間性を高められたらと思いました。



クラスの集合写真



小旅行の写真

商学部 短期研修プログラム

アメリカ (第23回)

ポートランド州立大学

飯塚 翔也 商学部 国際ビジネス学科 2年

茨城県立日立北高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ホームステイの初日の夕飯

充実した私の短期研修

【研修参加の動機について】

私がこの国のこの州を選んだ理由は大きく分けて2つあります。

一つ目は行きたいイベントがちょうどこの期間にあったからです。自分は Sacred Harp という4つのパートでアカペラでハーモニーをする会に日本で行っていて、この留学の期間に大きな Sacred Harp のイベントがあり、それに参加するために応募しました。そのイベントはオレゴン州の上に位置するワシントン州で開催されます。もともとはポートランドに住んでいる友人が連れて行ってくれる予定でしたが、私のホストマザーがその友人の友人で、Sacred Harp もやっていて、それにはホストマザーが連れて行ってくれました。

2つ目は研修に参加する前から、教会に行き英会話の練習をしていたことです。今年の春休みから教会で在日の外国人の方と英語で会話していたので、今の自分が現地でもどのくらい通用するか試したかったからです。それらの2つがこの研修に参加した理由です。

【日常生活について】

私は趣味という点でホストファミリーと多くの共通点がありました。ホストマザーは上にも書いたように Sacred Harp や他にも私が見ていたアメリカのドラマをホストマザーが見ていたりと、会話をする時の話題にはあまり困りませんでした。そのドラマの一つのロケ地がポートランドだったので、そのロケに使われた家や場所を巡ったりしました。ホストカズンは言うところのゲーマーで、私も普通の人から見るとゲームばかりやっている人でそこでも話の話題はたくさんありました。ホストカズンとは誰でも知っている「マリオカート」で遊びました。自分の知らなかったゲームは操作方



Sacred Harp のメンバー

法からストーリー性の説明もしてくれました。また、ホストの友人たちも自分と仲良くしてくれてその人たちとは一緒に歌ったり、バスケットを一緒にしました。

ホームステイ後半戦でホストが家族の緊急の用事で家を空けることになりましたが、放課後の世話はホストの友人たちがしてくれたので苦でも何でもありませんでした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して私は多くの友人や知り合いができました。そのつながりを大切にして学生の間にもう一度ポートランドに行き友人たちとの親睦を深め、自分自身の英語力やコミュニケーション能力の向上に励んでいきたいと思います。

進路については、まだ確実に決めているわけではないのですが今のところはこの期間中に多少なりとも英語力は向上したと思うのでその能力の発揮できるような職に就けたらいいなと考えています。



Sacred Harp リード

尾内 恵利 商学部 国際ビジネス学科 2年

都立広尾高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



授業での発表

アメリカ短期研修

【研修生活について】

授業の難易度は高くないので理解できる内容です。先生がゆっくりと話してくれるので英語でも聞き取ることができました。午前の授業では、生活する上で役立つ英語を学ぶので普段の生活で活用することができます。お店での注文の仕方や道の尋ね方など、実際に使う事ができるフレーズを学びます。午後の授業では、カルチャーやアメリカと日本の価値観の違いなどを中心に学びました。ホームステイをしている家族の行動や言動が授業で聞いた内容と一致していることがあったので、知識として沢山のことを覚えることが出来ました。電車やバスの乗り方は研修先でしか学べない事の一つだと考えます。

【日常生活について】

ホームステイでは、基本的に自由に生活を送ることが殆どです。朝ご飯を食べない家庭だったので、自分で用意をして食べていました。生活する上での注意事項、決められた約束事や条件はなかったですが、ホストファミリーに10歳の子供がいたので、夜はシャワーを早く浴びるなど早寝を心掛けていました。放課後はホストファミリーと地域のイベントと一緒に参加しました。週末は、日曜日にホストファミリーと教会へ行きました。ホストファミリーとの予定が無い時はダウントウンに出掛けていました。

現地では、他大学の学生と授業を受けていたため交友の幅が広がります。しかし他国留学生はいなかったの

で、現地のスタッフの方以外と関わることは少なかったです。

時間を見つけて買い物をしたり、友達と食事に行ったりと自由でした。現地では、現金を使う事が少ないため、クレジットカードを使う機会が多くあります。そのため、自分がいくら買い物にお金を使ったかを常に把握することが重要だと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

英語で自分の意思を相手に伝えることの難しさを感じました。自分が持っている英語の知識では足りず、コミュニケーションがうまく取れなかったのもっと英語を勉強して知識をつけたいという気持ちになりました。研修で感じたこの気持ちは今後、英語を学ぶ時に力になると思います。ホームステイで私はカルチャーショックがありました。最初はつらいと感じていましたが、「アメリカの家庭では普通のことだ」と受け入れたら楽になりました。価値観の違いからカルチャーショックを受けたと思うと、考え方が変わり自分の視野が広がった様になります。今回の研修に参加したことで言語について興味が高まりました。また、他国での生活の違いなどにも興味を持つようになりました。今後は、英語の勉強だけでなく様々な国の文化や生活を学んでみたいと思います。



ファミリーとの写真



サタデーマーケット

商学部 短期研修プログラム

アメリカ (第23回)

ポートランド州立大学

金古 拓巳 商学部 国際ビジネス学科 2年

埼玉県立草加高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



集合写真

留学について

【研修国・地域の紹介について】

季節について

季節は夏の事しかわかりませんが、日本と違って乾燥していてとても過ごしやすかったです。また、雨が降ることも少なかったです。ホストファミリーに聞いたところ、冬に雨がたくさん降るらしいです。またポートランドの人は雨が降っていても傘をささない人が多かった印象です。少し衝撃でした

文化の違いについて

日本と違う文化はたくさんありました。例えば、トイレです。日本はお風呂場とトイレを分けているが、アメリカはバスルームとトイレが一緒でした。他に、食事についても違うことが多々ありました。夜ご飯にピザがでたり、朝ご飯にホットドッグがでたり、最初は慣れるのが大変でした。また、フォーク、ナイフ、スプーンで食べることも日本とは異なる点でした。

習慣について

私はホストマザーの親戚の結婚式に連れていってもらいました。ホストファミリーはアフリカ系だったのでみんな民族衣装を着て参加していました。残念ながら、私は着ることができませんでした。また、教会にも連れて行ってもらったのですが、ホストファミリーは正装で参加していました。教会では私が思っていたのとは違い、ステージ上で女の人が歌を歌っていました。そして牧師さんが演説をしていました。

食べ物について

食べ物はとてもおいしかったです。ホストマザーは料理がとても上手でした。アフリカ料理は初めて食べまし

たが大好きになりました。また、アメリカにはたくさんの国の料理を出すお店が至る所にあり、多様な文化が混在しているアメリカならではの感じました。

研修先の街や国について

私はポートランドで生活していて感じたことは、ホームレスが多いということです。どこを歩いていても至る所にホームレスがいる印象でした。とくにゴミ箱から残飯を見つけ出して食べているのを見たときはとてもショックを受けました。他にも、いいところはたくさんありました。交通の便がとてもよい、人が良かったなどポートランドはとても住みやすいところでした。

【日常生活について】

放課後は家に帰って子供たちと鬼ごっこなどをするか、友達と一緒にショッピングに行ったりしていました。たまに連れて行ってもらえるシアトルやカノンビーチ、ラフティングは私たちの留学をより楽しいものにしてくれました。授業では、ほかの学校の人たちとグループを作って発表をするので、他校の人たちとも仲良くすることができました。お金の管理はとても大事だと感じました。意識していないとどんどんお金を使ってしまうことになってしまいます。また、持ち運び Wi-Fi を持っていくと便利だと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、言葉が通じない人と会話をする難しさを感じた。今後は英語の語学力をあげるため日々、勉強して英語の資格を取れるよう頑張ります。とても良い経験をする事ができました。ありがとうございました。



結婚式



子供達

菊地 慧 商学部 国際ビジネス学科 2年

柏市立柏高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



レストランの様子

研修レポート

【研修国・地域の紹介について (相違、日本人の良し悪し、街や国、施設)】

今回私が参加したポートランドという国はアメリカの西海岸に位置していて比較的日本と気候は似ているのですが朝昼夜の寒暖差は激しくカラッとしているので夏でもとても過ごしやすいです。食べ物や飲み物などは全体的に日本よりも大きいサイズでアメリカ人好みのサイズ感や食べ物になっています。

私がこの研修で気づいたことは、日本人とアメリカ人の性格面の違いです。例えば実際私が経験した話では、学校に向かうときに私はバスを使います。その際に時間通りに来ないことが日本に比べて多くありました。ですが私が少し遅れてバスに乗るタイミングが遅かった時近くの止まれる場所で運転手さんは止まり待っていてくれたのです。乗客の人も快く受け入れてくれました。それだけではなく乗客の1人が声をかけてきて日本から来たことを伝えると話まで盛り上がりアメリカ人のフレンドリーな一面と出会うことができました。街並みはダウンタウンに近いところと私の家の近くでは大きく違いました。ダウンタウンでは多くの建物があり、道や地形は四角でかたどられていました。家の近くは比較的森や家がたくさんあり、「自然」という印象を受けました。

【研修生活について (授業、難易度、予習、復習、興味深いこと、学べる事)】

授業は午前と午後で二つに分けられていて、午前は英語、午後はビジネスと文化の二種類から選べるようになっています。午前の英語の授業は事前に面接をしてその結果でクラスが分かれるので比較的自分のレベルに

あった英語力だと思います。午後のクラスでは私は文化の方を選びました。文化の授業では主に日本とアメリカの様々な違いや歴史について勉強します。たくさんの専門用語を学びました。少しだけですがスラング(俗語や卑語)についても触れられる機会がありました。他には街に出てたくさんの人に道を聞いて自分たちだけで目的地に辿り着くゲームのような面白い授業や文化の授業では歴史館に訪問したりしました。実際に使われる英語やスラングを学ぶに必要な英語を使うことができるのでとても楽しく学べる授業だと思います。予習や復習については授業で出される宿題があるのでそれがとても大変でしたがホストファミリーとの会話だったり現地の観光名所を聞いたり英語日記などを作る宿題だったのでとても楽しいですが量は多いです。

実際ネイティブな英語を現地で学べるのは日本ではできないことだと思いました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は一度海外への渡航経験があり、その時にまた行きたいと思ったので今回の研修になりました。今回の研修では外国人とのふれあいを大切に、積極的に自分から話すことが目標でした。アメリカ人は比較的フレンドリーなので会話が弾んだり、時には私の英語を直してくれました。とても親切でした。今回の研修では簡単な会話やリスニングが少しは上達したと思っています。今後は英語の授業や会話の授業に積極的に参加してまた留学にチャレンジするとともに将来は英語を使った職業に携わりたいと思っています。



ホストファミリー



英語のクラス

寺澤 真衣 商学部 国際ビジネス学科 2年

私立東京成徳大学高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ポートランドの街並み

今回の研修で得たこと

【研修地域のご紹介について】

ポートランドは街全体が綺麗だと感じました。緑が多く、オブジェや水飲み場が設置されており、建物一つとっても美しかったです。街は京都のように碁盤の目状になっていて、わかりやすいと感じました。また、住む人の環境維持への取り組みに対する意識の高さも感じました。街の至るところにゴミ箱が設置されていて、リサイクルできるものとそうでないものとで分別されていました。お店ではビニール袋が禁止されているということで袋は全て紙袋でした。また車社会といわれるアメリカですが、ポートランドでは公共交通機関がかなり充実していました。自転車で移動する人も多く、電車やバスに自転車を置くスペースが設けられています。

そうした意識や取り組みが、ポートランドの街と自然を同時に楽しむことができるという魅力に繋がっているのではないかと思います。

【日常生活について】

今回私がホームステイさせてもらった家族の構成は、日本人の妻とアメリカ人の夫と4歳の男の子でした。日本人の方がいる家庭だと知って安心感はありませんでしたが、同時にコミュニケーションの面で自分が甘えてしまわないかという不安もありました。しかし、そこは家族の方も配慮してくださり、日本語で会話をすることはありませんでした。食事の面では、健康に気を使っている家庭だったので、使っている食材はほとんどがオーガニックのものでした。またホストマザーが日本食を好きなこともあって、たまに白米と味噌汁、納豆なども食べることができたので、現地で困ることはありませんでした。宗

教の面では、キリスト教の家庭だったので、毎日食事の前にお祈りをしたり、週末に教会へ行ったりしました。週に1度聖書の勉強会があり、ホストファミリーの友達を家に招き、大人数で一緒に食事を取りました。そこでキリスト教について教えてもらったり、宗教についてどう思うかと聞かれたりしました。週末にはショッピングやキャンプ、滝、遊園地などに連れて行ってもらいました。ホームステイの家族とできた体験はどれも私にとって良い思い出になりました。平日は学校があってホストファミリーとの時間が限られているので、休日はなるべく一緒に過ごすべきだと思います。

【研修を通して得たこと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、違う文化に触れることの大切さを感じました。日本にいただけでは気づくことができない、文化の違いや日本の良いところ悪いところたくさん気づくことができました。様々な経験をする事で視野が広がり、違った視点でものを見ることができるようになると思います。

そして、もっと英語でコミュニケーションを取れるようになりたいと強く感じました。今までは英語が話せたらカッコいいだろうといった漠然とした理由しか持っていませんでしたが、今回の研修で英語を学ぶ先に得られるものが明確になりました。その地域に関する詳しい情報や、様々な人の知識や考え方をその人のリアルな言葉で理解できたらどんなに楽しんだろうと感じました。そのために、今まで以上に勉強に励み、もっと自分の視野を広げたいです。



キャンプでの食事



ホストファミリーと

高山 凌我 商学部 国際ビジネス学科 2年

私立明治学院東村山高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



怪獣の気分

ポートランド短期留学

【研修生活について】

米国短期語学研修は午前と午後の授業でやるのが分かれていて、午前の授業は conversation class です。5 つものクラスに分かれており、私のクラスでは、主に現地の方と会話をするという課外活動が多く、積極性や会話能力が学べた授業でした。宿題はホストに様々な事を質問する宿題が多かったです。難易度としてはそれほど高くなかったです。午後の授業は communication class と business class を選択することが出来ます。私は、business class を選択しました。business の授業は、自分達で新しい製品を考えて、プレゼンを通して発表するという本格的な授業です。プレゼンは何人かのグループで行うため、他大学との交流もあります。ビジネスの専門用語も多く出てきてその場では少し理解できないところも多少ありましたが、先生が難しい言葉を言い換えてくれたり、教科書の後ろにビジネス用語が載っていたりするので、心配することは無かったです。business の授業は、プレゼンだけではなく、実際に現地にある企業に訪問し従業員の方の話を聞く機会もありました。私たちは Columbia と intel に行きました。話を聞いた後も Columbia では employee store に行き安くお買い物もできました。Communication class の授業についてはあまり深く知りませんが、business class の授業はとても身になり面白く楽しかったです。

【日常生活について】

放課後の過ごし方は基本自由でした。授業が終わったら家に帰りホストとの時間を楽しむ人もいれば、ダウン

タウンや近くのショッピングモールまで行き買い物をする人などと自由時間が多かったですが、ファイナルプロジェクトの発表が近づくと生徒同士で打ち合わせをしたりしていました。

毎週末にはイベントがあり様々な場所に行くことができます。シアトル小旅行、リバーラフティング、キャノンビーチ、アウトレットなどたくさんの場所に行きました。どの場所もとても楽しい思い出になります。ホストと一緒に過ごせる日もたくさん作れるとさらにほかの場所へ行けます。私は、ホストとオレゴン動物園に行きました。違う日には、自転車を借りてサイクリングもしました。なので、授業がない日も英語を話す機会が多かったです。

他大学との交流もたくさんありました。午前や午後の授業で必ず話す機会があり、時には協力して物事に取り組むこともありました。昼食を一緒に食べたり、一緒に遊んだり帰るころにはとても仲良くなり別れが寂しくなりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は、海外に行ったことがなく留学する前は不安と緊張でいっぱいでしたが、帰ってきてみるとアメリカにずっといて勉強していたかっと思っっています。実際に現地に行ってみて自分の目と肌で感じてみると私の価値観を大きく変化させるものばかりでした。機会があれば、この留学で学んだ“挑戦すること”を活かしてもう一度プログラムに参加して毎日刺激のある生活を送りたいです。留学から帰ってきてからも継続的に英語に触れてグローバル社会にも負けないような人材になりたいと思っています。



被写体の手本



ビジネスB 集合写真

商学部 短期研修プログラム

アメリカ (第23回)

ポートランド州立大学

前田 優 商学部 国際ビジネス学科 2年

学校法人 佐藤栄学園 花咲徳栄高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



卒業後の写真

米国短期留学での貴重な経験

【研修国・地域の紹介について】

日本とアメリカでは違いがあります。まず、気温です。日本の夏は、朝から晩まで暑いですが、アメリカの短期留学先のポートランドは朝方もものすごく冷え込みます。そして、夕方くらいから一気に気温が上昇します。ここで問題が服装です。慣れるまでは上着が必要だと思います。次に、ホームレスの数です。日本にもホームレスは存在するが、地方の人は特に目にする回数は少ないと思います。ポートランドには多くのホームレスがいます。道で寝ている人やごみ箱をあさる人がいます。日本の生活で慣れている人からすると少しカルチャーショックです。私も、学校内のごみ箱をあさるホームレスにいきなり怒鳴られたり、道端でお金あるか聞かれたり、その缶くれと言われたりしました。これらは慣れれば対応できるようになるので大丈夫です。次に、食生活です。アメリカは多民族国家です。そのため、家庭によって異なります。だから、私のホームステイ先のことについて書きます。朝は自分でシリアルを食べます。昼はパンに好きな食材を挟んだサンドウィッチを持っていき学校で食べます。または、学校の前にあるフードカー（屋台みたいなイメージ）で購入して食事を済ませます。夕食はハンバーガー、ピザ、メキシコ料理です。日本で食べたことがあるものばかりなので食生活には困らないと思います。もし日本食が食べたくなくても割と日本食のお店があった印象があるので対応できると思います。

そして、研修先の Portland State University [PSU] についてです。まさに街の中の大学という印象を受けました。街を歩いて、「これも PSU の建物なのか」と何度も思いました。建物もきれいでアートな感じがします。さらに、坂を約 10 分下ると、ダウンタウンにつく立地の良さです。大学はオレゴン州で最大の学生数が在籍すると共に、同州最大のビジネス・スクール、大学院を有します。オレゴン州では唯一主要都市部に位置する

州立大学です。

【日常生活について】

この研修は多くのイベントがあります。さらに、生活様式はホームステイなので充実保証されます。しかし、重要なのは自分の意思を伝えることだと思います。普段日本語だと言っているであろうことを英語力不足のため胸の内に秘めることがあります。これを頑張って伝えようとするのがさらなる充実につながります。

イベントはシアトルツアー、ラフティング、ハイキング、海、みんなでランチなどあります。すべて PSU スタッフが引率してくれます。他校の人とも、現地の人とも交流できる素晴らしいイベントばかりです。

ホームステイは研修中を刺激的にして、一番自分を高めてくれると思います。研修中一番英語を使い、かかわる相手だからです。そして、英語力向上だけでなく、他国の生活に触れることができ文化を学べます。私を含め研修メンバーはそれぞれの家で受けたショックや驚きなどを楽しそうにシェアしてました。これは、自国で学ぶことができません。だから、ホームステイは良い経験だと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修は私にとってかけがえのない経験になりました。言語を伝える前に伝えようとする気持ちが大切だと思いました。わからない単語があっても、聞けばわかりやすく教えてくれます。逆に言いたいことが難しくても伝えようと努力すれば伝わります。研修前は言語の壁は大きいものだと思っていました。しかし、研修後に壁は今の実力でも自分次第でなくすことができると感じました。同時に拓殖大学でもっと英語力を向上させたいと思いました。今回の経験を活かし、将来は少しでも英語圏の国とかかわれる仕事がしたいです。



ホストファミリーとカヌー



ホストファミリーとサッカー観戦

渡邊 悠平 商学部 国際ビジネス学科 2年

私立ぐんま国際アカデミー高等部出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



conversation クラスの写真

米国短期留学での貴重な経験

私は約一か月間アメリカのポートランドに短期留学をしてきました。私がポートランドで過ごした一か月間の生活について述べたいと思います。

【研修先の生活について】

まず初めに研修先の生活についてです。今回の留学ではたくさんのアクティビティもありましたが、ちゃんとした授業も行います。このプログラムに申し込む際にビジネスクラスとコミュニケーションクラスのどちらかを選択します。私はビジネスクラスを選択しました。ビジネスクラスでは主にどのように起業家になるのか、またどのような準備をすれば起業できるのかを学びました。現地にあるいくつかの会社に行き、とてもためになるお話を聞かせていただきました。授業で出される課題としては、グループでプレゼンテーションを作り、ほかの生徒の前で発表するというものです。今回私は二回のプレゼンテーションを行いました。一回目は五分程度の短いものでしたが二回目は最終課題だったので15分ぐらいのプレゼンテーションを行いました。コミュニケーションクラスも同様に最終課題として15分ぐらいのプレゼンテーションを行いました。これはどちらのクラスも言えることですがノートパソコンは必須だなと感じました。またある程度のパソコンを使える能力も必要だなと感じました。その理由としてはどちらのクラスでもほぼすべてがグループワークなのでパソコンを持っていないとパワーポイントの作り方がわからなかった場合足を引っ張ってしまう可能性があるからです。もう一つの午前の授業は最初の授業の時に英語で面接を行いクラス分けされます。こちらのクラスは英語で会話するのがほとんどで最終課題はグループを組んで五分間英語で劇をするというものでした。全体的な難易度としては、大学で必修の授業だけをとっているだけだとちょっと難しいかなと思いました。

【日常生活について】

次に日常生活についてです。初めにホームステイ先での生活について話します。私のホストファミリーは69歳のお母さん1人だけでした。彼女はジュディという名前で2人の娘がいました。家のルールとしては週に一回は自分の部屋を掃除することとベッドのシーツを洗濯すること。そして、洗濯は週に一回のペースで行うこと。夕飯がいらぬ場合は早めに連絡することなどがありました。シャワーなどの時間も決められていましたが私は基本的に朝入っていたので関係ありませんでした。ジュディはとても優しく積極的に話しかけてくれたり、色々な場所に連れて行ってくれました。夕飯は基本的にはジュディが作ってくれました。夕飯の時には毎日彼女も一緒に食べその日の出来事や次の日の計画など色々な話をしました。彼女の作ってくれるご飯はとても美味しく食に困ることはありませんでした。放課後や休日などはなるべくホストと過ごすようにしていましたが最終プロジェクトが近くなるにつれ学校に遅くまで残るようになりました。

学校生活では他の大学の学生と接する時間が多く自分にとってはとてもいい機会だと思いました。自分には無いものをたくさん持つてくる人が多くいて、一緒にいるだけで吸収できるような環境でした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の留学を通して日本では出来ない多くの経験することができ、自分に至らない所がどこなのかを知る事が出来たと思います。残りわずかな大学生活を通して自分の至らない所をどう改善するかを考え実際に改善していきたいと思っています。

短期では物足りないという気持ちもあるため、もし出来たら長期にも参加したいと考えています。



ビジネスクラスのグループ写真



ホストファミリーとの写真

安井 優花 商学部 会計学科 2年

私立山脇学園高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ポートランドの街

ポートランドでの生活

【研修国について】

ポートランドは歩きやすい街に感じました。それは、街の1ブロックが約60mと決められていて等間隔に道があるからです。日本の道はまっすぐではなく、曲道も90°に曲がるとは限りません。ポートランドはほとんどすべての道が十字路でまっすぐでした。また自転車や電動スクーターの利用が盛んで、シェアできるように街中においてあることが印象的でした。私が1番良いと思ったのは、自転車をバスに乗せて運んでくれるシステムです。バス停まで自転車で行ってもバスの先頭や後ろの部分に自転車を積んでくれるので、移動しやすく、行動範囲をより広げることができると思いました。また一方通行の多さが迷子にしにくくしてくれました。一方通行ですが、道が広く道路の一番端には有料駐車スペースがありました。時間でサッと道に止めておけるのは便利なシステムだなと思いました。

道を歩いていて他に印象に残ったのは、歩道の上にくつものアートがあったことです。動物や小さな噴水、人などの日本でもよく見かけるものの他に初めて見る形のアートや、自転車をくみ上げたパブリックアートもありました。タトゥーをしている人が多く、それはポートランドではアートと考えられているとホストファミリーに聞きましたが、道端にもアートへの関心が多くみられました。

【研修生活について】

平日はポートランド州立大学に通いました。午前中は

Conversation classがあり、現地の方によるテスト面接でクラス分けをしました。クラスメイトとペアワークで会話をしたり、街に行ってお店の人や通行人に話かけたり、日本での英語の授業では体験できない内容がたくさんありました。プログラムの最後には少人数グループでスキットの発表をしました。午後は Intercultural communication class と Business class の2種類から選択できます。私が選択した Intercultural communication class は様々な文化や日本との相違点などを先生と会話しながら学びました。課外授業では、貧困地域についての展示施設や、日経アメリカ人の歴史を知れる施設に行きました。プログラムの最後には少人数のグループでそれぞれのテーマを決めそれについての自分の考えなどを発表しました。私たちの班はカルチャーショックについて、パワーポイントを使って発表しました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

自分の英語力について、聞くことはできるけど話すのは苦手だなと思っていました。しかし今回研修に行くと、ネイティブの英語を全く聞き取れず、耳が慣れるまでに時間がかかり、普段日本で英語に関わる機会がどれだけ少ないかを確認しました。英語と日常で触れ合える機会のありがたさを知りました。だから、学生のうちにもっと長い期間でまた外国に英語を勉強しに行きたいと思っています。また、3年生から始まるゼミでも、英語に関われたらと思うようになりました。



授業で行ったファーマーズマーケット



ホストファミリーとの交流

商学部 短期研修プログラム

アメリカ (第23回)

ポートランド州立大学

藤原 愛子 商学部 国際ビジネス学科 3年

私立富士見丘高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 アメリカ短期研修参加



ホストファミリーとの写真

ポートランド州立大学研修について

【研修参加の動機について】

今まで留学を経験したいと思っていましたが、なかなかできずにいたところ大学の研修プログラムを見つけて応募しました。大学三年生になり来年からは、就職活動が始まるので大学在学中に留学に行ける最後の機会だと思いました。また、三年次から所属しているゼミナールでは、アメリカについて学ぶゼミを履修しているのがアメリカへの短期留学を選びました。ホームステイで実際にアメリカの人と同じ生活をするにより、文化も学べると考えました。帰国後すぐに英語の検定試験を受けることを考えていたので、夏休みに活きた英語を学びに行くことは、いい経験と勉強になるなと考えました。また、私は三年次からの編入学生だったため、単位が少し少ないので学部プログラムのため単位が出るということも動機の一つです。

【日常生活について】

平日は、朝から夕方までポートランド州立大学で他大学生と一緒に授業を受け夕方からはダウンタウンで買い物をしたり、夕食を食べに行ったりして過ごしました。

週末は、ホストファミリーと過ごしたり友達と観光に行ったりして過ごしました。私のホストファミリーは、60代の夫婦で食にこだわっているお家でした。

朝は、自分で支度して食べていました。昼食は、前日の夕食の残りを持って行くか、大学の近くのフードカー



休日にサタデーマーケットに訪れた時

で買って食べていました。

ホストファミリーは、買い物や観光、映画に連れて行ってくれました。基本的に、食事は支払ってくれますがその他は、自分で支払いをしていました。アメリカでは、ハッピーアワーで食事やお酒を飲むと安くなるので、ホストファミリーはよくハッピーアワーに連れて行ってくれていました。

私のステイ先の隣は、同じプログラムで他大学からきている学生がステイしていたため隣のお家でパーティーしてアメリカの生活を体験できました。隣に、同じプログラムの子がいたので通学のバスなども一緒に楽しかったです。

お金は、基本クレジットカードを使っていましたがコンビニや少額の買い物時は、現金を使っていました。現金は、毎回全額持ち歩くのではなく大体は、ホームステイ先に置いておきました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修先では、他大学の学生とも交流が出来て交友の輪が広がりました。ホームステイをすることによりアメリカのリアルな生活を体験できました。ステイ先の家族にも恵まれ日々英語を話す中で、成長していることが実感できました。今後は、就職活動に向けて学生生活を送ることになりますが今回の経験を就職活動にも役立てていきたいなと思います。英語検定のスコアアップを目指し継続した英語の学習を続けたいです。



他大学生とのランチ

【韓国 (第 4 回)】

慶熙大学校 (インターカルチャー研修)

1. 研修概要

- | | |
|---------|---|
| 1. 研修先 | 韓国 慶熙大学校 |
| 2. 研修期間 | 2018 年 9 月 4 日 (火) ~2018 年 9 月 11 日 (火) |
| 3. 授業形態 | 語学研修、日本語学科生との交流、韓国文化体験 |
| 4. 滞在方法 | 学生寮 |
| 5. 概算費用 | 学費、滞在費、旅費など 約 192,600 円 |

2. 日程

- | | |
|--------------|--|
| 9 月 4 日 (火) | 羽田発 金浦着
空港から慶熙大学校国際キャンパスへ移動
入校式、オリエンテーション |
| 9 月 5 日 (水) | 授業開始
午前：韓国語授業
午後：テコンドー、K-POP ダンス、日本語学科生との交流等 |
| 9 月 9 日 (日) | 終日 ソウル市内視察 |
| 9 月 10 日 (月) | 午後：修了式 |
| 9 月 11 日 (火) | 慶熙大学校国際キャンパスよりバスにて金浦空港へ
金浦発
羽田着、通関後解散 |

3. 参加者名簿

氏名	学年	学部	学科	氏名	学年	学部	学科
高橋 加奈枝	1	商	国際ビジネス	松本 明日香	2	商	国際ビジネス
松原 由佳	1	商	会計	佐藤 瑠美	2	政経	法律政治
酒井 瞳	1	政経	経済	渡部 優希	2	政経	法律政治
工藤 風太	2	商	国際ビジネス	齋藤 公基	2	政経	経済
佐賀 朱夏	2	商	国際ビジネス	杉山 哲也	2	政経	経済
杉岡 美咲	2	商	国際ビジネス	高橋 恒陽	3	政経	経済

※学年は研修参加時のもの

高橋 加奈枝 商学部 国際ビジネス学科 1年

山形県立米沢商業高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



大学の門

韓国インターカルチャー研修

【研修生活について】

研修の内容としては、韓国語の授業とテコンドー、K-pop ダンス、サムソンイノベーション見学を行いました。大学での韓国語の授業では、韓国語の発音の練習から入り簡単な会話や文法を習いました。難易度としては、1年生の前期に習った韓国語の授業よりも授業内容が進んでいて少し難しく感じました。2年生の先輩方はすでに習った内容だったため復習のようなものだったのですが、個人的には2年生の時期に行くのがオススメです。テコンドーの授業では、短い時間の中で覚えることが多く大変でしたが、韓国の伝統的なスポーツを実際に体験することができました。K-pop ダンスでは、MOMOLAND のプンプムを踊りました。ダンスが得意ではなかったため、不安の方が大きかったのですが、先生が親身になって教えてくださったのでとても楽しんで踊ることができました。この研修は、1週間と短い期間ですが、いろいろなプログラムが組まれているため、1日1日をとても充実した日々を送ることができました。また、韓国の人との交流があったため韓国人の友達を作ることができました。

【日常生活について】

宿泊施設はネオビルというワンルーム型の一人部屋でした。部屋の中には、TV、WIFI、冷蔵庫などがあり1週間過ごすには十分な設備が整っていました。しかし、部屋によってはTVとWIFIが使えなかったためWIFIはレンタルして持って行く事をお勧めします。韓国の街並みと日本の街並みとはそれほど違いは見受けられませんが、ネオンの看板が多くあるという印象を受

けました。また、ネオビルの周辺には、ショッピングモールやカフェなどの飲食店が多くありそのほとんどが夜遅くまで営業していました。そのため、門限である10時まで時間にカフェや周辺のお店を回って化粧品や飲食を買ったりと自由時間を有効活用できました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して、いろんな視点から物事を見る力や相手の事を理解しようとする力がとても大切なことに改めて気づきました。また、日本語学科生やヌリボとの交流で韓国人の友達を作ることができたことがこの研修で一番の収穫だと思いました。旅行だけだと、街で韓国語を聞いたり、買い物をしたり、韓国の街並み、チマチョゴリを着て異文化体験をすることはできます。しかし、この研修では実際に韓国の大学で勉強し学食を食べたり、韓国人学生との交流やサムソンイノベーションの見学など、旅行では体験し難いことができるため多くのものが得られました。その反面、発音の悪さや語彙力の無さから、自分の伝えたいことがうまく伝わらずもどかしい思いをしたり、落胆したりもしました。そのため、今後はより韓国語の勉強に力を入れ、ハングル検定取得を目指し、韓国にいる友達と会話をして自分の語学力伸ばして行きたいと思います。また、色々な国の文化や言葉に触れてみたいので学生のうちに異文化についてや語学について学び、韓国だけでなく他の国にも実際に行ってみてみたいと思いました。

それらを通して、いろんな力を身につけて将来は国内外問わず活躍できるような人になりたいです。



皆と一緒にチマチョゴリ



ソウルでの1枚

松原 由佳 商学部 会計学科 1年

神奈川県横須賀市立横須賀総合高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



皆で着たチマチョゴリ

韓国インターカルチャー研修

【研修参加の動機について】

私が初めて海外に行ったのは高校の修学旅行でした。国はシンガポールでした。その際、私のつたない英語でも現地の人に通じ、とても親切にしてもらいました。修学旅行に行くまでは、海外には一生行かなくても良いと思っていましたが、実際に行ってみて変わりました。他の国や、英語以外の言語が公用語の国にも行って見たいと思うようになりました。そんなときに、この韓国インターカルチャー研修を拓殖大学のホームページで見つけました。私は第二言語の授業で韓国語を選択していたのでちょうど良いと思いました。期間も一週間で、ホームステイではなく一人部屋なので他の留学に比べ、気が楽だとも思っていました。また、K-POPが好きなので韓国語は小学生のころから聞いていて耳なじみがありました。さらに、興味もあったためこのインターカルチャー研修に参加しました。

【研修生活について】

昨年のインターカルチャー研修に参加した先輩方からは、テストや授業は簡単だと聞いていました。必修の韓国語の授業が理解できれば大丈夫だと聞いていたので安心して今回のインターカルチャー研修に参加しました。しかし、必修の授業のみの知識では賄えないくらい難しかったです。私が1年で、授業を4ヶ月ほどしか受けて

なかったというのも理由のひとつだと思います。授業内容としては、午後のプログラムにまつわる文に使われている文法や、定型文についてでした。例としては、午後にショッピングのプログラムがあったに日は、「これは何円ですか？」などの定型文やこの文に使用されている文法や単語について学びました。そして、授業は基本、韓国語で行われました。初日は何を言っているのかわからず、一語一語集中して聞き、どういう意味なのか考えていたのでとても疲れました。しかし、日がたつにつれ、先生が言っていることが理解できるようになってきました。だんだん理解できるようになるのはとても楽しかったです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

一週間韓国で生活してみて、韓国語をすらすらと話すことはできないけれど、相手が話していることの意味は雰囲気で見分けるようになっていきました。それは、とても楽しくて、自分が成長していることが直に分かりました。またこのような体験がしたいと思います。なので、また韓国への留学ができるのであればしてみたいです。今回は異文化体験がメインなプログラムに感じたので、次回は、語学に力を入れて、更なる理解を深められるようにしたいです。



初めて食べたサムギョプサル



本場のチヂミ

酒井 瞳 政経学部 経済学科 1年

青森県立八戸高等学校出身

2018.4 拓殖大学入学

2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



キョンヒ大学での授業の様子

韓国での経験

【研修参加の動機について】

わたしは、韓国がもともと好きで韓国語を専攻しています。姉も同じ大学で韓国語を専攻していて、一年生でこのインターカルチャー研修に参加していました。その経験を聞いて、私は海外経験がなかったのですが、絶対このプログラムに参加したいと思っていました。姉から一年生のうちに行くことを進められたので、この機会に海外経験ができるし、好きな韓国について知ることができるいいチャンスだと思い、今回行くことを決めました。

おすすめの参加学年については、去年行った先輩方は現地の授業は簡単だったとおっしゃっていましたが、今年は難しく、一年生には少しきつかったかなと思うので、2年生で行くと授業に余裕を持てるという点では、2年生で行くことをおすすめします。でも、1年生で行ってもとても楽しく、交友の輪が広がり、さらには研修に参加していない人よりも学習意欲が向上するので、勉学において周りと差がつけられると思うので、1年生で行ってみるのもとてもいい経験になると思います。ハングルを読めないと大学の授業や最後のソウル観光報告が大変だと感じました。韓国語を専攻していない人は、あらかじめ読めるように、自己紹介や挨拶はできるようにしたいと思います。



キョンヒ大学正門

【日常生活について】

韓国はトイレットペーパーを流してはいけないと聞いていましたが、現在はもう流せるトイレが多くなっていて、流しても平気でした。また、宿泊施設のシャワールームとトイレが同じ部屋にあることに最初はみんな戸惑い、シャワーを浴びるのに抵抗がありましたが、一回浴びてしまえば私は慣れて平気でした。これも韓国の文化だと思って生活しました。食事の面では、お皿を持って食べるのはやはり下品だという文化がある日本語学科の人たちに聞いたので、学食や外食のときなど、意識して食べるようにしました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、文化の違いを実際に体験でき、学習意欲の向上と海外への視野が広がりました。旅行では体感できないような文化体験ができ、違う国の文化を理解し、自分もその文化の中で生活できて、経験が増えてとても良かったです。また、日本語学科の人たちの日本語のうまさに圧倒され、自分も韓国語を頑張らなきゃと刺激されたし、韓国語ができるようになってからまた来たら分かることが増えてもっと楽しいだろうなと思い、今後の授業をより充実させ、上達するように頑張ろうと強く思いました。

今回が初めての海外経験でしたが、海外への留学がしたいと思いました。



日本語学科の方たちとの交流

工藤 風太 商学部 国際ビジネス学科 2年

私立東京学館高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



集合写真

韓国インターカルチャー研修を終えて

【研修国・地域の紹介について】

日本との相違点

季節：9月は日本より湿度が低く涼しい、夜は肌寒い。
文化：日本よりも上下関係がはっきりしている。コンビニのレジ袋が有料。

服装：男子は短い半ズボンにだぼっとしたTシャツに髪型はマッシュルームヘアがほとんど。女子は赤リップ。

食べ物：基本的に赤い。大学の食堂では毎食キムチが出てくる。これが一番辛い。韓国は日本に比べると飲食店の値段が安くて量が多いので良い。カフェなども安い。スタバは日本より高い。

街並：日本に比べると道が汚い。

研修先のキョンヒ大学がある水原市はソウルから車で1時間ほどの場所にあり、私たちが泊まったコシテルからは歩いて5分くらいでした。水原市は毎日賑やかで曜日に関係なく夜中まで飲んでる人の声がしていました。

キョンヒ大学はとても広く正門を入ってから教室に行くまでに5分くらいかかるので驚きました。大学構内の寮の1階に売店が多くあり生活していて足りないものや必要になったものを買うことができます。

私たち研修生はキョンヒ大学の外国人学生専用の教室棟で勉強をします。

【研修生活について】

1週間という短いプログラムなので比較的タイトなスケジュールになっています。

午前4時間韓国語の授業をして、午後はキョンヒ大学の日本語学科の学生たちと交流したり、文化体験授業としてテコンドーやK-POPダンスの授業をします。

韓国語の授業自体の難易度は低いと思います。しかし授業は韓国語だけで行うため説明も韓国語なのである程度韓国語の知識や韓国語に慣れていたほうがスムーズに授業に入れると思います。今年の研修では韓国語を履修している1年生が3人と韓国語を履修していない3年生が1人いましたがその4人は少し大変そうでした。1年生ではまだ習っていないところも授業では出ていたので

そこが厳しいかなと感じました。でもみんな日を過ごすことに慣れてきていました。そんな事も踏まえ私はこのインターカルチャー研修は2年生の時に行くのがベストではないかと思っています。なぜならキョンヒ大学で受ける授業は2年の前期までに習ったものが多いからです。日本で1度習ったものなので韓国語で説明されてもスムーズに理解することができ、その上先生の言葉の言い回しなども聞き取ることができすごく実りある授業になると思うからです。

水原華城やサムスンイノベーションミュージアムの見学はこの研修ならではの経験ができると思います。

日本語学科の学生達との交流会はとても楽しかったです。日本との共通点や違うところなどいろいろな話をするのができみんな同年代なのですごくフレンドリーに過ごすことができました。夕食と一緒に食べてそのあとはカラオケに行きました。そこでSNSなどを交換し合い今でも交流を持っています。

この研修は1週間という短い期間なので全てに積極的に行動することが大事だと思いました。

一緒に応募する友達がいなくても大丈夫！海外に行くと日本人の謎の団結力が生まれてびっくりするくらい仲良くなります。なので韓国語を履修して少し留学に興味を持っている人がいたら是非参加してみてください。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して得たことは多くあり、それは日本にいてだけでは決して得ることができなかったことだと思います。日本で当たり前なことが韓国では当たり前じゃなかったり、その逆もあって、でもそれに慣れていかなければいけない。その辺の適応能力は1週間ではありませんが身についたものだと思います。環境を大きく変えることで身につく力もあると思います。

今後日本ではハングル検定にチャレンジしてみようと考えています。もう一度韓国に留学してみたいと考えています。そして将来は韓国関係の仕事に就職したいと思っています。



授業の様子



チマチョゴリ体験

佐賀 朱夏 商学部 国際ビジネス学科 2年

茨城県立水海道第二高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



授業中の様子

インターカルチャーでしかできないこと

【研修参加の動機について】

韓国のインターカルチャー研修の参加を希望したのは、まず、私の第二外国語が韓国語だったことです。また、韓国は近くて行きやすく、もともと韓国のコスメや服に興味があったので参加を希望しました。一年生の時にこのインターカルチャーを知って、その時から二年生になったら行こう！と決めていました。二年生になってからの方が韓国語に慣れていて研修の準備も十分にあるのでオススメです。事前研修にて韓国についての調査、安全に渡航するための危機管理講座、旅行会社からの注意点など研修に必要なことを行います。また、現地に必要な言葉を事前に学習します。この研修は異国に行くことで異文化を体験したり、海外へ踏み出す手助けみたいなものなので、もちろん韓国語を履修していなくても問題はありません。韓国語が必修でない人は選択外国科目の初級韓国語という科目があるのでそれを履修することができます。もし、カルチャー研修を充実なものにするなら韓国語を履修していた方がいいです。少しでも韓国語に触れていた方が現地の先生やスタッフとの距離が縮まります。

【日常生活について】

韓国研修での宿泊施設はネオビルという一人一部屋のコシテルに宿泊していました。大学から10分ほどのところにあり、11階建ての建物です。屋上にはキッチンがあり、自分の食べたいものを自由に作ることができます。白米とキムチは常に置いてあってこれも自由に食べることができます。22時までにはネオビルにいないで行きたい場所があるなら事前に調べるこ

とをお勧めします。大学の日本語学科生との交流では、私たちの疑問に思った韓国のテーマを基にグループごとで交流をしました。韓国語が必要にならないくらい日本語が話せているので、あまり時間がかからず仲良くなることができました。そして、連絡先を交換し今でも連絡を取り合っています。ソウル観光では、トウミという身の回りのお世話をしてくれる人が案内してくれて、買い物の仕方やお金の払い方など教えてくれました。海外では貴重品の管理はとても大事になってくるので、トイレなどちょっとした所へ行く時も友達には頼まず、必ず持って自分で管理することが大切だと感じました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

海外で一週間生活することで、日本とは違う文化や生活様式を学ぶことができました。また、海外で語学の授業を受けることで普段使わない聞き取る力や理解力が高まったのではないかと感じます。研修先での間、教えてもらった言葉を使って友達同士と簡単な会話をしていました。それがとても楽しかったし、積極的に話すことで言葉を覚えることができました。また、韓国の先生や友達ともっと話をしたいと思い、単語力を身に付けたいと強く思いました。語学力向上に向けてこれからの韓国語の授業や検定に力を入れていきたいです。三年生になっても語学では韓国語を学びたいと思っています。そして、この研修を通して留学に興味を持つきっかけとなりました。韓国だけではなくいろいろな国にもいき、それぞれの良いところを見つけていきたいです。



テコンドー体験の様子



TASK 活動の様子

杉岡 美咲 商学部 国際ビジネス学科 2年

埼玉県立深谷商業高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



ソウル観光

韓国での生活

【研修生活について】

授業は、カン先生とチョ先生が担当してくれました。カン先生の授業は全て韓国語でした。私は、韓国語がそんなに得意ではなかったので最初のほうは意味を理解するのが大変で1週間授業についていけないのか不安だったけれど、カン先生がジェスチャーを入れてくれたりゆっくりと話してくれたりしたので、だんだんとわかるようになってきてどんどん授業が楽しくなっていました。わからないことがわかるようになって嬉しくてやる気も出てきました。チョ先生の授業は、チョ先生が翻訳サイトで調べてくれたりして日本語が混ざった授業でした。チョ先生がわかりやすく韓国語を教えてくれて、私たちはチョ先生の日本語が合っているかを言ったりして今までには受けたことがない授業でとても楽しかったです。韓国語の授業であんなに笑ったのは初めてです。

最後のほうにやった、韓国語の単語をジェスチャーで次の人に伝えて最後の人が何の単語かを当てるゲームは、単語の意味がわからないといけないし、答える人も単語がわからないといけないし、わからなくても体で表現するので覚えやすいし、とても楽しく覚えられるのでいつかまたやりたいなと思いました。韓国語が苦手でも、楽しめるし、韓国語が好きになる授業でした。

【日常生活について】

宿舎は一人部屋で、狭いけれど慣れれば落ち着く部屋でした。しかし、トイレとお風呂が同じ空間にあって、バスタブもないためシャワーを浴びるとトイレも水浸しになるのでそこが慣れませんでした。また、シャワーとトイレのドアがガラス張りでスケスケなのに、部屋を開けるための暗証番号は全員同じだったのでひやひやしま

した。宿舎の屋上に集まってみんなで話しをしたりするのがとても楽しかったです。キョンヒ大学の日本語学科の方や、ヌリポックの方も全員優しく、韓国の事や日本の事その他たくさんの事を話し仲よくなることができました。日本語で話してくれるので助かりました。わからない韓国語があると教えてくれて観光しながらも勉強になるので嬉しかったです。連絡先も交換してくれました。お金はソウル観光の日まで両替することが難しいので、日本で両替したほうが良いと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は、韓国語が苦手です。勉強も単位をとるためにやっていました。韓国語を履修したのも一番簡単と聞いたからでした。しかし、今回韓国に初めて行って、韓国人の方とたくさん交流して、韓国語をもっと上達させて、韓国語で会話ができるようになりたいと思いました。また、店でも伝わらないことが多々あったので、コミュニケーションがとれるようになりたいと思いました。なので、今までの単位を取るためだけの勉強ではなく、韓国に行った時に話することができるようになる勉強方法に変えようと思います。韓国語が好きになれたし、やる気が出ました。また、日本の文化との違いがありましたが、日本が当たり前という考えを変えていこうとも思えました。進路はまだはっきりとは決められませんが、今回の研修は何らかの形で役に立つと考えています。韓国と日本は近いので、学校の授業や授業外でも韓国語が使える環境があったら積極的に韓国語を話して、上達してからまた行きたいと思います。



カン先生授業



チョ先生授業

松本 明日香 商学部 国際ビジネス学科 2年

埼玉県立 坂戸高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



クラスのみんな

インターカルチャー研修を通して

【研修生活について】

まず最初に、授業について書きます。簡単な挨拶から、お店などで使える台詞などを主に教えてもらいました。授業の難易度は韓国語に触れたことがない人にとっては少し難しいところもあると感じましたが、先生がゆっくり丁寧に教えてくれるのでそんなに心配は要らないと思います。また、今回のプログラムは文化体験が沢山あるので、授業の時間は短いです。なので、あまり授業が好きではない人でも、楽しむことができると思います。

予習については、韓国語を全く知らない人は、ハンゲルが読めるようにしておく、とすごく楽だと思います。また、復習は、時々宿題を出されたので、その宿題だけちゃんとやりました。予定がすごく詰まっているプログラムなので、眠くて復習は出来ないと思います。

今回のプログラムは、語学よりも文化体験がメインなので、テコンドー、k-pop ダンス、韓紙工芸など本当に沢山の体験授業があります。私が1番楽しかったのはk-pop ダンスでした。2時間だけしか時間はありませんでしたが、みんなでMOMOLANDのBoom Boomを踊りました。テンポが速かったので少し難しかったです。とても楽しかったです。因みに、何の曲を踊るのは、直前まで分からないです…。

【日常生活について】

滞在先は、学校と道を挟んだ反対側の大学の寮です。学校までは、近いので便利でしたが、部屋はすごく狭い

です。部屋によって少し狭かったり、wifiが使えなかったりするので、運次第です。また、トイレとシャワーが一緒に、カーテンなどで仕切られてもいないので、シャワーを使うと、トイレまでびしょびしょになります。ですが、テレビも冷蔵庫もクーラーも付いているので、とりあえず生活には困らないと思います。屋上には洗濯機や乾燥機、キッチンも付いていて、自由に使うことができます。

現地での決まりごとは、1人では出歩かないこと、10時までには寮に帰ってくる、お酒は飲まないということでした。お金は、お土産の分、ソウル観光の1日分、後はコンビニやスーパーなどで少し買うぐらいで、ほとんど使う機会がないのでそんなに持っていかなくても、充分もつと思いました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修では、沢山の文化体験を体験できたこと、韓国という国についてより深く知ることができました。また、日本語学科の学生やトウミの人達との交流によって、現地の友達をつくることができたのは本当に良かったです。1週間と短い期間ですが、すごく内容が濃いので、沢山のことを得ることができました。

今後は、大学で授業を受け、ハンゲル検定を受けようと考えています。また、長期の留学に挑戦し、より深く韓国語を学びたいと思っています。



みんなで韓服



みんなでチキン

佐藤 瑠美 政経学部 法律政治学科 2年

私立豊南高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



授業の様子

韓国インターカルチャー研修

【動機と研修参加のタイミングについて】

韓国を選んだ動機は、中学二年生の頃からk-popが好きで、大学に入学する時に第二外国語で韓国語を履修し、一年を経てもっと韓国語を勉強したいと思い、今回の韓国のインターカルチャー研修に参加したいと思いました。

研修に行くおすすめの学年は1、2年生だと思います。人それぞれだと思いますが、春休みにある1ヶ月の研修を考えているのであれば、1年生の時に行くのがおすすめです。「自分はまだ韓国語が分からないし、自信がない」という人は、一年勉強してから研修に参加するのも遅くはないと思います。実際、私は2年生で参加しましたが、1年間勉強したおかげか、授業にはついていきました。先生がゆっくり話してくれるおかげもあります。

【韓国について】

私たちがいたスウォン市は少し田舎で、ソウルからスウォンに行くのに高速道路を使うのですが、その高速道路が広いと感じました。日本とは違い右側通行で違和感を感じました。団地と高層マンションを足して割った感じのマンションがたくさんあり、色んな角度で立っており、日当たりの関係かなと思いました。マンションに一つ一つ名前があり、全部ハングルで書かれていると思っ

たら、漢字で書いてあるところもありました。キョンヒ大学の近くにはカフェがちらほらあり、値段も安く24時間営業のカフェもありました。スターバックスもありましたが、日本よりも値段が高く、人があまりいないという印象でした。寮の立地もよく、寮の裏にコンビニで斜め前にはカフェがあり、10分歩くと大型スーパーもあり、過ごすにはあまり不便がありませんでした。

韓国の方はせっかちな人が多いためか、歩くのも速いし、信号も変わるのが早かったです。ソウル観光でバスに乗ったのですが、皆停留所に着く前に席を立ち、ドアの前で待っていました。出発するのも早く危ないと感じました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、視野が広がったことと物の見方が変わったことです。キョンヒ大学に勤務されている拓殖大学のOBの先生と今後の進路について少し話し合ったり、先生自身の話を聞いて感銘を受け、「こんな生き方もあるんだな」と人生について学ぶこともありました。今回この研修に参加していなければ視野が広がることもなかったと思います。学生生活の影響は一緒に参加した友人とは、覚えたことを忘れないようになるべく韓国語で話すようになりました。



チマチョゴリ



ソウル観光

渡部 優希 政経学部 法律政治学科 2年

千葉県立船橋啓明高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



授業風景

韓国インターカルチャー研修

【研修参加の動機について】

私がこの韓国インターカルチャー研修に参加した理由はいくつかあります。1点目は、大学の第二外国語の授業で韓国語を履修していたからです。単に大学の卒業に必要な単位を獲得するために勉強するのではなく、折角学んだのだから学んだ知識を何かに生かしたい、また更に知識・語学力を向上させたいと思いこの研修に参加しました。

2点目は、海外に1度も行ったことが無かったからです。大学生であるうちに1度でも海外に行ってみたいと思っていた時に丁度この研修の存在を知り、参加しました。3点目は、最近日本との領土問題や北朝鮮との南北問題等の外交問題、またK-POPや韓流ドラマ等の韓流ブームが理由で韓国についてのニュースをよく見かけるようになり、韓国の事情や文化をもっと知りたいと思い参加しました。

私は、9月に研修に参加しました。9月の韓国の気候は日本と少し異なり、30℃を超える日は少なく20~25℃くらいの日が続き比較的過ごし易かったです。朝晩は昼間とは異なり、冷え込むことがありました。韓国では夏は日本と同じくらい暑いですが、冬は気温が氷点下になるくらい寒いです。ですから、日本と同じく春と秋が過ごし易いようです。

私は、2年生にこの研修に参加しました。私は、2年生にこの研修に参加することを推奨します。理由は、1年生は韓国語を学んでから日が浅いので知識が浅く、授業や日常会話で少し苦勞すると思うからです。3~4年生は、就職のための勉強や就職活動で忙しいと思うからです。また、研修前の準備としてハングル検定(4~5級)を取得していると良いと思います。



スーパーマーケットでTASK活動

【研修生活について】

研修中は、ほぼ毎日授業がありました。授業は韓国人の先生が韓国語だけを話して行っていました。ジェスチャーを交えながら授業をして下さったのでわかり易かったです。授業内容は、ハングルの基礎を学ぶことから始まりましたが、後半は学んだ文法を使って文章を書く等の応用的なこともしました。分からないこともありましたが、研修に参加している他のメンバーと助け合ったりトウミ(学生アシスタント)の人達に教えてもらったりして解決していました。そのおかげで他のメンバーやトウミの人達と仲良くなる事が出来ました。その他にも、国技のテコンドーやK-POPダンスを体験したり、水原の華城や大企業の三星(サムスン)イノベーションセンターを見学しました。いずれも研修に参加しなければ体験できないことですので体験出来て非常に良かったです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は、研修に参加した他のメンバーやトウミの人達と沢山会話したおかげで以前よりコミュニケーション能力が上昇したと感じました。韓国語の勉強不足のせいで現地の人と上手く意思疎通が出来ない場面が多かったので、もっと韓国語を勉強しようと思うようになりました。また、韓国人は相手にはっきりと意思を伝える、日本以上に目上の人(特に両親)へ丁寧に敬意を払う等の日本と異なる文化・国民性を知り、改めて異なる文化を理解し尊重していこうと思いました。再び海外に行く機会があるならば、この研修を通して学んだことを生かしたいです。



正門前での集合写真

齋藤 公基 政経学部 経済学科 2年

拓殖大学紅陵高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



キョンヒ大学全体写真

韓国インターカルチャー研修

【研修参加の動機について】

私がこの韓国インターカルチャーに参加した動機は、私の母が韓国人であり、よく韓国に叔母に会うために韓国に旅行に行っていたのですが、留学として韓国に行ることがなくて、行ってみたいと思ったのが最初の動機です。

留学で行くのと旅行として行くのとではまったく違うことだと思い、実際行ってみて結果旅行ではできないことなどもできました。

班の渡邊君、杉山君に韓国インターカルチャーを誘われたのもひとつの動機です。

第二外国語で韓国語をとっているのですが、会話など丁寧文などを習っているのですが、普段気軽に友達とのコミュニケーションでどんな感じで会話しているのか興味があったので、留学にいったら現地の大学生と会話したりご飯を食べたりしたいと思い、人脈を増やしたいと思い留学しました。

【研修生活について】

研修生活で、基本朝6時30分に起きて8時に朝ごはんを食べて9時から授業という感じで、終わりが13時でそのあと韓国の文化体験などをしました。二日目はテコンドーをやり基本動作を学ぶことができ、空手を少しやったことがあったので違いなどテコンドーの良さを知ることができました。

韓国で1週間生活してみて思ったことは毎朝キムチができて、日本と違いかなり辛くおいしかったです。あ

とは日本と違いトイレとお風呂場が一緒のところがあり少し抵抗がありました。お店などは日本と違い物価が安く日本でお昼をお店で食べると1000円くらいしますが韓国では500円でおなかいっぱい食べることができます。しかし韓国のスターバックスは日本のスターバックスより200円ほど高かったです。

生活してみて日本を基準にして海外で生活してはいけないとおもいました。留学先の北内先生も同じことをいってました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回研修を通し得たことは、まず留学先のキョンヒ大学の学生、先生と交流でき人脈を広げることができました。

今でもメールなどしたり、今度日本に来るとき日本を案内する約束などもしました。

他にも韓国の文化を知れることができ、韓国の宮廷などにいき昔の韓国の文化をすることができ、韓国の民族衣装チマチョゴリ、パジチョゴリを着ることができました。日本の浴衣、着物とは違いきらきらしてました。

会話などでも丁寧文でなく気軽なコミュニケーションなど学ぶことができました。

今後は韓国語検定5級を受け、3年生までには3級とりたいと思いました。

進路などでも韓国語をうまく活用できるところで働きたいと思いました。



授業の様子



修了式後

杉山 哲也 政経学部 経済学科 2年

拓殖大学紅陵高等学校出身

2017.4 拓殖大学入学

2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



学校での集合写真

韓国インターカルチャー研修を通して経験した事

【研修参加の動機について】

私は、第二外国語で韓国語を履修しており勉強していくうちに、実際に韓国に行って現地の方々とコミュニケーションをとってみたいと考えたのと、私自身海外はなんとなく怖いという先入観があり中々行く勇気がでてこなかったのですが、韓国のインターカルチャー研修は初めて海外に初めて行く人でも気軽に参加できるプログラムという事もあり参加することにしたのです。研修に参加するおすすめの学年としては、3.4年生は就職活動が本格的に始まるという事もあるので、1.2年生のうちに挑戦したほうがいいのではないかと思います。また、1.2年生のうちに韓国のインターカルチャーに参加して、もう1度海外に行って勉強したいと考えた時に、2回目の海外留学は3.4年生よりも時間があるのでチャレンジしやすいのではないかと思います。研修に参加する前の準備としては、やはり事前に、韓国語を履修して勉強するか独学しておく、現地の方々とコミュニケーションをとることができて研修がより実りのあるものになると思います。しかし、今回の研修に参加した先輩で韓国語を履修していなく、海外にまだ行ったことがないので挑戦してみようという事で現地に行って一生懸命勉強をした結果、簡単な日常会話を話せるぐらいの、レベルになっていてもっと勉強してハングル検定を受けてみたいというのを見聞して、学生でしか挑戦できない海外留学を、少しでも興味があれば挑戦してみる事が大事だと感じました。

【日常生活について】

生活するうえで、私が日本とは違うなと感じたのは、トイレットペーパーを流せないトイレが存在していたことや、お店のレジで働いている人が、椅子に座って接客していたこと、車の通行が右側車線で車のスピードが速いのと、路上駐車が多い事には隣国の韓国と日本で違うことがたくさんあるなど感じとても驚きました。

食事の面では、大学の学食では辛い物やお肉料理が多くだされました。韓国の食事で1番おいしかったのは、放課後に食べに行ったお店で出されたユッケのお刺身です。日本ではほとんど食べる事がないので食べる事ができて良かったです。また、ホームプラスというスーパーに行ったのですが、カートがとても大きい事や、お菓子の量や食品の1袋の量がとても多い事など、日本のスーパーと違うところが多い事に驚きました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して海外の人達と一緒に仕事が出来たという気持ちが高まってきたなど将来の進路の視野が広がったりするなど、研修に参加して得たことがたくさんあったのでとても充実した生活ができたと思います。また今後の学校生活や日常生活などで外国人の方などを見かけたら、積極的にコミュニケーションをとっていく事や、語学の勉強をより一層頑張っていきたいと思っています。



テコンドー



華城での集合写真

高橋 恒陽 政経学部 経済学科 3年

岩手県立盛岡北高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.9 韓国インターカルチャー研修参加



集合写真

韓国インターカルチャー研修

【研修参加の動機について】

私が研修に参加した動機は、一度も海外経験がなかったため留学に対して強い憧れがあったからです。なかでも韓国は日本とも深いつながりがあり、かつ初海外である私にとって負担が少ない国でした。条件を満たす研修は韓国インターカルチャー研修だけであったため志望しました。

このプログラムは、韓国語履修者でなくても参加可能なプログラムです。また、韓国語の授業だけでなく、異文化体験にも重点を置いています。韓国語を話すことができないからといって参加を諦めることはありません。第二外国語で韓国語を履修していない私でしたが、村上祥子教授や国際課のサポートがあり留学する前に基本的なハングルの読み書きや会話を身につけることができました。もちろん不安なこともたくさんありましたが、出発前に研修があったため安心して日本を発つことができました。

【日常生活について】

私たちが宿泊したのは学校外の寮でした。部屋は個室、基本土足で、ベッド、机、トイレ、シャワー、冷蔵庫、テレビ、それからWi-Fiと快適に過ごすことができました。コンセントは日本型ではないため別売りの変換プラグを買う必要はありますが、大学生協で販売されているため生活で特に困ることはありませんでした。

しかしながら、水道水は飲むことができないため、寮の屋上にある浄水器から水を汲む、あるいは購入しなければなりません。誤って水道水を飲んでしまいましたが、少量かつ硬水ですぐに気づくことができたため

体を壊すまでには至りませんでした。基本的に摂取すると腹を下す場合があるためおすすめはできません。

食事は学食がメインでした。毎食キムチや青唐辛子といった辛い食べ物・脂っこい肉料理が提供されるため、注意する必要がありました。しかし、3日もすれば慣れます。私は辛い食べ物が苦手ですが、最終日には克服していました。

買い物は寮の立地がとてもよかったため、なんでも調達することができました。韓国語を話すことができなくてもジェスチャーや表情を用いて伝えることで店員とコミュニケーションがとれます。日本円と韓国ウォンはほとんど価値が同じです。また、数字で価格が表記されているためお金のトラブルは特に発生しませんでした。韓国はキャッシュレス社会であり、おもにクレジットカードで買い物をする人が多いです。次回韓国を訪れる機会があればクレジットカードを使用して支払いたいと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

1週間という短い研修でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。私は思い込みで決めつけてしまう癖があります。韓国に対しても人種や距離が近かったため日本と同じようなイメージしかありませんでした。しかし、実際にその国を肌で感じたことにより自分の固定概念が覆され、価値観が変わりました。それは韓国のハングルや文化だけではなく、その土地の気候や自然、法律や経済、現地の先生・友人・同じ研修生との出会いによってもたらされたと思います。ハングルは研修だけで終わらせるつもりでいましたが、今後も勉強し資格を取りたいと思います。そして、韓国語が上達したうえでもう一度韓国を訪れ、お世話になった先生や友人たちと韓国語で話せる日が来ることを信じています。



韓国料理



買い物

【イギリス（第20回）】 ビート・ランゲージ・センター

1. 研修概要

1. 研修先 イギリス ビート・ランゲージ・センター
2. 研修期間 2018年8月4日～2018年9月2日
3. 授業形態 語学研修
4. 滞在方法 ホームステイ
5. 概算費用 学費、滞在費、旅費など 約470,000円

2. 日程

- 8月4日（土） 成田発 経由地ドーハ着
- 8月5日（日） ドーハ発 ロンドン着
専用車にてボーンマスへ移動、各ホームステイ先へ
- 8月6日（月） プレイスメントテスト、オリエンテーション
授業開始
- 9月1日（土） 授業終了
- 9月2日（日） ロンドン発 経由地ドーハ着 ドーハ発
成田着、通関後解散

3. 参加者名簿

氏名	学年	学部	学科
田畑 潤紀	1	商	国際ビジネス
及川 晃	3	政経	経済
松島 和孝	3	政経	経済
山川 美佳	3	政経	経済
廣田 将也	2	政経	経済

氏名	学年	学部	学科
海老原 真菜	2	外国語	英米語
畠山 彩季	2	外国語	英米語
川瀬 収悟	2	国際	国際
澄川 天音	2	国際	国際
竹下 琴乃	1	国際	国際

※学年は研修参加時のもの

田畑 潤紀 商学部 国際ビジネス学科 1年

東海大学付属望星高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



ホームステイ先

イギリス短期研修

【研修参加の動機について】

イギリスという国を選んだ動機は、将来イギリスで生活したいと強く思っていたのとイギリス文化に触れたかったからです。二次には長期留学をしたいと考えているので、自分の英語力がどれだけ足りないのかを知れる機会にもなると思っていたので参加しようと思いました。

自分は、1年で参加しました。周りは2、3年生が多かったですが僕はできるだけ早く参加することをお勧めします。早めに留学をすることで、自分の中の世界が広がり、いままで経験できなかったことにも挑戦でき、これからの大学生活は大きく変わっていくと思います。

【日常生活について】

自分は、ホームステイで4週間過ごしました。平日は、朝食と夕食が用意されています。土日は、三食用意されています。思っていたより、非常に美味しかったのでご飯の時間が毎日楽しみでした。

生活するうえで注意することは、知らない人が話しかけてきたり、急に物を渡してくることが非常に多いので気を張って行動することは大事だと思いました。

僕は、ホームステイ先に恵まれており、すぐに仲良くなることができ初日からほぼ毎日一緒に学校へ行くことができました。様々な国の方と仲良くなることのできたのでとても良かったです。英語が得意でなかったのが最初はコミュニケーションがうまくとれるか心配でしたが、そんな心配は実際に会話してみるとすぐに消えまし

た。英語が得意でないからみんな学びに来ているので全然気にする必要はありませんでした。授業が終わった後は、一人で映画を見に行ったり、仲良くなった友達とタウンセンターやランチをしたりととても充実した日々を送ることができました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を経験して、積極的になることができました。外国人の積極的な態度に最初はただただ驚かされるばかりでしたが、だんだんと自分も負けてられないと思うようになり積極的に発言ができるようになりました。英語力としては向上したと思いますが、ものすごくしたというわけではありません。最初の1週間に関しては、正直何を言っているのか全く分かりませんでした。しかし、だんだんと理解できるようになり先生や友達のジョークなどにも笑うことができるようになり、毎日が楽しくて仕方ありませんでした。

後悔したことは、もっと日本について勉強していけばよかったと思いました。外国人はみんな自分の国はどんな国なのかを説明できます。それだけでなく、日本のアニメが好き！という人がとても多く、もしかしたら自分よりも日本について知っているのではないかとおもえるくらい自分が勉強不足でした。

長期留学への関心がとても強くなっているので、それまでに今回のできたことできなかったことをきちんと整理して準備したいと思いました。



美術館



サッカー

及川 晃 政経学部 経済学科 3年

千葉県立土気高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



学校最終日

イギリス留学について

【研修国、地域の紹介について】

イギリスと日本の相違点はいくつかありました。イギリスはとても涼しく夏でもコートを着られるほどです。日本のような湿気が無く過ごしやすいです。食生活では日本の米の立ち位置で主食に芋が多く使われます。また、町に多くの教会があったのが印象的でした。習慣などその他についてはどちらも発展国なので大きな違いはなかったように感じました。

研修先のボーンマスは一言で言うと本当に良い場所でした。国内でも比較的治安が良く、安全に過ごせました。

また、海が近くリゾート地ということもあり観光客も沢山あり町に活気がありました。学校周辺は静かな住宅地の中で少し歩くとスーパーや飲食店は揃っているので生活に全く不自由のない最高の場所でした。私が通ったビートランゲージセンターはとても賑やかな学校で設備も整っていて先生方も親しみやすく勉強のしやすい環境でした。学生数も多すぎず少なすぎず良い環境でした。また、現地に日本人スタッフがいることで困った際の相談や現地の紹介など様々な面で助けて頂き、日本人がいることの心の余裕にも繋がりました。ボーンマスに滞在できて本当に満足です。

イギリスは歴史的建造物が多く街並が本当に綺麗でした。バッキンガム宮殿やビッグベン、ストーンヘンジなど、テレビで見たことのある光景を目の前にしてとても感動しました。また、ロンドン、オックスフォード、バースなどの観光地では暖かく接してくれる方多く良い国だと感じました。

【日常生活について】

私は3人家族のステイ先でした。生活は日本と同じような生活を送ることができ快適に過ごせました。食事も美味しく家も清潔でした。英語が上手く話せない自分にも優しく接してくれて様々なことに言葉で表せないほど感謝しています。私の誕生日には大きなケーキ、手紙、

プレゼントを用意してくれて感激しました。幸運な事に自分の誕生日がポートパーティーというとても思い出に残る1日でした。学校での生活では、賑やかな授業や毎晩のアクティビティなどのおかげで沢山の友達ができとても楽しかったです。特に、授業が同じだったサウジアラビア、タイなどの学生とはとても仲良くなり一緒に食事をしたりサッカーをしたり1ヶ月とは思えないほどのかけがえのない存在になりました。別れるのが非常に辛かったです。何気ない日常が良い思い出となりました。日常生活は友人関係やステイ先、学校生活、滞在した場所など全てを含め、最高の環境で研修を行うことが出来ました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、新しい環境での対応力と、英語に対する考え方の変化です。正直、今までは日本に住む上で英語が話せなくても害があるわけではないと思いきやあまり意欲はありませんでした。ですが今回の研修で英語でのコミュニケーションの楽しさを知り、もっと海外の方と接してみたいと強く感じました。研修中ではホストファミリーや友人の言っていることが聞き取れず悔しい思いを沢山しました。この経験から今後は学生生活も含め日常で英語に触れ勉強していこうと思います。また今回は1ヶ月と短期の研修だったので物足りなく感じたので若いうちに長期での留学をしたいと考えています。

進路はまだ決まっていないのですが、この経験を生かしてより一層英語に関する科目も含め力を入れていき、悔いのない学生生活を送ろうと考えています。

今回の研修は自分の人生にとってかけがえのない経験になりました。行かせてくれた親に本当に感謝しています。

間違いなく行って良かったと心の底から思っています。



クラスメンバー



ストーンヘンジと僕

松島 和孝 政経学部 経済学科 3年

私立東京学館高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



全体の写真

イギリス短期研修を終えて

【研修生活について】

まず研修生活についてですが、私の通っていた語学学校は閑静な住宅街の真ん中にあり、少し歩くと小さな繁華街となっており、スーパーやレストラン、バーなどもあってとても過ごしやすく勉学にも励みやすい位置にありました。

学校の授業は日本の授業とは違い、スピーキングが中心の授業なのでほかのクラスメイトともコミュニケーションが多く取れました。また、事前にクラス分けをしていたこともあり、自分のレベルにあった授業でした。

授業が終わってからもレクチャーなどといった交流の場を学校側が設けてくれているので異国文化との交流も多くあり、よりよく学ぶことができました。

語学学校には日本人の方が1人いらっしゃっていてテニスコートの予約や、週末のツアーの手配などもすべてやっていただいたのすごく助かったのと同時に、より充実した研修になったと思います。

【日常生活について】

今回のイギリス語学研修ではホームステイという形で、現地に住んでいる方のお宅に実際にお邪魔して生活しました。

私のホームステイ先はご年配のご夫婦で暮らしており、ホームメイトは私を含め5人いてとてもにぎやかでした。

生活様式は基本的には日本と変わりはありませんでしたが、靴を履きながら生活するという点に関してはやはり最初は抵抗がありました。

私はタバコを吸うのですが、同じホームメイトやご両親の方もタバコを吸うので、夕食が終わった後みんなで庭でタバコを吸う時間は何よりも好きでした。

シャワーや夕食の時間などは人数が多い分しっかりと決められていました。

またイギリスには公共のゴミ箱が多かった印象があります。町を歩いていても道路や歩道にごみは少なく、町の景観がよりいっそう綺麗に見えました。



クラスの写真

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修で私が得たこと、学んだことは、コミュニケーションによる気持ちの伝え方、また改めて英会話の難しさです。

海外の人は相手の目をよく見て話すのですが、あまりなれていない我々日本人は思わずドキッとしてしまいます、しかしこれが実はコミュニケーションの中ではとても大切であることを感じました。

自分の気持ちもより伝わりやすく、相手の目を見て話を聞くことによって相手の伝えたいこともより明確に理解できると思いました。

改めて英会話の難しさを書きましたが、現地の方がしゃべる英語やほかの国の人がしゃべる英語は、日本で勉強していた英語とはまるで違ったということでした。

これはホームステイをしていて感じたことなのですが、お母さんの喋る英語は聞き取れていてもお父さんの喋る英語は聞き取れないというものでした。それは英語と米語による違いだったのです。

私たち日本人が授業で聞いてきた英語は主にアメリカ英語だったのですが、実際に現地で話してみるとそこではイギリスの英語であり、ところどころ聞き取れない部分がありました。私はそれがとても悔しかったのを覚えています。その悔しさを胸に英会話というものについてこれからを学んでいこうと思いました。

今回の研修は「大学生のうちにやりたいことをやっておきたい。」という好奇心の元、志望した部分もあったのですが、その好奇心こそが大事であるということをも改めて理解することができました。

気になったものはなんでも挑戦してみる。そうすることによって自分の進みたい道ややりたいことなどが明確になってくると思います。

このことを胸にこれからの就活に望みたいと思いました。



ツーショット

山川 美佳 政経学部 経済学科 3年

都立拜島高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



ボートパーティー

イギリス短期研修

【研修参加の動機】

私は高校生の頃から大学生で留学に行きたいと思っていたので、留学制度が充実していた拓殖大学への進学を決めました。1年生か2年生のうちには行きたかったのですが、英語力に自信が無く、なんとなく先延ばしにしていたら3年生になっていました。私は新宿にあるカフェでアルバイトをしているのですが、新宿ということもあり海外から沢山のお客様がいらっしゃいます。しかし、注文は取れても上手くコミュニケーションが取れないことにいつも悔しさを感じていたことが留学に参加する大きなきっかけになりました。就職についても動き出さないといけないので少し迷いましたが参加して良かったと思っています。

【日常生活について】

私のホームステイ先は一人暮らしのおばあさんの家でした。イギリスに滞在した4週間の内の3週間はホームステイ先にいる留学生が私だけでした。はじめてホームステイ先に言った時に鍵の締め方以外何も説明をされなかったのでお風呂に入っている時間やご飯の時間、洗濯の曜日などは自分で確認しました。夜ご飯が19時頃ということ以外特にルールがなかったので洗濯物も学校に行く前に頼んだり、休みの日は一緒に洗濯物を干したり、3日~4日に1回くらいのペースでお願いしていました。

学校が9時頃から始まる時は早くて12時半、遅くても14時半頃には授業が終わるので中心街の方に行くこ

とが多かったです。最初の頃は40分くらい歩いて中心街まで行っていました。往復で2.2£くらいと安く、本数も多いのでイエローバスを使っていました。夜にあるレクチャーなどが終わった後は、金曜日は花火があるのでそのまま歩いてビーチに向かって花火を見に行ったり、休日は拓大の子達と電車でロンドンへ行ったり、BEET.でオックスフォードに行ったりしました。

私たちが行った8月の中旬くらいまではかなり学生が多かったように感じます。クラスが違っていると交流するのは難しいかなと思いましたが、ボートパーティーやクラブナイトなど様々な国の学生と関わるができる機会は多くありました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修に参加して最初の頃は、自信がなくてホームステイ先でも学校でも黙っていることが多かったのですが、学校で他国の留学生の積極的な姿を見てこのままじゃだめだと思い、特にホームステイ先で積極的にコミュニケーションを取ることを心がけました。一日中英語を使うのは最初は疲れました。でも、日を追うごとに少しずつ自信がついてコミュニケーションが取れるようになっていくのが嬉しかったです。

私はサービス業に就きたいと考えているので、今回の参加が無駄にならないよう継続的に英語を勉強して、アルバイトでも外国人のお客様とのコミュニケーションをしっかりと取っていきたいです。



クラスのみならず



休日のオックスフォードにて

廣田 将也 政経学部 経済学科 2年

群馬県立前橋西高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



語学学校

壁の外へ

【研修生活について】

クラスは自分のレベルに合わせて設定されます。難易度が自分に合わなければ変更することができます。私は難易度ではなくてクラスの雰囲気合わなくて変更しました。このような理由でも変更できるみたいです。私はクラスを変更することによってたくさんの友達が出来たので特に理由がなくても2週間たったら変更という風にしてみるのもアリかもしれません。

予習、復習は最初のころはやっていましたが、途中で宿題以外一切やらなくなりました。なぜなら私のクラスのレベルは基礎知識(過去形、比較級等)だったので勉強しなくても理解が出来ました。問題はspeakingとlisteningでこの力がついていない頃はそもそも授業で何をやっているのか理解できずに大変な思いをしました。私がlisteningに慣れて何となく授業が理解できるようになったのは最終週でした。それでもspeakingは少々できるようになったレベルで、聞き返されることが多々ありました。授業自体は簡単なレベルですので、みなさんは先生と会話する、外国人と会話する、一緒に行動する、こちらの方を大事にしてほしいと思います。

留学では発音をしっかり勉強してほしいです。いくら知識があっても伝わらなければ意味がありません。事実先生は発音を日本よりたくさん教えてくれます。この点は日本と大きく違うところだと思います。さらに日常的に英語を発音するという実践が絡んでくるので、発音レベルを大きく鍛えるには研修先でしかできないことだと



海外の友人と

思います。

【日常生活について】

ホームステイ先は学校から4分の場所でした。他の人も似たようなところだと思います。イギリスでは湯船につかるという文化がなく、毎日シャワーだけ浴びるという生活でした。さらに硬水であるせいか洗剤の泡立ちが悪かったです。ホームステイ先で出てきた夕食はほとんどジャガイモでした。イギリスの主食はジャガイモのようでした。味に関してはただ煮ただけというものが少し多いような気がします。

ホームステイ先は普通家庭であるためその家に定められたルールに従う必要があります。(シャワーは0分以内等)私のところは夕食の時間以外特に決まりはありませんでした。

週末は学校のイベントでボーンマスから離れたところにバスで行くことが出来ます。私はオックスフォードとバースに行きました。しかし、学校のイベントは毎週あるわけではないので時間が空いてしまいます。私は街にいったってショッピングをしていました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

外国人はフレンドリーに話しかけてきます。そのため私も人と話すときには明るく話す癖がつかまりました。また、一か月英語の聞き続ける生活をしてきたため、英語の授業も理解しやすくなると思います。授業で様々な英語の表現を学ぶと思いますが、留学生生活を思い出して「この表現で話した方が伝わったかな」と考えながら授業を受けてみようと思います。

海外への就職も考えてみようと思いました。イギリスとはいえ生活の質に関してはあまり日本と変化がないと感じたので十分可能だと思います。



ホストマザーとの写真

海老原 真菜 外国語学部 英米語学科 2年

県立大宮南高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



エアショー

留学を通して学んだこと

【研修参加の動機について】

今回私が留学先にイギリスを選んだのは、大好きな映画『ハリー・ポッター』の影響でイギリスの文化に興味を持っているからです。また、今回入学したビートランゲージセンターは日本人の割合が少なく、他国の学生との交流が盛んという事も理由の1つでした。実際に行ってみると話に聞いていた通り、クラスには私を含め日本人は2人しかおらず、様々な国の生徒がクラスメイトでした。

次に、私がお勧めする留学時期は2年生の夏です。私が行ったのもこの時期なのですが、とても適した時期だったと今思います。なぜなら、1年生では早すぎ、また、冬より夏のほうがイベントを楽しめるからです。留学先ではもちろん、全ての生活が英語なのでやはり、ある程度の英語能力が求められました。特に重要だと感じたのがスピーキング力です。授業やホストファミリーとの会話、買い物など多くの場面で英語を話すことが必要なので、1年生のうちから少しでも多く話せるようにしておくことが大切だと思います。そして、スピーキング力が強ければ強いほど他国の人との会話が盛り上がり、スピーキング力はもちろん、リスニング力もより高めることが出来ると思います。また、夏をお勧めするのは、花火やエアショーといった夏でしか体験できないイベントを楽しめるからです。特にエアショーは迫力があり、とても感動します。留学の思い出になること間違いなしです。

【日常生活について】

ホームステイ先については、とても良い環境に滞在させていただきました。学校までは徒歩4分と、通いやすかったです。ホストマザーの作る料理はとてもおいしく、イギリスのご飯はおいしくない、というイメージは無くなりました。また、ホストマザーによく言われていたのが、何か要望があったら言うようにという事でした。最初は遠慮して言えなかったのですが、生活に慣れてきた頃、ある些細なことを頼んでみました。すると、



ホストマザーの手作り料理

その行動に対してとても喜んでくれました。外国人は何をしたいのか自分から言わなければ理解してくれない、という話をよく耳にするので、それを実際に体験できた瞬間でした。なので、自分の気持ちを主張してみるのも外国人とのコミュニケーションの取り方の1つかと思います。

ホームステイ先だけでなく、学校も英語を学ぶのにとっても良い環境でした。先ほども述べたように、日本人が少ないので様々な文化を一度に感じる事ができ、刺激的です。私の場合は、同じクラスだったスイス人と友達になり、一緒にお昼を食べに行きました。ずっと夢に見ていたことだったので、実現出来たことがとても嬉しかったです。また、夜のアクティビティーも魅力的でした。これに参加したことにより、様々な場面で他国の人たちと交流ができ、友達も増えました。これはこの学校でしか出来ない、とても貴重な体験でした。このようにビートランゲージセンターには、異文化の人たちと交流しやすい環境が整っていて、日本では体験出来ないことがたくさん出来るので、留学するならこの学校に入学することをお勧めします。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回イギリスに留学してみても一番驚いた事が、単語のアクセントが少し違うだけでもネイティブの人には通じないという事です。私はアクセントを覚えるのが苦手で、今まであまり重要視していませんでした。しかし今回の体験で、アクセントの重要さが身に染みるとともに、今まで覚えてこなかったことに後悔しました。なので、このことを今後の自分の課題として、学習に生かしていこうと思います。また、今回の留学を通して生きた英語も学ぶことができ、これから英語を学んでいくモチベーションにもなったので、将来英語を使って仕事をするという夢を叶えるためにもより英語力を高めていきたいと思いました。



オックスフォード大学

畠山 彩季 外国語学部 英米語学科 2年

武蔵越生高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



クラスの仲間たち

イギリス研修で得たこと

【研修生活について】

事前に行ったテストによって自分に合ったクラスが決められ、様々な国の留学生と一緒に授業を受けました。授業は午前か午後のどちらかで、週に2回オプションクラスがあり、そこでは普段の授業の応用といった形でより深く英語を学んでいました。私のクラスには、サウジアラビア、フランス、イタリア、台湾などから来た留学生がおり、授業はもちろん、日常生活でもたくさんコミュニケーションをとることができました。授業の内容は、スピーキング、ライティング、文法が中心で、英米語学科の大学の授業と似ている部分が多くありました。先生は、間違いがあったらその場ですぐに細かく丁寧に指摘してくださり、生徒との距離も近く、わからない事もとても聞きやすかったです。様々な国の方と話すことにより、その国独特の訛りや、発音の影響で聞き取りづらいということも正直何度もありました。しかし、わからなくても、何度もお互いに聞き直し、会話が成り立った時には、この上ない喜びがありました。日本人とは違った考えや、捉え方をしており、日本との相違点が目の前で感じることができるのも留学をしなければ味わえないと思いました。

【日常生活について】

ホームステイ先では息子さんが2人、韓国からの留学生が1人、大きい犬が2匹、そしてホストマザーの4人で暮らしている大変温かい家族でした。初日は、ボーンマス市内をドライブしてくださり、1日目から楽しく過ごすことができました。夕飯は予定がない時以外はほとんど毎日4人で一緒に食事をし、量は少し多かったです。本当に美味しかったです。一人部屋もあり、とても

自由に過ごすことができました。放課後は19時45分から始まるアクティビティに積極的に参加をし、そこでも様々な国の留学生や先生とコミュニケーションをとることができました。週末には、拓大の研修生と一緒にロンドンやコッツウォルズへ行ったり、学校のプログラムでオックスフォードへ行ったり、最後の週にはボーンマスで最大のお祭りでもあるエアショーを見に行き、土日はとても充実した日々を過ごしていました。特に思い出に残っているのはロンドンです。ずっと憧れていたロンドンに行くことができ本当に嬉しかったです。電車移動は難しかったですが、自ら行動することの大切さを学びました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

このイギリス研修を通して、海外と日本の良さと悪さを感じられたのが一番自分の中で大きかったです。もちろん、自分の課題でもあった、コミュニケーション能力と英語力を高めることもできました。しかし、まだまだ足りないところはたくさんあると痛感しました。何をすることも自分が自ら積極的に行動することが一番に大事なことでということに改めて深く感じました。初めてのことに挑戦するとき、何か大きなことをやり遂げなければいけないとき、人は不安を抱くことが多いです。しかし、不安を取り除くのも時間がかかります。そんな時、まずは自ら行動しなければならないという気持ちを持つことが大事だということがこの研修を通して学ぶことができました。私はまだまだ英語の力が低いです。しかし、この研修で、高校で疎かにしていた文法を正しく教わることもでき、研修前よりも自信を持って話すことができるようになりました。何をすることも自分の行動力が大切、自信を持つことも大切です。これから先、イギリス研修で学んだことを無駄にせず、勉強に励みます。



ホストマザー



ハリーポッターの撮影地

川瀬 収悟 国際学部 国際学科 2年

埼玉県立狭山経済高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



ホストマザーとファザー

今回の経験

【研修参加の動機について】

私は英語のスピーキングを能力として身につけたいので短期研修に参加しました。留学前にこの研修の説明を受けたとき授業はクラスメイトとのスピーキング主体と聞きました。イギリスにしたのは私はサッカーが好きで研修地でも馴染みやすいと思ってイギリスにしました。

短期研修は1年生の夏から参加したほうが良いと思います。研修が終わって自分の課題が見つかるからです。日本にいと英語を使う機会が少なく自分の苦手箇所がわからず勉強箇所も曖昧になります。研修に行くことで自分の課題が見つかりモチベーションも上がると思います。スピーキングは英語を使っていく中で言い回しのレパートリーが増えていくので心配しなくてよいと思います。リスニングは慣れることが難しかったので研修前から学習していくことをお勧めします。単語学習は意味を日本語で理解しないでその単語の同義語で理解したほうが良いです。

【日常生活について】

イギリスの生活様式は大きく異なることはありません。一番の相違点は家内に土足で入ることです。土足でも皆泥のついた靴で部屋に上がることがないので床に泥が付着していることはありません。また、バスルームはユニットバスのような形です。もちろん家なのでホテルのユニットバスより広々としているので窮屈感はありません。ホームステイの注意事項はバスルームの時間がPM10:30までで夜遅く帰宅したら翌日の朝に入っていました。洗濯は週に一回だったので下着類は8日分持ち込んだほうが良いと思いました。研修地の学校は放課後に様々なイベントが設けられていました。土日にはその制度を有効に使いイギリスやオックスフォードに行きました。そのイベントではクラス外の学生と交流できるので優良な制度だと思いました。研修中には沢山の他国の

学生と交流できました。私はサッカーが好きなのでサッカーを通じて仲良くなるのが多かったです。サッカー以外ではお互いの国の文化や食事について話すことが多かったです。日本のことを改めて学習したほうが良いと思います。アニメが好きで留学生在が複数人いたので多くのアニメを知っておくのも良いと思います。スリの被害は一度もなくされる気配も全くありませんでした。普段学校には20ポンド(3000円程度)持っていき他の大金はホームステイ先のロッカーに管理していました。食事は自分が想定していたほど不味くありませんでした。しかし、日本食は美味しいので食べたくなる時は何回もありました。通信はイモトのWi-Fiをレンタルしていたので困ることはなかったです。飛行機の乗り継ぎ地のカタールではレンタルしたWi-Fiは使えないので空港にあるフリーWi-Fiを使用しました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

短期研修を通して得たことは英語の弱点を明確に把握できたことです。研修前はスピーキングが不得意により英語に苦手意識を感じていましたが、リスニングが一番苦手なことがわかりました。特に早口の人が話す英語は全く聞き取ることができませんでした。イギリスは特に男性がネイティブ度が強く早口な人が多いので二年後期ではそれを聞き取り、受け答えができるようになるまで学習していこうと思いました。研修前も英語は日本語に訳さないで英語で聞き取れることを意識していましたが研修を経てさらにこの意識が強くなりました。日本でも授業では理解できない単語があるとどうしても日本語に置き換える傾向がありますが研修地での授業では理解できない単語を異なる言葉に置き換えて説明・理解することができ今でも習慣化しています。英語を英語で理解することでリスニングもおいてかれることが少なくなりました。研修前は英語に苦手意識があり英語に抵抗がありましたが今では英語に触れることが好きになり英語を使った職業につきたいと決意できました。



ホストマザーとお世話になった人



全体での写真

澄川 天音 国際学部 国際学科 2年

都立世田谷総合高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



工事中のビッグベン

研修国・地域の紹介について

【文化・習慣について】

日々の生活の中で日本とは習慣が異なると感じたことが多くあります。日本人の礼儀正しさは周囲の目を意識して行動することから来るものだと感じました。研修中にスーパーへ行った際、飲み物を取ったら冷蔵庫を閉めないことに驚きました。また、食堂で使った椅子も散らかしてその場を去っていました。これらのことをマナーが悪いと感じたのと同時に他人の目をあまり意識しない自由さによるものかもしれないとも思いました。そして、街で見かけたホームレスの人々への対応も日本と異なることに気がつきました。通りすがりの人がお菓子をあげたり、タバコをあげたりしているところを見ました。一人にそのようなことをし始めたらしき人がいないと思ったけどお金をくださいと言って来る人を無視するのも心が痛むし複雑な気持ちでした。また、ショッピングや外食をする時も日本のようにお店側が親切にしてくれるというよりは自分から頼んで買わないと袋がもらえないことや、レシートがもらえないこともあります。

【研修先について】

研修先の語学学校は大学よりかなり小さく、常に明るい雰囲気です。生徒の国籍や年齢も多様で、夜は先生たちがライブを開催したり、卓球をしたり様々なアクティビティがあり充実していました。ライブでは、「上を向

いて歩こう」の楽譜が用意されていて、一緒に歌いました。平日は昼食を学校の食堂で食べることが多いです。そこで作っている人たちも、もちろんネイティブスピーカーなので注文するときに小銭の使い方を間違えても何度も教えてくれ、応援してくれました。先生も生徒も事務の方もみんなが積極的に英語を使う手助けをしてくれる温かい環境です。そして特に、ホームステイ先の留学生に恵まれ、仲良くなることができました。放課後に海に行き、夕食後に一緒にコーヒーを飲み、とても楽しい時間を過ごすことができました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通して自ら行動する勇気が大切だと学びました。外国人学生からも話しかけてくれるけど、待っているだけではもったいないと感じました。多様な国の学生が沢山いるので積極的に友好的な関係を築いていくことも留学を充実させるために大切なことであると実感しました。また、不安なのは自分だけではなく他国の留学生も同じように感じていたと思います。今後の学生生活においても、相手のアクションを待つばかりでなく、様々な分野に探究心を持って勉強をするようにしようと思いました。



食事



カプサ

竹下 琴乃 国際学部 国際学科 1年

私立関根学園高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 イギリス短期研修参加



BEET LAUGAGE CENTRE 前

イギリス短期研修について

【研修参加の動機について】

英語圏、日本人が少ない、少人数の授業。イギリス短期研修の説明会で説明を聞いたときこれだと思いました。私は高校生の頃から大学へ進学できたら絶対に1年生のうちに留学すると決めていました。だからといって英語が昔から好きだったわけではありません。むしろ苦手なほうでした。毎日の授業でこんなもの将来使わないだろうと思っていたぐらいです。でも洋楽や海外の映画、日本語に翻訳された小説は好きでした。翻訳された本を読んでは英語が理解できたらより多くの本を読めるのと思っていたくらいで、洋書を買って自分なりに翻訳することはありませんでした。なぜなら英語を読むには単語や文法を学ばなければいけませんから。英語への苦手意識がなくなったのは大学受験の時です。大学に進学したかったので得意な教科も苦手な教科も勉強しなければいけませんでした。その中で英語が好きになりました。英語を学ぶのなら単語や文法だけでなく、きちんと話せるようになりたいと思い留学しようと思いました。

【研修生活について】

授業の内容はレベルによって変わります。基本は単語や文法を学ぶといったことです。それから実際に学んだ単語や文法を使い他の生徒と話したりすることもありました。他の国々の生徒はとても積極的で例えば文法が間違っていたとしても自分自身の意見を堂々と述べていました。だから、一番初めの授業はとても驚き、戸惑いました。さらに、英語で自分の意見を述べることに慣れていない私は呆然としていました。けれど、それは日を重

ねるごとに慣れていきましたし自分の意見を言い他の人の意見を聞くことが興味深く楽しくなりました。また、クラス内の人数が少ないこともあり先生と生徒の距離が近くわからないところを先生に聞きやすく、疑問に思ったことを質問することができます。それでもある程度、英語が聞き取れたり話せないと先生や生徒やホストファミリーが言っていることがわからなかったり自分の思っていることが言えないので、リスニングやスピーキングをもっと練習しておけばと思いました。それでも、毎日学校に行くことが楽しみでした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私にとってこのイギリス留学は大きな影響になったと感じます。そのなかで、「英語」は会話における道具でしかないことをあらためて感じました。「英語」が話せるということも大事なことです。海外の友達をつくるにしてもより大事なことは、自分自身の人間性だと思います。ただ英語を話すだけで友達ができるわけがありません。英語ができて初めて自分自身について話すことができ、他の人の意見を聞いてこういう考え方があるのだと。いろいろなことを知り、気づくことができるんだと思いました。また、私はこの研修中とても悔しかったです。思っていることを言えない、何を言っているのかきちんと理解できない。これほどもどかしいことはありませんでした。だから、日本に帰国してからも英語を学び続けます。私は、進路が決まっていなくてもこれからの大学生活や多くの世界をみて、その中で決めていこうと思いました。私自身この研修でどれだけ影響を受けたのかわかりませんが、確実になにか変わったと思います。



ホストファミリーと留学生



クラスメイト

【カナダ（第10回）】 ランガラ・カレッジ

1. 研修概要

1. 研修先 カナダ ランガラ・カレッジ
2. 研修期間 2018年8月4日（土）～2018年9月2日
3. 授業形態 語学研修
4. 滞在方法 ホームステイ
5. 概算費用 学費、滞在費、旅費など 約488,000円
6. 引率者 大野 英樹 外国語学部英米語学科准教授

2. 日程

- 8月4日（土） 羽田発
バンクーバー着、送迎バスにてランガラ・カレッジへ
- 8月7日（火） プレースメントテスト／オリエンテーション
授業開始
- 8月31日（金） 授業終了
- 9月1日（土） バンクーバー発
- 9月2日（日） 羽田着、通関後解散

3. 参加者名簿

氏名	学年	学部	学科
栗原 柊	1	外国語	英米語
齋藤 千大	1	外国語	英米語
鈴木 健斗	1	外国語	英米語
高橋 麻奈華	1	外国語	英米語
石原 颯馬	2	外国語	英米語
市来 百佳	2	外国語	英米語
大橋 千絢	2	外国語	英米語

氏名	学年	学部	学科
田代 茉咲音	2	外国語	英米語
田村 七七子	2	外国語	英米語
西川 あかり	2	外国語	英米語
楠見 一仁	2	国際	国際
佐々木 滯美	2	国際	国際
朝山 光志	3	外国語	英米語
沼尾 敦樹 (アシスタント)	3	外国語	英米語

※学年は研修参加時のもの

栗原 柊 外国語学部 英米語学科 1年

都立青梅総合高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



Canada

初めての海外留学について

【研修参加の動機について】

今回自分がこの研修に参加した理由は2つあります。1つ目の理由は、将来の仕事のためになるべく早く、なるべく多くの機会を使って留学したかったからです。拓殖大学に入学した理由も留学制度がよかったからで、入学する前から今回の留学に参加することを決めていました。カナダを研修先として選んだ理由は、カナダの夏は日本に比べて気温と湿度が低く、過ごしやすいと聞いたからです。実際カナダの夏は過ごしやすく、朝夜は半袖一枚では肌寒いくらいで現地でも長袖やアウターを何着か買いました。それと、カナダは多文化国家なので外国人に対しての偏見や差別など全くなく不快な思いをすることなく生活できました。二つ目の理由は一つ目とすこしかぶるのですが、長期留学のための下見を兼ねて行きました。自分はこれから長期留学に参加したいと思っていますのですが、いきなり7ヶ月も行くのは自分の中に不安が少しあったので、1ヶ月だけお試してみたいな心意気で応募しました。2、3年次の長期、交換留学のために1年次から海外の雰囲気を感じとくことは重要だと思っていたのでこの時期に行き行って正解だと思いました。なので、1年次に行くことをお勧めします。

【研修国・地域の紹介について】

先ほど言った通りカナダは多文化国家なので、街の至る所でいろんな国の人を見ることができました。バンクーバーのダウンタウンではいろんな国のレストランがあって、日本のラーメンなどもあり少し値段は高いですが美味しい料理が楽しめました。特にアジア系のお店が多いように感じました。自分が感じた相違点は多くあります。一つ目はメジャーなものですが、カナダの人は挨拶などコミュニケーションを大事にしていると感じま

した。どこのレストランでも料理が届いた後に、味はどう？何かあったら言ってねなど声をかけてくれることが多かったです。それとバスを降りるときにサンキューと多くの人が言っていました。別の自分が感じた違いは働く姿勢です。カナダにいる人全員がとは言いませんが、アルバイトでも多くの店員さんが丁寧に対応してくれたり暖かい態度で接してくれました。これはチップの文化があるからだと思いました。逆にいうと、チップをあまり払わなかったら嫌な顔されることもありました。あと、日本みたいにコンビニがないのでトイレを探すのに苦労することがあるので前もって調べていくといいと思いました。トイレがあっても何か買わないと使えないというお店もありました。日本に帰って気づいたことが一つあって、日本ではすれ違うときにお互いに譲ってぶつかりそうになることがありますが、カナダでは一度もありませんでした。大したことはないですが自分はここに考え方、文化の違いを感じました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

英語の聞く能力、話す能力はもちろん向上した上に、人と話すコミュニケーション能力も向上したように思います。それといろんな国の人と話したのでその国の文化や習慣、日本との違いもしれましたし、客観的に日本を見ることもできました。今後の学校生活はこれまで以上に勉学に励み、特に TOEIC や TOEFL などの資格に向けての勉強をしたいと思っています。また英語以外の言語やいろんな国の文化についても勉強したいと思っています。



ビクトリア島



晴れの日のバンクーバー

齋藤 千大 外国語学部 英米語学科 1年

東北高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



ホストファミリー

カナダ短期研修

【研修参加の動機】

私は中学2年生の春にカナダに行きました。その時はもちろん英語を話す事もできなければ、何を言っているか理解する事もできませんでした。しかし、カナダはとても過ごしやすくていい場所だったので、もう一度行ってみたいと思っていて、拓大に入ってカナダの留学プログラムがあるのを知りました。それで、今の自分の英語はどのレベルでどれだけ通用するのか試したいと思ったので参加しようと決めました。また、私はカナダの長期プログラムに参加したいと考えているので、ホームステイやカレッジでの授業はどんな感じなのかなど知りたいと思ったのも一つです。さらに、夏休みを遊びやバイトばかりではなく、違う形で充実させたかったからです。もし、このような短期研修に参加したいと少しでも思っているなら、1年生か2年生のうちに参加するべきだと思います。私は1年生がベストだと思いました。なぜなら、この短期研修に参加することによってもっと話せるようになりたくともっと勉強しなきゃいけないと思わせてくれるので早いうちから英語に対するモチベーションをあげることができます。さらに短期研修に参加して、やっぱり長期研修にも参加したいと思って1、2年生時なら間に合いますが3年生の時だと遅いと思います。なので、早ければ早いほど良いと思います。もし行くことが決まったら準備を早めに始めるべきです。特に一人暮らしの人はとても大変で、パスポートをとり帰らなければいけないので、早め早めの行動をしなければいけません。私も一人暮らしで、準備なんて余裕だろと思っていて、ゆっくりしていたら大変な目にあつたので本当に早めにするべきです。そして、今回の研修で大切だと思ったことは恥づかしがらずに英語を話すこととコミュニケーション力です。せっかく英語を話せるチャンスがあるので恥づかしがって話さないのはもったいないと思いますし、たくさん人の人が参加するプログラムなので、その人たちと積極的にコミュニケーションをとり、友達になるいい機会です。さらに、英語力を伸ばすために英語で映画を見たり本を読んだりする事もいいと思いますが、1番効果的で効率がいい方法は積極的に話しかけ英語を話す事だと私は思いました。そのためにも、普段の授業から積極的に発言したり、いろんな人とコミュニケーションを取る事が大事です。特にSpeak&Writeやワークショップなどのネイティブの先生が教えてくれる授業では積極的にネイティブの先生と英語でコミュニケーションを取ると良いと思います。

【日常生活について】

今回初めてのホームステイでした。その中で自分のホームステイ先はルールがいくつかありました。門限はランガラカレッジで決められていた月～木、日曜日が22:30で土日が23:30でした。自分の家は親が共働きで夜まで仕事の時が多かったので、鍵を貸してくれました。どこのホームステイ先でも同じだと思いますが、シャワー室や洗面所を使ったあとは綺麗にしなければいけません。あと、自分で使った食器は自分で洗える時は極力自分で洗うようにしていました。さらに、一番気になると思う洗濯はほとんどの家が週に1回だと思います。なので、服は1週間分とちょっと多めに持っていました。万が一の時は洗濯してくれたので、多少は融通が利くと思います。そして食事については朝ごはんは用意してくれるときもあれば、自分でシリアルやフルーツを食べる時もありました。お昼はサンドウィッチや麺やご飯など毎日用意してくれました。夜ご飯はお家で食べる時もあれば家族や友達と外食する時もありました。友達と外食する時は1日前にホストマザーに伝えなければいけません。私は学校が3時くらいに終わるので



ウイスラー

放課後はダウンタウンやガスタウンなどに友達と遊びに行っていました。バンクーバーはバスや電車を簡単に利用できるだけでなく多く走っているため色々な所に遊びに行くことができました。さらに毎週水曜日の午後から水族館や Museum に連れ行ってくれました。そこではバンクーバーを知れるだけでなく、他の留学生と仲良くなることができました。3週目の水曜日は朝早くから Wistler という山に行きみんなで山登りやリフトに乗りしました。そして、携帯ですが自分は wifi を借りなかったため wifi がある場所ですら使えませんでしたが、カナダいろいろな場所に wifi がありました。家はもちろん、スターバックス、スーパー、レストランやカフェなどたくさんあったので、あまり困りませんでした。携帯を使うくらいなら英語を使って人に聞いたりしたほうが勉強になります。さらに家でも部屋にもって携帯をいじるほどもったいないことはありません。家族とたくさん話してたくさん英語をつくべきだと思います。お金についてですが、カナダは税抜き価格が表示されているのとレストランなどでチップを払わなければいけないので少し多めに持って行ったほうがいいと思います。最後に、初めてのホームステイでわからないことがほとんどで何か聞きたい時も英語で聞かなければいけないし最初は不安だらけでしたがだんだん慣れて行き、うまく家族とコミュニケーションが取れるようになっていきました。なので自分の英語力やホームステイが不安な人でも自分次第でなんとかなると私はこの研修を通して思いました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通してたくさんの事を学びました。まずは人との関わり方です。今回の研修でカナダだけでなく、韓国人、台湾人や中国人など様々な国の人と交流することができました。それぞれ違う文化や習慣がある中で、カナダでお互いに慣れない環境で一緒に勉強した事で異文化交流、協力し助けあう事の大切さを感じることができました。たくさん人の国の人と関わる事で知らない文化や習慣を知ることができ、異文化理解を深めることができました。今後、拓殖大学にいる留学生を積極的に手助けをしていき、もっと多くの外国人と交流していき理解をより深めていきたいと思っています。次に自分の思っていることや考えていることをしっかりと伝える大切さです。私は授業中や必要以上に普段から発言することがあまり多い方ではありませんでした。しかし、ランガラカレッジと一緒に通っていた他の国の自分から積極的に思っていることや考えていることを発言し、少しでも違うと思ったら自分の意見を言うてほしいなと思い、自分も意識を変え、積極的に発言するようになりました。何かわからない事、疑問に思ったことや自分の思っていることを先生や友達、ホストファミリーに伝えたことで、お互いの理解を深められただけではなく、積極的に話しかけてくれるようになりました。自分の意見は言わないと伝わらないし、さらに英語で伝えなければいけないのでとても大変でした。しかし、自分の知っている単語でどうにか伝えなければいけないのでとても勉強になりました。この経験を大学でも生かし、もっと自分の意見を伝えていきたいと思っています。そして最後に、私はこの研修を通して海外で働きたいと思いが強くなりました。まだ明確に何がしたいとは決まったわけではありませんが、英語を使っているんな国の人と関わる仕事がしたいと改めて思いました。そのためにも英語の勉強は今まで以上に力を入れていきたいと思っています。さらに、ボランティア活動などに積極的に参加し、たくさんの人とか変わっていく中で多くのことを吸収できたいと思っています。



Night Market

鈴木 健斗 外国語学部 英米語学科 1年

埼玉県立松山高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



カヤック

1か月できづいたこと

【研修参加の動機について】

自分がカナダを研修先を選んだ理由は、“多文化社会”と“アメリカの発音に似ている”です。高校の頃から海外の文化に興味があり、この機会を使っていろいろな人種が住むバンクーバーで文化に触れてみたいと思いました。発音について、日本では主に学校でアメリカ英語を学びます。より慣れているアクセントや発音のほうが過ごしやすいかと思いました。ホストファミリーや店員さんのほとんどはカナダのネイティブなので、基本的に耳に入ってくるのはカナダ英語ですが、上に書いたように多文化でいろいろな人がいます。その分それだけのなまりや特徴、言い回しなどがあります。よほどのこだわりがある人以外は関係ないと思いました。

研修に行くおすすめの学年は1年生です。今回の短期研修で、ものすごい刺激を受けました。長期を見据えてこの研修に参加することにしましたが、長期に参加したいという気持ちが強くなりました。勉強しようと思いました。一緒に参加したメンバーも同じことを思っていました。その刺激を早い学年で受けた方が絶対自分のためになると思います。そして、もし長期研修に参加したいと思ったとしてもこの学年なら間に合います。大学に入って初めての夏休み。バイトや遊びで予定を埋めたいと思う人が多いと思います。そんな中、自分を含めた1年生4人は短期研修に参加することにしました。間違いなく、勉強面でもモチベーションの部分も他の人との差はついたと思います。短期を考えている人には絶対1年生で行ってほしいです。

【研修国・地域の紹介について】

自分がカナダで1か月過ごしていいなと思ったのは、日本人が“すみません”“ごめんなさい”を使う場面で“Thank you”を使うことです。それに気づいたのは混んでいるバスの中で、降りたくてドアの近くに立っている人にどいてもらったとき、現地の人は“Thank you”と言っていました。日本人は、どかせてすみません。カナダでは、どいてくれてありがとう。たしかに日本人の気を遣う文化はすばらしいと思いますが、ありがとうの方が気持ちいいなと思いました。

食べ物は、個人差があると思いますが、日本と比べると甘すぎ、濃すぎのものが多くです。ただ、多いだけで、もちろん日本人向けのレストランも多いです。心配いりません。

自分は8月に研修に行きましたが、基本的に寒いです。最初の1週間は半袖でしたが中旬からは長袖来てても寒い日が続きました。特に朝は息が白くなるくらいの日もあります。服の準備は大切です。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

上記の通り、長期研修、交換留学に向けて勉強しようと思います。交換に行くためのボーダーは難しいです。授業を受けているだけで出せる点数ではありません。しかし、今回の研修で行きたい気持ちが数倍に増したので、家に帰った後、電車の中など前期で勉強をしていなかった時間も勉強にあて、受験生に戻った気持ちでやろうと思います。



Night Market



韓国人の友達との別れ

高橋 麻奈華 外国語学部 英米語学科 1年

長野県下諏訪向陽高等学校出身
2018.4 2018年拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



イングリッシュベイの写真

カナダで過ごした1か月

【研修国・地域の紹介について】

夏のバンクーバーは日本に比べ涼しく比較的過ごしやすいと聞いていたのですがバンクーバーにつき最初の1~2週間はとても暑く半袖短パンで過ごしても丁度いいぐらいでした。しかし2週目が過ぎたぐらいから一気に涼しくなり長袖長ズボンで過ごしていました。私の家の周辺にはあまりお店がなかったのですがバス1本で隣町にある大きなショッピングモールに行けたり、電車に数分乗れば様々なお店が並んでいる街に行けたりととても便利な場所にありました。カナダの電車やバスは急発進または急停止、走行中とても揺れ

日本と比べると少し乗り心地が悪かったのですが、どこを歩いてもすぐにバス停を見つけることができたので便利だなと思いました。私が特に気になったのはファッションです。海外のファッションは日本と違ってとてもシンプルで、自分の欲しい服がなかなか見つからず探すのに時間がかかったのですが、日本との違いを見つけることができました。

【日常生活について】

私のホームステイ先はフィリピン系の年配の夫婦と娘さんと娘さんの彼氏の四大家族でした。カナダでのホームステイ先ではシャワーの時間、洗濯は週に1度とルールが厳しいと聞いていたのですが、私の家庭では全く厳しくなく自由に生活することができました。朝昼晩の食事も毎日作ってくれて、週の休日はホストファミリーの

親戚が20人ほど集まりバーベキューをしたのですがカナダの伝統的な食べ物や、フィリピンの伝統的なソーセージも食べることができました。私のホームステイ先には韓国から来た留学生がいたので毎朝一緒にご飯を食べ、一緒に登校し、休日はお出かけをし韓国と日本の違いを話し合いお互いの言語を教え合いました。放課後や休日はほぼ毎日お出かけをしました。有名なレストランや観光地、地元のスーパーに行き海外またはバンクーバーにしかないものに触れることができました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、自分のスピーキング力の低さを改めて知ることができました。自分よりスピーキング力が高い人は次から次へと単語が出てきて、発音も聞き取りやすくてただ単にすごいなと感じました。以前はそのような人々と話すのは恥ずかしかったのですが、そのような人々と話すことで今までに知らなかった英語での表現の仕方を知ることができました。また、私が研修を通して発見したことは他の国のことをよく知らないということです。ディスカバリーバンクーバーの際、バンクーバーはカナダの中ではまだ歴史の浅い地域だと知り、英語が話せるようになってもその国のことを知らないのは失礼なのではないかなと思いました。今後は、自分の弱点が分かったのでそれを改善すると同時に長期留学ができるように新たな知識を身に付けていきたいです。



ホストファミリーとの写真



終了式での写真

石原 颯馬 外国語学部 英米語学科 2年

山梨県立甲府昭和高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



アジアンマーケットの会場

バンクーバーでの生活

【研修国・地域の紹介について】

私がバンクーバーに来て感じたことは、気候が快適だと感じました。8月、日本は気温が高い上に、湿度が高いため、とても不快に感じるのですが、一方、バンクーバーは、気温も丁度良く、湿度も低いので、快適に過ごせました。

さらに、驚いたことは、日中の時間帯が長いことです。日暮れの時間が8時半で、一日がとても長く感じました。これは、高緯度に加えて、サマータイムを導入しているため、日中が長くなります。しかし、サマータイムを導入すると、身体的悪影響を及ぼしている報告もあり、議論的となっています。

また、バンクーバーの人は社交的な人が多いと感じました。特に、レジで並んでいる時、お喋りをしている姿が多々見られました。日本では、レジに並んでも減多に見ないので新鮮な気持ちになりました。日本人が内気だと言われるのは、気軽に話せる機会が少ないからだと思いました。日本もこういう習慣がもう少し広がれば良いなと感じました。

【日常生活について】

私がホームステイをした家は、女性一人暮らしと犬だけで、ルームメイトもいなかったこともあり、比較的気楽に過ごせました。基本的には、自由に行動させてくれ



ホームステイした家

ます。しかし、夜遅く帰る際は、事前にメールで連絡する必要があります。しかし、同じ屋根の下住む訳ですから、当然問題も出てきました。まず、洗濯の頻度です。カナダでは、洗濯機が大きく、水を使う量が多いため、一週間に一回の割合で洗濯をします。そのため、服を多めに持っていくことを勧めます。また、食事は基本パンが続くため、日本からサトウのごはんを持ってくるといいと思います。或いは、市内には多くの日本料理店があるので、食べに行くのも良いと思います。また、お土産に関して、日本からお土産を持っていこうと考えますが、お菓子に関する土産は持ってこない方が良いでしょう。何故ならその土産が昼食のおかずになるからです。食べ物より残る物をプレゼントした方が喜ばれるでしょう。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、行く前より社交的になれた気がします。今までは躊躇してしまうことが多々ありましたが、この経験でより楽観的になりました。また、英語学習に再び力を入れるきっかけにもなりました。正直に言うと、少し英語学習に対しての意欲が以前より薄くなりつつあったため、この研修は再び英語学習に火をつける良いきっかけになりました。



一番美味しかったハンバーガー

市来 百佳 外国語学部 英米語学科 2年

東京都立青梅総合高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



Steam Clock

充実した4週間

【研修生活について】

最初にリスニングのみのマーク式のテストが行われ、レベル別のクラスに分けられます。私のクラスは日本人と韓国人が15人ほどのクラスで、みんなが専攻している科目もそれぞれでした。授業は9時から15時までで、世界の文化や問題について話し合ったりビデオを見たり、プレゼンテーションをしたりなど毎週クラスで扱うものが異なっていました。バンクーバーについて学ぶ機会も多く、私のクラスではグループでバンクーバーで行ってみたいところについて調べスケジュールを作りボードにまとめてプレゼンテーションをしました。またランガラの学生さんの案内でバンクーバーを巡ったり、カヤックの体験をしたり、水族館や美術館に行ったりなど週に1回はアクティビティがあり毎週とても充実していました。

【日常生活について】

私のホームステイ先は共働きのマザーとファザーと20代の娘さんが2人と子犬が1匹という家族でした。洗濯は週一回でそれ以外には特別なルールはなく自由に過ごしていました。マザーとファザーは共働きなので朝食はシリアル、昼食はサンドイッチを自分で用意することが多かったです。朝に昼食が用意できなかった場合はカレッジの中のTim Hortonsを利用していました。ファミリーはとても優しく気さくに話しかけてくださっ

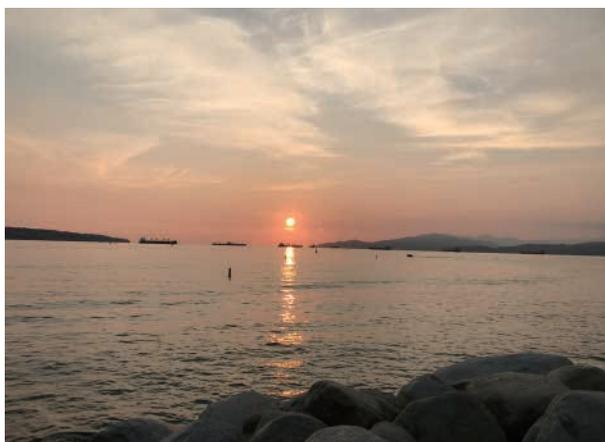
たり、週末にドライブに連れて行ってもらうこともありました。放課後や週末は観光地に行ったり買い物に出かけたり外食したりとほぼ毎日出かけていました。バンクーバーには日本食のレストランが多くあり、ラーメンをよく食べに行きました。ペットボトルの飲み物などは少し高いのでなるべくお金を節約するために水筒を持っていくか、現地で買うことをおすすめします。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私のクラスには英語を専攻していないクラスメイトが多かったのですが自分よりも英語で伝える力がある人が多く自分の力のなさを痛感しました。まず私は日本語でも英語でも自分の意見をもつこととそれを堂々と伝えられるようにならないといけないと思いました。また日常生活ではたどたどしい英語でも伝えられることが多かったのですが、逆に相手の言ったことが理解できない時が多かったと感じました。この研修で自分の力のなさに気づいたのですがそれを後悔するのではなく、英語の勉強のモチベーションにしていこうと思います。

海外で4週間生活することは初めてでかなり不安を感じていましたが、行ってみると毎日の生活で非日常を楽しむことができたのでそこは自信につなげることができました。



English Bayの夕日



Closing ceremony

大橋 千絢 外国語学部 英米語学科 2年

私立西武台高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



集合写真の様子

初めての海外

【研修参加の動機について】

もともと海外や英語に興味を持っていて、異文化を肌で感じ、海外でしか出来ないことを経験したいと思いました。大学1年生の時に、留学しようと考えていたけれど、自分の英語力に自信がなく、その時は諦めました。しかし、2年生になった時、自分の英語力はどれくらいなのか、英語力を向上させたいという思いと、留学説明会に参加した時、先輩から体験談を聞き、先生が留学を勧めてくれて留学したいと思う気持ちが強くなりました。また進路や英語学習のきっかけになればという気持ちもあり、両親が私の背中を押してくれたことも参加する動機になりました。

【日常生活について】

最初の頃はホストファミリーとうまく会話できるか、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、そんな私にホストファミリーは「リラックスして」や「たくさん会話をして英語を練習しよう」と言って私に優しく接してくれたおかげで、ホームシックにならずに毎日楽しく過ごすことが出来ました。私のホストファミリーは優しい方で、学校が始まる前の日に一緒に学校まで往復してくれたり、バス・電車の乗り方や、バンクーバーのおすすめの場所を教えてくれたり、買い物をしたり、お祭りにも連れて行ってくれました。ホストファミリーは、私が話すことに耳を傾けて、完璧な文法ではなくても、単語を聞き取ってくれて、間違っているところは指摘してくれました。そのおかげで、私は自分から話しかけ、会話に入って、学校のこと、家族の話をしてホストファミリーとの会話を楽しみました。また、一緒に焼きそばを作ったことは本当に良い思い出です。

放課後や週末はほとんど友達と出掛けて、毎日電車や

街中でたくさん英語を聞きました。電車に乗っている時、外国人に話しかけられて、どうしようと思ったけれど、コミュニケーションをとって会話出来たのが本当に嬉しかったです。バンクーバーで訪れた場所はどこも魅力的で、また訪れたいと思わせてくれる所ばかりでした。実際に異文化を体験し、新しい発見をして毎日が楽しくて仕方なかったです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、当たり前だと思っていたことが当たり前ではなく、生活していく中で改めて日本の良さに気づくことがたくさんありました。実際に行ってみないと分からないことや気づくこと、異文化を自分の目で見て、肌で感じ、自分が体験することで考え方や視野が広がりました。また、自分の目標を再確認して自分から行動し、積極的になれたことと、経験したすべてが自分を成長させてくれました。ホストファミリーや、先生、友達、初対面の外国人との会話で自分の英語が通じる度に少しずつ自信が付き、もっと話せるようになりたいという気持ちになりました。だから、その気持ちを忘れずに、「楽しかった」で終わらせるのではなく、今回の経験を授業に活かし、実践して英語学習のモチベーションに繋げたいと思います。また、留学してよかったと思える学校生活を送りたいです。進路についてまだ、どんな職業に就くか決めていませんが、今回の研修をきっかけでさらに外国に興味を持ったので、英語を使って、外国人と関わることができるような仕事をしたいと思いました。



放課後の様子



夕食の様子



バンクーバーの景色

田代 茉咲音 外国語学部 英米語学科 1年

東京都立東久留米総合高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加

カナダ短期研修

【研修生活について】

授業で自分の国の文化とカナダの文化の違いについて考える機会があって、チップを払うことぐらいしか思い浮かばなかったのですが、他の人がお店で「いらっしゃいませ」と「ありがとうございました」が日本ではあるけど、カナダではないということを知って、自分が気づかなかったことを聞けるのは面白いな、と思いました。またそれは研修最後の週でディベートの授業をした時にも同じことが言えたのですが、自分が考えた「英語の教育は小学校から始めた方がいいか」というテーマについて考えたときに、反対意見も含めてすべて自分と違った意見を聞いたとき、とても興味深く感じました。さらに英語で話し合うのが、言葉が出てこなくて少し難しかったのですが面白かったです。

【日常生活について】

ホストファミリーが初めて会った時からすごく優しく、例えば、ファザーは私が現地に着いて間もないときにバンクーバーを案内してくれたり、ランガラ・カレッジまでの行き方を私が慣れるまで教えてくれたりしました。学校が始まって二日間もバスと一緒に学校まで行って送ってくれました。まだ着いたばかりで不安な時だったので、すごくありがたく感じました。マザーは元小学校の英語の先生で、私の英語の間違ってある部分を教えてくれたり、私のおぼつかない英語を最後までちゃんと聞いてくれたりしました。

ファミリーとはLINEで連絡を取り合っていて、学校が終わって友達と出かけるときは毎回Wi-Fiがある学校にいるうちに連絡をするようにしていました。Wi-Fiがないと携帯がまったく使えないので、連絡を忘れてしまった時はすぐにスターバックスなどWi-Fiがある場所に移動して、17時までには連絡するように心がけていました。研修中はほとんど、友達と買い物をしたり外食したりして帰りが遅かったのですが、家に帰るといつも誰かがリビングにいたので寂しい思いはまったくせず毎日安心することができました。そして、できるだけファミリーと話すようにしていて、特に何も無い日や時

間があるときはファミリーとたくさん話しました。話す際に辞書を必ず持って、分からない言葉をすぐに調べられるようにしていました。私が言葉に詰まって何ていうべきか調べている時も、話せるまでファミリーはいつも待ってくれたので、ちゃんと伝えたいことを伝えることができました。

家の決まりごととしてお風呂に7-10分以内で入る、というものがありました。そして、なるべく22時以降はお風呂に入らないようにして、その日に入れなかった場合は次の日の朝に入っていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

周りの人に支えてもらったおかげで本当に充実した留学生になりました。

今後の英語の勉強の励みになる言葉をいろんな人にかけてもらって、これからの原動力になるものとなりました。その中でも「Keep using English (英語を使い続ける)」というバレリーさんというランガラ・カレッジの先生からの言葉が一番心に残っています。「英語の勉強をする上で英語を話し続けるのは難しいことですが、大事なことなので頑張って続けて！」とおっしゃっていて、確かに日本にいるときは授業の時だけ英語を使って日常ではあまり使ってないことに気づかせてもらいました。

この研修を通して、一日一日を大切に過ごすことや友達が近くにいることの尊さを知ることができました。一ヶ月も家族と離れて海外で過ごすことなんて自分のできるのかと最初はすごく不安でしたが、仲のいい友達がそばにいてくれたおかげで安心して楽しく過ごすことができました。

この研修に参加できたのは、お金を工面してくれた家族や誘ってくれた友達、先生方や国際課の方々などたくさんの方に支えてもらったおかげなので、改めて感謝を伝えようと思います。この経験やかけてもらった言葉をこれからも忘れずに今後に生かし、より充実させられるように頑張りたいと思います。



English Bay Beach



ホストファミリー

田村 七七子 外国語学部 英米語学科 2年

東京都立小川高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



Whistler

カナダ短期研修について

【研修参加の動機について】

私が今回カナダ短期研修に参加しようと思ったきっかけは、自分が高校生の時に初めてカナダにホームステイをし、その経験がとても思い出に残っていて、自分が就職する前にもう一度カナダに行きたいなと思ったからです。私は教職の授業を取っているため、短期でも長期でも留学に行くなら1.2年のうちに行かなくてはなりません。1年生の時は時間的にも金銭的にも余裕がなく、留学まで意識が回らずに機会を逃してしまいました。そのため、その頃から2年生になったら必ず行こうと決めていました。そして今回の短期留学に参加することにしました。また、いつの時期でも海外に留学を考えている人は、毎日の授業を人一倍真剣に取り組むべきです。そしてなるべく、ネイティブの先生と話せる機会を多く作るべきです。暇な時は、語学サロンに行くことをおすすめします。留学前に英語をたくさん話す機会を作ることが、よりよい留学生活を作り上げてくれると思います。

【研修国・地域の紹介について】

今回、私はカナダ・バンクーバーに1ヶ月間滞在しました。個人的に、カナダ・バンクーバーを訪れたのは今回で2回目でした。カナダは日本よりも遙かに国の規模が大きく、自然がとても豊かな国です。私がホームステイしたお宅の近所にもたくさんのお木々や花々がありました。海も近いので、水系のアクティビティもたくさん楽しむことができます。夏場の気候は、日本と違って湿度が低く空気もカラッとしていたので、日中はとても過ごしやすかったのですが、朝晩になると日本よりも少し肌寒く感じました。

カナダの食事はワンプレートで出されることが多く、量も日本に比べると多いです。またランチはほとんどの家庭がサンドウィッチと果物という形でした。そして日

本との大きな違いの1つは、カナダでは家族そろって食事をするという文化があまり定着していないため、バラバラで食えることが多々あります。またカナダでは、外食をした時はチップを払うということがほとんど当たり前前の文化になっています。

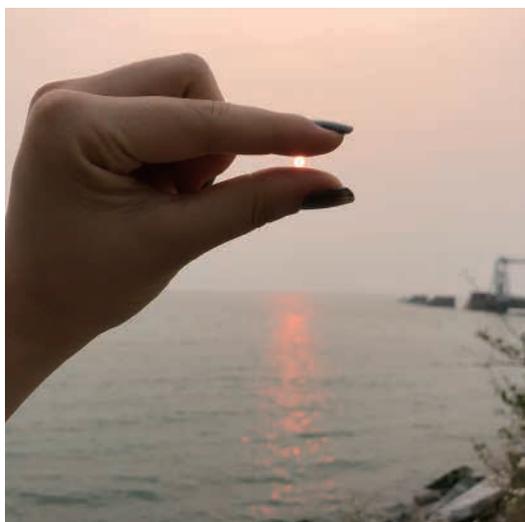
カナダに住んでいる多くの人はとてもフレンドリーです。初めて会う人にもハグして挨拶したり、レストランやショッピングモールなどでもとても気さくに話しかけてくれます。バスを降りる時には、多くの人がバスの運転手さんに「Thank you!」と言います。カナダはとても優しい国だと思います。ですがその反面、街中ではとても多くのホームレスの人々が寝そべっていたり座っていたり、マリファナの香りが漂っていたり、少し危ない雰囲気もありました。

カナダに滞在して、日本や日本人の良さに改めて気がつくきました。例えば、カナダでは湯船に浸かるという習慣がないので、毎日限られた時間の中でシャワーを浴びることが大変でした。日本は他人を思いやる良い国なんだと改めて実感しました。カナダも日本も、良い面も悪い面も異なる部分はたくさんありますが、どちらにせよどちらの国も私にとっては素敵で大切な国です。

【研修を通して得たことと

今後の大学生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、言語に対する興味・関心です。今回の研修で、色々な国の人々と知り合い、交流することができました。そこから、日本語や英語以外の言語に触れる機会もありました。その経験から、もっとたくさん人の言語を知り、学び、習得したいと思うようになりました。人と人とを繋げる言語の素晴らしさも改めて感じる事ができました。この研修で、言語の偉大さに感動することも多々ありました。自分は教員を目指しているので、将来自分が教員になったときに今回の研修で自分が感じたことを生徒たちにも伝えたいです。それができる教員になれるように、今回の研修で学んだこと、感じたことを心に留めて、日々の学校を頑張っていきたいと思っています。



Porteau Cove



Closing Ceremonyの様子

西川 あかり 外国語学部 英米語学科 2年

埼玉県立所沢西高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



ルームメイト

カナダでの思い出

【研修国・地域の紹介について】

カナダは日本と違って、本当に多文化な国です。街を歩けば様々な人種の人と出会いますし、聞こえてくる言葉も英語だけではなくありません。私が個人的に驚いたのは、頭にターバンを巻いたバスの運転手に出会ったことです。宗教があまり盛んでない日本ではまず見ない光景だと思います。アジア系の人でも沢山いるので、私たちのような日本人が街中を歩いたり、バスや電車に乗っていても全然浮いたりしませんでした。

カナダの人々はとても優しいということも感じました。ホームステイ先から学校までは、ホストファミリー等にルートを教えてもらい自力で通うのですが、私はなかなか覚えられず、途中で迷ってしまいました。そこで、バスの中で他の乗客に行き先を伝えると、とても丁寧に行き方を教えてくれました。その後も何度か通行人等に尋ねたのですが、みんなとても親切に対応してくれました。

自力で通学すると聞いて不安に思う人もいるかもしれませんが、慣れてしまえば簡単だと思います。バンクーバーは基本的に道が真っすぐなので、しっかりとバス停と道の名前を頭に入れておけば大丈夫です。私は方向音痴なので苦労しましたが、先ほども言ったように現地の人たちはとても親切なので、もし迷ってしまったとしても焦らず、これも勉強だと思い尋ねてみるといいと思います。

【日常生活について】

この研修では4週間現地の家庭にホームステイします。ホストファミリーの人種や家族構成は様々です。私は諸事情により途中でホームステイ先を変更したので、2つの家庭にお世話になりました。

1軒目は、フィリピン系で一人暮らしのご年配の女性の家庭でした。部屋の中を常に整頓しておくようには言われていましたが、厳しい決まりは特にありませんでした。朝食は毎朝作ってくれて、昼食には主にサンドイッチを作ってくれていました。夕飯は、家で食べるかどう

かを毎日伝えるようにしていました。そして、シャワーの時間は10分以内で済ますように言われていました。私の他に、韓国人1人・日本人2人の計3人のルームメイトがいたので、私は韓国の子とバスルームを共有して、あとの2人は別のバスルームを共有していました。ルームメイト同士で生活時間帯があまり合わなかったのですが、一緒にどこかに出かけるということはありませんでしたが、夕飯の時などにコミュニケーションを取っていました。

2軒目は中国系で、ファザー、マザーと3人の子供がいるにぎやかな家庭でした。こちらも厳しい決まりは無く、自由に過ごさせてもらっていました。朝食は、キッチンにあるシリアルやパンを自由に食べるように言われていて、昼食はレフトオーバー（前日の夕飯の残り）もしくはサンドイッチを作ってくれていました。夕飯は1軒目の家庭と同様、家で食べるかどうかを毎日伝えていました。この家庭は、1階はホームステイする人が過ごす空間、2階はホストファミリーが過ごす空間、といったようにはっきりと分かれていたので、お互いの事を気にすることなく快適に過ごす事が出来ました。キッチンは2階にあったので、ご飯を食べるときや洗濯をするときなどはファミリーとコミュニケーションを取っていました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通じて、英語の大切さを改めて感じました。現地の人と会話をする時はもちろん、ルームメイトと話すときも英語を使っていました。しかし、伝えたいことがあるのにそれをどう伝えたらいいのか分からず、会話が续かなくなってしまうこともありました。もっと自分の英語力があれば会話が出来ていたと思うと、とてももったいない事をしてしまったと思います。今後そういった事を少しでも減らすために、しっかりと英語を勉強しようと思えるようになりました。



バンクーバーの街中



ホームステイ先での食事

楠見 一仁 国際学部 国際学科 2年

正則高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



着いて二日目様子

カナダ短期研修の学習や生活

【研修に行く動機について】

私がこのカナダ短期研修に参加しようと決めた理由は、今までに海外の渡航経験がない自分を英語しか通じない環境に置いてみて、日本以外の国に行き視野を広げたいと思ったからです。そして、本場の英語を感じるとともにカナダの文化や自然にも触れることができることにとても魅力を感じたからです。私は国際学科ですが、英米語学科のこのプログラムに参加することができとても嬉しかったです。私は二年次に行きましたが、このプログラムを一年生の夏に行くことをお勧めします。一年生の夏でこのプログラムに参加することができれば、二年次の夏から長期での留学も視野に入れることができます。それはこのプログラムが始まる前から、日常の英語の授業をしっかりと取り組むことが大事です。そして行った後はできればTOEICなどの試験を受けてみるのもよいと思いました。

【日常生活について】

日常生活で一番不安だったことは食事です。日本を出る前から、ホームステイの食事が口に合わないことがあるというのは先生や先輩から聞いていた話でしたが、私の中でカナダの食事はジャンキーというイメージが大き

かったです。しかし、一か月ホームステイで過ごして、私は食事が合わないということはありませんでした。更に、私のホームステイ先では日本のラーメンや寿司まで作ってくれました。とても美味しかったです。食事のあとはホームステイ先の息子と庭でサッカーをして体を動かしたり、家族で映画を見たりしました。もちろん、授業が終わった後の放課後に学校でできた友達と街に遊びに行くこともできます。私は主にバンクーバーのダウンタウンやガスタウンなどという食事やショッピングができる場所に遊びに行きました。学校の近くの地下鉄の駅から様々な場所に行けてとても便利でした。しかし毎日食事を作ってくれて、自分を止めさせてくれる家族と時間を過ごすこともとても思い出になりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はこのカナダ短期研修に参加したことで日本ではできない多くの経験をさせてもらえたとし、英語で現地の人やほかの国の生徒とコミュニケーションをとることができた喜びを感じることができました。他の英語の上手な生徒を見ることで自分の英語学習の意欲も上げることが出来ました。私はこれからTOEICをもう一度受けてさらに自分の英語能力を高めたいと思います。



ウィスラーのつり橋



修了式の様子

佐々木 滂美 国際学部 国際学科 2年

埼玉県立入間向陽高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



ギヤスタウン

カナダ短期研修

【バンクーバーについて】

バンクーバーの夏はとても過ごしやすい気候です。雨が少なく、一か月の研修中はほとんど雨が降ることはありませんでした。晴れている日は日差しが強く暑いですが、湿度が低く日本のようにジメジメした暑さではなく、過ごしやすいです。また、昼と夜の温度差が大きく、夜は肌寒いので羽織れるものをいくつか持っていくと良いです。帽子やサングラス、日焼け止めも常に持っていました。バンクーバーはとても日が長く、午後8時を過ぎても明るく、暗くなるのが遅いため一日がとても長く感じました。また、街にはホームレスの人がたくさんいました。お金を求めて近寄ってくる人がいたり、夜の街を歩くのは日本の夜と比べると少し怖く感じました。

バンクーバーには、様々な人種の人が暮らしています。英語以外の言語を耳にすることが多々ありました。日本食が売られているお店もいくつかありました。バスや電車など、毎日利用する交通機関にも日本とは違う点があり、普通に生活するだけで異文化を学べることがたくさんあります。

【日常生活について】

私のホームステイ先では特に決められたルール等はなく、自由に生活することができました。どこに誰と行くかという予定は、伝えるようにしていました。食事は日本食が出ることもあり、どの食事でも美味しかったです。朝食はシリアルやパンなど冷蔵庫にあるものを自由に食べ、昼食はホストマザーが作ったものを待たせてくれます。夕食は基本的にホストファミリーと一緒に食べますが、放課後や休日の予定によって友達と外食をするか、

自分で決めることができます。入浴時間が決まっている家が多くありますが、私の家では自分専用のバスルームがあり、いつでも自由に使えました。しかし、洗濯は週に一回と日本とは違う習慣の決まりがありました。

放課後や週末は主にクラスメイトと観光地やショッピングに行きました。行きたい場所や買いたいものをホストファミリーに伝えると、お勧めの場所をたくさん教えてくれました。何度かホストファミリーがレストランやお祭りなどに連れて行ってくださることもありました。ホストファミリーと過ごす時間は、たくさん英語を話す良い機会にもなりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して英語だけでなく、様々な異文化を学び日本のいいところ悪いところを知ることができました。実際にホームステイをしたことで、改めて自分の意見をはっきり伝えることの大切さを実感しました。また、ホームステイ先では日本語が通じないため、自分の力で英語を話さなければいけない環境になることで積極的に実践することができ、とても良い経験になりました。

この研修は私にとっては他学部の研修であったため、初めは不安が大きかったですが、この研修で出会ったメンバーやクラスメイトからたくさんの刺激を受けました。間違えを恐れず積極的に英語を話すことが大切だと思いました。この研修に参加し少しでも成長できたことをこれからの生活や授業に活かしていきたいと思いました。



ランチ



クラスメイト

朝山 光志 外国語学部 英米語学科 3年

島根県立大東高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ短期研修参加



イングリッシュベイ

カナダ短期研修

【研修参加の動機について】

今回僕がこの短期研修に参加した理由は3つあります。1つ目は自分を無理やりにでも英語を話す環境に身を置きたいと考えたこと、2つ目は日本では経験できないことが経験でき、自分の成長につながると思ったこと、そして3つ目はこれが学生のうちに海外で勉強する最後の機会だと思ったことです。まず僕は英語で思っていることをうまく伝えられないことが多く、また日本で英語を話す機会はあまり多くはなく、上達するには限界があると感じていました。しかし留学によってすべての時間が英語を話さなければならない環境になり、ホストファミリーに対しては、当たり前ですが英語で自分が思っていることを伝えなければならないので自分を鍛えることができると思ったからです。次にバンクーバーでは自然を感じることができるアクティビティができると聞いていたので、それらを通じて英語力だけではなく、感受性を豊かにでき人間としての成長も図れると思いました。また、様々な人種や、様々な文化があり日常生活から日本にいたるだけでは経験することが難しいことを経験できると思ったからです。最後に、僕は3年生で来年の春からは就職活動が始まります。社会人になってから海外に行くことは可能であっても海外で勉強するとなると難しいです。また、僕はこの研修に参加する前まで一度も海外に行ったことがなかったので、この機会に日本の外に出て、生きた英語などに触れて英語学習への刺激にしようと思ったからです。



リンキャニオンの吊り橋

【日常生活について】

僕のホストファミリーはフィジー出身でした。それゆえ、ホストファミリーの英語の発音は今まで習ってきたものとは違うものが多々あり、聞き慣れるまで時間がかかりましたが、このような経験はカナダならではの経験なのでとても貴重だと思います。また、生活するうえでの特別なルールは特になく、何不自由なく生活することができます。しかし、水や電気などをとても大切にするので、電気を付けたまま寝たり、シャワーを浴びる時間には注意が必要です。他国の留学生はInstagramなどを使って連絡を取っている人が多いのでアカウントを持っているとすぐに連絡を取ることができます。また、他国の留学生は日本に興味を持っている人が多いので友達を作りやすいと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、スピーキングとリスニングを向上させることができました。特に、スピーキングは今までなら出てこなかった言葉が出てくるようになったと感じました。また、「間違う」ことの大切さに気付くことができました。今までは英語を話すときいつも間違えたらどうしようと思っていましたが、間違えることは当たり前で、間違えることを恐れてはそこで自分の成長が止まってしまうことに気付くことができました。なので、これからはその恐怖心を捨てて積極的に英語を話していけたらと思っています。そして、改めて自分の英語力の低さを痛感したので、授業や課題以外で英語に触れる時間を増やしていきます。



Discover Vancouver

沼尾 敦樹 外国語学部 英米語学科 3年

埼玉県立大宮光陵高等学校卒業出身
2016.4 拓殖大学入学
2017.8 カナダ長期研修参加
2018.8 カナダ短期研修参加



クラスメートと

【研修国・地域の紹介について】

私たちが一か月間過ごしたバンクーバーはブリッティッシュコロンビア州の一つの都市であり、同州最大の都市とされている場所です。2010年冬季オリンピックが開催された地として有名な場所ですが、そんなバンクーバーは様々な文化が入り混じっていることを感じることができる都市でもあります。街を歩けば、主にアジア圏の言語で書かれた看板やレストランのメニューを見かけます。また、地元の人たちはフレンドリーで、つたない英語で話しかけても理解してくれようとしてくれます。こういった部分からバンクーバーは多文化社会であり、英語を第一言語としない人も住みやすい都市とされているのだと感じます。バンクーバーのいたるところに近代的な建物が建設されている中、古くから建つ建物が数多く残されています。過去に植民地化されていた背景から様々な歴史を持つカナダにとって古い建造物を残されていることから歴史を大切にしていることがわかります。実際、私たちが通ったランガラ・カレッジにも先住民族が家の前や、お墓のなどに立てていたトーテムポールや、先住民族が使っていた言語で書かれた校訓が存在していました。ランガラ・カレッジには勉強をするには最適な図書館があったり、授業の疲れを癒すことができる芝生やカフェテリアがあったり、充実した学生生活を送るための十分な施設が整っています。また、学校からダウンタウンまでは電車一本で行けるため、放課後友達とショッピングや食事に出かけるにも最適な場所です。

【研修生活について】

クラスはリスニング形式のプレースメントテストの結果で6クラスに分けられました。それぞれのクラスは約15人前後で構成されるため、授業中にわからないこと

があっても気軽に先生に聞くことができる環境があります。また、このプログラムでは主にリスニング、スピーキングを中心に行っていくため、普段日本ではあまり使うことのない英語をより身近にすることができます。また、授業中に学べる英語は普段私たちが勉強しているような文法や語法はもちろんですが、口語的な表現ができる英語も普段英語を使う先生から学ぶことができます。授業内容は、世界で起きている問題や、文化の違いなどトピックだけを見ると難しそうに見えますが、先生の分かりやすい説明とほかの国から来たクラスメートの意見で理解を深めることができます。宿題は週に一回、ライティングの課題と次の授業内で話し合うために教材を少し読んでくる程度です。宿題があまりない分、放課後有意義に過ごすことができます。このプログラムのいいところはもちろん英語を学べることですが、ほかの国の文化をその国の人から直接教わることができることです。将来海外で働きたい人や海外の人とかかわる仕事をしたい人は文化の違いを知っているとより円滑なコミュニケーションをとることができるのではないのでしょうか。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回、アシスタント学生として1か月間短期研修の学生をサポートしましたが、研修学生の一員として見本となる学生になるよう努めました。力不足な部分が多々ありましたが、最終的にみんなが充実した研修を送れたのではないかと思います。自分自身これから就職活動が始まりますが、この経験から誰かをサポートできる仕事に就きたいと思います。



Whister にて



ナイトマーケットにて

【中国（第29回）】 北京大学

1. 研修概要

1. 研修先 中国 北京大学
2. 研修期間 2018年8月4日～2018年9月1日
3. 授業形態 語学研修
4. 滞在方法 留学生寮
5. 概算費用 学費、滞在費、旅費など 約295,000円
6. 引率者 関口 美幸 外国語学部中国語学科准教授

2. 日程

- 8月4日（土） 羽田発 北京着
大学送迎バスにて宿舎へ
- 8月5日（日） 入学手続き
- 8月6日（月） クラス分けテスト、オリエンテーション
- 8月7日（火） 授業開始
- 8月31日（金） 授業終了
- 9月1日（日） 北京発 成田着、通関後解散

3. 参加者名簿

氏名	学年	学部	学科
上里 健	1	外国語	中国語
小林 勇磨	1	外国語	中国語
佐々木 聖浩	1	外国語	中国語
杉山 日菜	1	外国語	中国語
直井 雅	1	外国語	中国語
長尾 拓哉	1	外国語	中国語
藤田 夏蓮	1	外国語	中国語
池田 悠人	2	外国語	中国語

氏名	学年	学部	学科
坂田 侑介	2	外国語	中国語
中島 瞭	2	外国語	中国語
林 泰智	2	外国語	中国語
村上 百恵	2	外国語	中国語
山田 宏明	2	外国語	中国語
坂本 佑介	2	工	電シス工
佐々木 雄也	3	外国語	中国語
中原 華美	4	外国語	中国語
吉田 圭吾 (アシスタント)	3	外国語	中国語

※学年は研修参加時のもの

上里 健 外国語学部 中国語学科 1年

都立千早高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



中国の食事

中国研修での1ヶ月

【研修国・地域の紹介について】

私は今回の研修で日本と中国では文化や習慣、食生活など様々な点で相違点があると実感しました。ここでは私が特に驚いた例を2つ挙げます。

まずは中国の生活文化です。中国（北京）では主にモバイル決済が主流になっており現金を持つ人は全くと言っていいほどいませんでした。学校の食堂から始まり、買い物、出前、地下鉄、バス、シェア自転車これら全てモバイル決済をすることが可能です。モバイル決済が主流になることにより現金が少なくなっており店で現金会計をする時店側もお釣りが無い時があり会計をピッタリと済ませないと会計が出来ない場合が何回かありました。また、店員も現金会計に慣れてないように見え、戸惑ってしまうことが何回かありました。

次に中国の生活習慣です。中国では朝早くから行動をする人が多く、反対に夜遅くに行動する人は日本と比較すると大分少なかったです。だからスーパーやお店、ご飯屋は夜遅い時間に行くと閉まっている事が多かったです。しかし、場所によっては逆に夜になると人が増え、栄える場所もありました。中国の学生が言っていたのですが中国ではお昼休みに食事をする時間だけでなく昼寝をする時間もあるそうです。これは午後の仕事や勉強の効率をよくする目的でやっているそうです。

【研修生活について】

わたしは今回の北京大学への短期研修では6組（中級クラス）で1ヶ月学びました。1ヶ月学んで思った事は、普通に大学1年生から勉強を始めた人で中級クラスは厳しいと感じます。理由は以下の3つです。

1つ目は拼音がない事です。拼音がないとその単語は

なんて読むのが分からなく教科書を理解するのに時間がかかります。また、先生に指定されて読むことがあるのですが拼音が分からないと読めない事があります。

2つ目は、単語が難しい事です。教科書では新出単語として扱われている単語があるのですが1年生から中国語を学び始めた人からしたら基本的に本文は全部新出単語みたいなものなので1から調べないと授業のないうまくわからなくなると思います。

3つ目は周りのレベルです。6組にいた人はみんな10ヶ月以上中国語を勉強した人が大半でした。授業の説明も中国語と英語のみだったので分からない人はどんどん差ができてしまうと思います。周りとの差がある状態で授業について行かなければならないので予習復習をしっかりやらないとついていけないと思います。

以上の3つの理由から中国語を勉強し始めた人は中級クラスではなく初級クラスからやることをお勧めします。また、どうしても中級クラスからやりたい人は授業以外の時間に予習復習をたくさんやればついていけると思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して私は聞き取る力と話す力が成長したと思います。中国について最初の日少しぶらぶらしていたのですかその時はほとんど聞き取れなく話せませんでした。また、授業も同様な事がありました。ですが日に日に話している事が分かるようになって、自分がなにをしたいかなどを伝えられるようになりました。研修の残り1週間ではほとんど不自由なく過ごす事が出来ました。

この研修で得たことを無駄にしないように更に中国語を勉強し、自分の将来の進路に活かしていきたいと思えます。



クラス写真



万里の長城



頤和園

小林 勇磨 外国語学部 中国語学科 1年

埼玉県立秩父高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加

初めての中国は…

【研修参加の動機について】

私が中国を研修先として選んだ理由としては、将来外国語を使ってコミュニケーションをとったり、仕事に役立てたりしたいからです。最近では日本に住んでいたりと、観光にくる中国人が増えているため、中国語の重要度が上がっています。

また研修ですが、これはなるべく早く行ったほうがいいと思っています、それも1ヶ月以上いったほうがいいと思っています。なぜなら、言語を学ぶのはまず聞くことから始まり、日本語が通じないことで耳が慣れるのが早くなるためです。ちなみに、私は今までに中国語を学んだことはありませんでした。そんな私でも1ヶ月生活してただけで単語や簡単な文章を聞くことが出来るようになっていました。また、研修ではホームシックになりがちですが、1ヶ月の境目で生活が楽しくなってくるような気がします。1ヶ月だけだとちょうど楽しい時期に帰ることになってしまうのもったいないような気持ちになりました。

【日常生活について】

今回の短期研修では学校の寮を借りて生活していました。寮は二人一組で、ご飯などは各自で食べに行くというような生活でした。洗濯は寮に共有の洗濯機があったため、問題はありませんでした。

遊びに関しては、学校が平日の午前中のみとなっていて、放課後は門限まで自由時間でした。北京だと地下鉄がしっかりと整備されているため、放課後に観光するのでも全然問題はありませんでした。たまに放課後や週末に皆で一緒に芸術鑑賞など決まっていた行事がありましたが、バスが送迎をしてくれたので万里の長城などは簡単に行くことができました。



万里の長城

生活費ですが、1ヶ月でいろんなところに行ったとしても7万円ぐらいあれば余裕で足りる。中国の食料品は結構安く、食費にはほとんどかかりません。地下鉄も片道3元~10元(48円~160円)なので気軽に観光に行けます。また、中国は治安が良いとは決して言えないので、「普段から多くのお金を持ち歩かない」、「財布は盗まれても良いように安い財布を使う」、「あまり現金で持たずカードを持ち歩く」という3つのことに気をつけました。

最後に携帯についてですが、基本的に中国のSimカードをいれて使います。寮ではWi-Fiが使えましたが、街中では通信を使いすぎないように注意が必要です。LINEやTwitter、FacebookはVPNを変更しないと使えないため、普段はWeChat(微信)という中国のSNSアプリを使っていました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、まず耳が慣れたことによって中国語を学びやすくなりました。また、伝統や文化、建造物への理解も深めることができました。中国人と多く接したこともあり、考え方の違いというものも実感させられました。

今後の学生生活では研修を生かし、聞くことと話すことを積極的に頑張っていきたいと思っています。また、今後の進路はまだ明確ではありませんが、いずれ海外で働きたいとは考えているため、中国語が役に立つ日が来ることを願っています。



中国の食事

佐々木 聖浩 外国語学部 中国語学科 1年

札幌新陽高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



2班のクラス

短期研修について

【研修生活について】

研修先の授業は、まず自分に合ったレベルを選びます。自分は最初4班でしたが先生の説明がすべて英語だったので理解することができず3班に下がりました。そこでも説明が英語で理解することができませんでした。そこで自分はさらに2班に下がりました。そこでは英語の説明がありました。中国語の説明もありました。そこで自分は2班にいることを決めました。授業の内容は2班なので簡単ではありましたが基本から学びなおすことができ先生方の説明も中国語ではありますがわかりやすく理解することができました。具体的には最初、単語から入ります。一人で読んだあとみんなで読みました。そのあと本文をみんなで読みました。全体的にノートを書くのではなくほとんど読むことが多かったです。先生がホワイトボードに書いたことをみんながジェスチャーで伝えて答えるという体験型の授業もありました。授業の中では二人ペアを作り、本文を読むことがありそれで他の大学の方と交流したり他の国の人と交流がありました。その中で二児の母でスペインの外交官の方がいて驚きました。それと何回も同じマジックを見せるドイツ人の方もいました。今ご紹介した二人もなのですが日本の学生と外国の学生と一緒に授業を受けると圧倒的に外国の学生の積極性を感じました。研修先での宿題はほとんど単語の書き写しと本文の予習という簡単な物が多かったです。

【日常生活について】

研修先の日常生活は、まず寮ではシャワー、トイレ、洗面台が隣の方と共有でした。最初は大丈夫でしたが帰国一週間前くらいの時に出る水が全部黒くなるという問題がありました。そして電気代がかかることを後々知りました。節電していましたが2回止められることがありました。自分の寮での一日は、朝6時半に起き、朝ご飯を食べずに学校に行き、授業が終わりすぐ寮に戻り少しご飯を食べて寝て夕方に起きて夜ご飯を食べて就寝という生活がほとんどでした。もちろん外出することもあり、王府井、中関村、サンリートン、秀水街、石花洞など行きました。王府井では、友達がサソリを食べたりしました。夜は、先輩方と目白大学の先輩方と大学内でバスケをしたりなど楽しいこともとてもありました。食事は、自分が行ったところは全部おいしくメニューも豊富でした。値段は安いところもあれば高いところもありました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して中国語は、もちろん積極性と価値観の違いなどを得ました。研修で学んだことを中国語の授業などで活用していこうと思いました。進路は変わらず観光業で今回学んだ価値観の違いなど日本人と違って外国人はどのように考えているか、これからも学んでいこうと思いました。



石花洞



食事の様子

杉山 日菜 外国語学部 中国語学科 1年

茨城県私立常総学院高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



修了証授与

【研修国・地域の紹介について】

日本との相違点について

日本の夏に比べて、過ごしやすかったです。8月後半を過ぎると朝は、寒いと感じるくらいでした。

私は、長袖をもっていかなかったので少し寒かったです。中国は日本と違って譲り合いがあまり感じられなかったです。

日本と中国は使っている調味料が違うなと感じました。日本では感じることでできない味や見た目を感じる事が出来ました。正直、私は苦手なものが多かったです。

北京大学の授業はレベル別になっていて、自分に合ったレベルの授業を受ける事が出来ます。毎日宿題がでました。さらに、単語テストもやりました。

北京大学の授業でジャスミンの歌を聴いたりしました。日本のいいところ

まず中国の空港に到着して思ったことは、空気の汚さです。10m 先が空気が汚れてしまっていて見えませんでした。日本に住んでいて、そんな経験がなかったので驚きました。また、中国は信号など関係なく赤でも人が渡っていることが多くいました。なので、信号を渡るのに慣れるまでは苦労しました。

バス停では時刻表がないなど、日本では考えられないこともたくさんありました。

研修先の街について

駅が近くにあり、食べ物屋さんもたくさんあってとても生活しやすかったです。

また、近くに銀行もありすぐに両替ができました。

研修先の施設

とても広く寮から自分の教室に行くまでに時間がかかるし、疲れてしまいます。

大学内は、とても綺麗で勉強がしやすい環境でした。

大学内は Wi-Fi 環境でとても便利でした。

大学内の寮内に住んでいる人が多く、小さい子供が大学内に沢山いました。

【日常生活について】

寮生活の生活様式について

寮はカードキーで常にカードキーを持ってないと鍵がかかってしまいます。

1階と3階に洗濯機とIHと電子レンジがあります。昼食は大学内の学食で食べることができます。朝と夜はご飯が出ないので各自で食べなければなりません。

日本からサトウのごはんやカップラーメン、味噌汁、レトルトカレーなどを持っていくといいと思います。

22時が門限で、22時に点呼があります。他大学と接することが多く、たくさんの友達ができました。

寮内も拓殖大学生だけではなく、他大学も住んでいます。私の隣の部屋は、東海大学の方でした。

食事が出ないので持って行ったお金のほとんどが食事代でなくなりました。

土日は休みなので、出掛けるとなると多めに持って行ったほうがいいと思います。

寮内には、ジムやボーリング、バドミントン場があります。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

中国短期研修に行くまでの中国のイメージは、あまり良い印象ではなかったのですが、実際に1ヵ月間生活してみたいぶ良い印象に変わりました。

さらに日本での生活がどれだけ恵まれているかを知ることができました。

また中国に行ける機会があればぜひ行きたいと思える1ヵ月間でした。来年も短期研修や長期留学、交換留学などに挑戦したいと考えています。



授業風景



クラスメイト

直井 雅 外国語学部 中国語学科 1年

私立常総学院高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



留学先の寮

北京での平成最後の夏

【研修参加の動機について】

まず、中国を選んだ理由は中国語学科で専攻していることが第一の理由です。

そのほかの理由として、高校時代に台湾に修学旅行で訪れたことがあります。台湾と中国は同じく中国語圏ですが、繁体字と簡体字で漢字の書き方自体違うものがあります。台湾には訪れたことがあるので主に専攻している簡体字を使っている中国本土で生活してみたいと思ったことが今回の研修に参加した動機です。

語学を本場で学びたいというのはもちろんですが、語学だけでなく中国の文化や現代社会の人々の生活習慣、直接歴史的建造物を見たりしたいと思ったことも今回参加した理由の一つでもあります。

【日常生活について】

北京大学の寮での生活様式は、一つ目のドアを開けると共有スペースがあって二つのドアがありそこはそれぞれ個室の生活スペースがあります。トイレ、シャワールームは共同です。隣の部屋の方は他大学の方で始めは不安でしたが仲良くなり一ヶ月楽しい寮生活を送れました。寮生活で決められていた規則は特にこれと言ってありませんでしたが、夜10時に皆で集まり翌日の予定の確認やその日あった出来事を中国語で報告したりしました。放課後の過ごし方は王府井に行ったり五道口にショッピングしに行ったり頤和園に観光しに行ったりしました。週末は友達の中国にいる親戚の方が石花洞へ行ったり北京動物園にパンダを観に行ったりして週末を過ごしました。

同じクラスにはアメリカ、韓国、オーストラリア、イギリス、フランス、スペインなどたくさんの国からの留学生がいました。他国の言葉が話せなくてもお互い中国語が話せるので不便ではありませんでした。中国語で会話することによって勉強にもなり、仲良くなることにもつながりました。

中国は何をするにも安く済みます。私が一番びっくりしたことはタクシーの安さです。1時間ほど乗って遠くに行っても日本円で900円ほどでした。日本では初乗り料金で700円程するところもあるので中国のタクシーの安さにはとてもびっくりしました。中国に住んだらどこにでもタクシーを使っちゃうと思います。

お金関係は、一ヶ月日本円5万円ほど現地で使いました。通信は、大学のWi-Fiがあるので使えることは使えるが、街に出かける際繋がらなくなるので中国のSIMカードを買っていくことをおすすめします。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、日本と異なる習慣や文化に始めは戸惑い、避けて生活していたので生活しづらいことが多かったのですが生活していくうちに他国の文化や習慣を受け入れていけば楽しく生活できることに気づきました。夏休みは特に勉強から離れがちで新学期には前期の授業内容は忘れがちですが単語力や本場の中国語に耳慣れたので今後の授業にはいいように影響してくると思います。将来中国語を生かせる仕事、又は中国の会社などに関われたらいいなと思っています。



京劇



クラスのみんなど

長尾 拓哉 外国語学部 中国語学科 1年

長野県立塩尻志学館高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



北京動物園

中国短期研修に参加して

【研修参加の動機について】

私は、高校3年生の時に中国語の学習を始めました。高校の授業をやっていく中で、中国語に興味を持ち、大学で、もっと深く中国語を学びたいというふうに思いました。大学に入学後、中国語を学習していく中で、言語だけでなく、国自体に興味を持つようになりました。中国に行き、生の発音、中国文化の学習、中国語力の向上、学習意欲の向上、また、他国から留学してくる、学生たちと交流をしたいと思い、短期研修への参加をきめました。また、平成最後の夏だったので、大きな思い出を作りたいという思いから、研修に参加することにしました。

【研修生活について】

私は、北京大学の初級中国語コースというクラスで授業をしました。大学で習ってきたことの復習的内容プラス新しい単語や文法などを習うことができました。ゲームや二人一組、三人一組で行われるペアワークが中心で、毎日飽きることなく、学習することができました。毎日宿題があるので、その日の復習もしっかりできました。授業以外でも、買い物や、タクシーに乗るとき、食事をするときなども、常に中国語が耳に入ってきて、リスニングの力もついていると感じました。また中国語での受け答えなども少しできるようになりました。こういった体験は、留学だからこそ体験できることだと感

じました。研修生活は、私の中国語への意識を高め、高い経験値を得ることができました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

一か月という短い研修期間であったが、とても濃い一か月を送ることができました。研修を通して、中国語をすごく流暢に話せるようになったわけではないですが、前よりも発音がよくなり、簡単なコミュニケーションをとることはできるようになりました。また、間違えたらどうしようと思ってしまうことが少なくなり、前よりも、積極的に中国語を話せるようになりました。短期研修を通して、中国語学習のモチベーションが上がり、さらに中国への興味が強くなりました。この気持ちを忘れずに、後期の中国語学習に力を入れて、部活と学習を両立させていきたいです。私は中国語を話せる警察官になりたいと思っています。2020年には東京オリンピックもあり、日本は注目されると思います。中国は日本からそれほど離れていないので、たくさんの中国人が日本に来ると思います。日本と中国をつなげられる人間になりたいです。明確な進路は決まっていないので、どうなるかはわかりません。なので、これからの学習に手を抜かず、卒業するときには、中国語を完璧に話せるようにします。研修を通して大きく成長できたと思います。



授業風景



最終授業

藤田 夏蓮 外国語学部 中国語学科 1年

旭川龍谷高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



授業の様子①

中国での生活と学びについて

【授業について】

授業はスピーキングのクラスと、文法のクラスの2クラスがあって、それぞれ先生が1人ずついます。授業は8時から始まり、12時に終わります。スピーキングのクラスと文法のクラスはそれぞれ2時間ずつあって、1回の授業は50分です。大学の授業より少し短いのでとても受けやすかったです。教科書もそれぞれ2つずつあり、内容は全くバラバラという訳ではなく、重なっている部分もありました。どちらのクラスも宿題があり、どちらも WeChat を使って提出しました。クラスは1から10まであり、上のクラス程数字が大きくなります。私のクラスは2クラスでした。最初は拓大の授業より簡単などころから始まりましたが、後半になると難しい内容や新しい単語も多くなり、拓大の授業の予習という形になりました。2クラスの人数は20人と、他のクラスより少し多かったらしいです。私たちの大学の他にも、日本の大学もいくつかありましたし、ヨーロッパの方から個人で留学できると言う人までいました。授業は会話を中心にして楽しく行われました。テストもあったので復習もしっかりできていたと思います。私のクラスはとても仲が良く、和気あいあいと切磋琢磨しながらお互いを高めあえたのかなと思います。

【食べ物について】

1日目はコンビニにしか行けなかったのが、カップラーメンを食べましたが、あまり口には合いませんでした。シーフードのカップラーメンが、まだ日本のカップラーメンのシーフードに味が似ていたので、食べることが出来ました。基本的にカップラーメンはそのシーフードのカップラーメンをずっと食べていました。また、日本の絵柄が描かれていたカップラーメンも、美味しかったです。北京大学の食堂でも食べました。いつも友達と待ち合わせをしてみんなで食べていました。食堂はバイキング方式で、盛り付けられているおかずとご飯、そしてパンのお皿を自分が食べれるだけ取って、最後にお会計をする形になっていました。現金で払う人はほとんどいなく、皆だいたい北京大学のカードにお金を入れて、そのカードでお会計をしていました。ちなみにそのカードは寮の近くのコンビニでも使うことが出来ます。また、外出してご飯を食べに行くこともありました。普段は近場の日本料理店で食べていました。その料理店は少し値段は高めでしたが、値段に見合う程の量が

あって、食べごたえがありました。少し多いくらいだと思います。私たちは基本定食を頼んでいました。以前、中国の七夕のときにたまたまそのお店に寄った時、ディナーコースを頼むことで色々な特典があるということでそのコースを頼んだことがあります。周りはカップルしかいませんでしたが、私たちは3人でそのコース料理を割り勘しました。値段はとても高かったですが、1輪の薔薇と赤ワインもついてきての値段だったので妥当なのかなと思います。その後赤ワインはお酒の飲める人達で分け合いました。私たちは中国にいながら日本食ばかりを食べていたので、中華料理は食堂か観光地に行った時くらいしか食べませんでした。しかし、中国にもマクドナルドや、吉野家、丸亀製麺など探そうと思えばいくらでも日本で馴染みのあるチェーン店は見つかるので、食べたい時に食べることができます。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はこれまで海外旅行といえば台湾にしか行ったことがありませんでした。そして1ヶ月も長い期間海外に滞在したことがありませんでした。1ヶ月もいると、旅行とはまた違う良さや、住むことによって出てくる嫌な点も体感することが出来ました。私は誰にも相談せずに1ヶ月の持ち物を決めたので、持っていかなかったものや忘れてきたものが多かったです。なので、コンビニで現地調達しなければなりません。台湾では充分だった荷物も、中国では足りなかったのです。また、台湾でもそうでしたが、こちらが困っていても外国の人は助けてくれないということを改めて感じました。1日目、WiFiが2日目からつくと言われ、その日は何も分からないまま1日が過ぎました。ネットが使えないので、調べることも出来ず、連絡手段もままならないので、出かけることも出来ませんでした。食べ物もカップラーメンで、言葉もまともに話せなかったのが、かなり精神的に厳しかったです。しかし、分からないなりに試行錯誤して過ごせたので、生き抜く力というもの身についた気がします。また、日本との違いである文化や食習慣、人柄や国柄など、双方から学べた気がします。今回の留学から、これからの中国語学習に活かしたり、また中国人留学生や中国人観光客の会話を積極的に聞いて、出来れば話しかけられるくらいまで話せるようにしたいです。



授業の様子②



日本食

池田 悠人 外国語学部 中国語学科 2年

私立相模原高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



アートスポット

北京留学を体験してみて

【日本と中国の違い】

北京に1ヶ月間行って感じた日本との相違点は、飲食店などは閉店時間が早く夜ご飯は早めに取りなければ食事ができる環境がなくなります。北京では現金の取引やクレジットカードを使えるところがほとんどなく、WECHATのQRコード決済を導入していて、日本が凄い時代に遅れていると感じます。日本と北京では、物価がほとんど日本の3分1で日本と価格帯が大分違いがあったので、とても安かったです。

日本人はルールやマナーをしっかりと守っていて、素晴らしいと思うが、中国人は自由に生きている感じがしてストレスなく暮らしていたと思います。日本は、環境マナーは凄い綺麗なところがいいです。日本人は、働いている人の対応がしっかりと安心してやりとりができるところが良いです。北京大学の食堂は、様々な食堂がたくさんあり、量が多く値段も安かったので素晴らしかったです。日本ではタクシーの値段が高く、中国では13円で初乗りができることが驚きです。またバスは1円で乗車することができ、地下鉄では、日本でいう高尾から渋谷までの距離だと400円かかるところ北京では5円で日本円にすると80円で日本との値段の違いに驚きを感じます。

【北京の暮らし】

北京大学の寮は部屋が一人部屋で、部屋も大きくのびのびと暮らせたことです。ですが、水周りの環境があま

り整っていない黒い水が出てきてまだ生活環境が整っていないと感じたことです。

北京の三里屯という場所は都会で歩いている人を見ても富裕層な人たちだと感じ、銀座に行っている気持ちになります。北京は現在バブルの時期で、土地が2LDKほどで億円はかかってしまうほど高くなっています。住みたいと考えましたが土地だけでもこんなに高いと萎えます。中国の現地の人と仲良くなり次行くときは泊まらしてくれるので、安く旅行ができるので嬉しいです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、中国は自分という存在をぶつけなければ、相手に伝わらないので自分の思っていることを遠慮せずに言えるようになったことです。また、言語を学びに留学をしに行ったので積極的に現地の人に話しかけ、約1年間中国語学科で勉強した言語が通じたことと、話しかけることによってコミュニケーション能力が留学に行く前よりもスキルアップできたことです。研修で得たことで今後の学校生活は、今やっている中国語の能力を上げて、来年の2月に旅行しに行くので、変わったところ実感できるよう勉強を頑張っていきたいです。

今後の進路は、中国語を学んでいるのに使わないことがないように、今できる精一杯のことをコツコツと頑張っていきたいです。



北京大学の近くの場所



どこまでも長い万里の長城

坂田 侑介 外国語学部 中国語学科 2年

徳島北高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



三里屯

短期研修を通じて感じたこと

【日常生活について】

月曜日から金曜日は朝8時から12時まで授業があります。大学内はとて広いので朝は早めに寮を出ます。授業は一日四コマあり、一コマ50分です。一コマごとに10分間の休憩があります。北京大学でのクラスは、事前の調査によって10クラスに分かれていて、自分の学力にあったクラスで学習することができます。使う教科書も違うので授業についていけないというような心配は要りません。一度授業を受けた後に、期限内であればクラスを変更することもできました。授業後には大学内の食堂で昼食を食べていました。大学の中には食堂が沢山あるので、一ヶ月間食事に飽きることはありませんでした。そして授業のない週末には全体で課外活動があり、万里の長城へ行ったり京劇を鑑賞したりしました。

平日は毎日授業がありますが、午後は自由時間なので買い物や観光など十分動き回ることができます。

【研修国・地域について】

中国に行って、まず驚いたことは交通事情です。車の交通量が日本とは比べ物にならないほど多く、常にクラクションが鳴っていました。道路を横断する時は周りにとても注意しました。電車賃の安さにも驚きました。観光などで移動するとき電車代がそこまでかからないのでいろんな場所を回れました。

そして中国といえば空気汚染が心配されていますが、実際には特に気になりませんでした。

気をつけなければいけないことは、水です。日本のように水道水は飲めません。水は毎回スーパーやコンビニなどで購入していました。お茶も中国では砂糖が入っている甘いお茶がほとんどでした。日本で売っているようなお茶が飲みたい場合は、無糖と表記されているものを選ぶ必要があります。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

僕は、今回の留学で初めて外国へ行きました。行く前は、普段のニュースなどの影響で中国に対してあまり良いイメージがなく不安でしたが、実際学校の先生や街の店員の方を含め現地の方は皆暖かく良い人ばかりで、中国に対する考えが変わりました。この研修期間で僕は様々な人とコミュニケーションを取ることができました。そこで、自分が伝えたいことがうまく伝わらないことへの悔しさや、伝わったときの喜びを通して、一言語を話せることになるということは自分の世界を一つ広げることになると強く感じました。僕の語学力はまだまだ完璧なものではありません。今後の学生生活では語学力の向上を目指し今まで以上に学業に励み、自分の進路の幅を広げて行きたいです。



頤和園



屋台のサソリ

中島 瞭 外国語学部 中国語学科 2年

東京学館新潟高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



研修参加メンバー

短期研修を終えて

【短期研修参加の動機について】

私は、中国語学科に入学してからこの4年間の内に絶対、一度は短期か長期留学を経験しようと考えていました。一年生の時はまだ大学というものに慣れておらず、留学を見送ってしまいました。そして二年生になり大学生活に慣れ留学を考えていたところ同じ学科の先輩と一緒にいかないかと誘われ、ちょうどいいタイミングだと思い今回の短期研修に参加することに決めました。自分の現在の語学力を試すのと、更なる語学力の向上のためには絶対に留学に行った方がいいと私は思います。

【日常生活について】

私はまず海外に行ったことがなくすべてが不安だらけでした。しかし、仲間と先輩に助けられながらも毎日楽しく留学生活を送ることができました。午後の自由時間には仲間と先輩と一緒に有名な観光地に行ったり美味し



北京動物園

いご飯屋探しなどをしました。特に牛肉餡餅という食べ物が気に入りました。交通の面では日本とは違い青信号で渡っていても車やバイクが平然と走ってくることにびっくりしました。さらにびっくりしたのが自転車です。日本では一人一台持っている自転車ですが、中国ではシェア自転車がほとんどで自転車についてのQRコードをスマホで読み取り決済することで、制限時間内ならどこから乗ってもどこで降りてもいいという仕組みです。不便だなと感じたことはやはりお風呂です。外国ではシャワーが一般的なため湯船に浸かる日本人にとって、シャワーだけでは疲れがあまり取れませんでした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の短期研修に参加して、今の中国を見て触れることでたくさん学ぶことができたと思います。留学に行く前はあまり良い印象はありませんでしたが、いざ留学に行ってみると現地の中国人の方たちはとても親切で気さくに話しかけてくれますし、汚いと思っていた街はきれいでした。メディアの情報だけを鵜呑みにして勝手な偏見を持っていた自分がとても恥ずかしく思いました。何事も自分で見て体験して初めて分かるものだと思います。新学期が始まりますがこの留学で学んだことを活かし、モチベーションを高く持ち勉学に励みたいと思います。進路については、これがやりたいというものにははっきりとは決まってはいませんが今習っている中国語を活かした職業に就きたいと考えています。



内モンゴルの朝日

林 泰智 外国語学部 中国語学科 2年

石川県金沢龍谷高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.3 中国短期研修参加



動物園にて

中国北京大学短期研修報告書

【研修参加の動機】

・志望動機
私はなぜ、この北京大学の短期研修に参加したかという、今、外国語学部の中国語学科で中国語や中国の歴史などについてたくさん学んでいます。私は将来、語学(中国語)を活かした警察官になりたいと思っています、中国語をもっと上達させるには、実際に中国に行って、現地の人とたくさん話したりしたほうが良いと思ったからです。その他にも、中国の食べ物や文化にも興味があったので、それも知りたいと思い、この北京大学の短期研修に参加しました。

・研修に行くおすすめの学年、タイミングや準備、スケジュールについて

研修は短期の他にも長期がありますが、おすすめの学年は、短期なら一年生か二年生のうちに行った方がよいと思います。なぜなら、三年生になると就活もあるし、中国語をもっと上達させてから実際に現地に行って使ってみたいから、一年生で行くのは早すぎると思うなら、二年生で行くのがおすすめです。

・出発までしておくべきこと(拓大で履修しておくべき科目)について

短期研修は一ヶ月なので、長期と比べたらあまり持っていく物は少ないかと思っています。スーツケースは、大きいサイズを一つ+バッグの人もいれば、小さいスーツケースを二つ+バッグの人がいました。どうするかは人それぞれですが、自分は大きいスーツケース一つ+バッグの方がよいと思います。たくさん歩くので、できるだけ動きやすい方がよいと思ったからです。中国に着いたら、まず日本円を中国元に変えないといけません。中国の銀行で変えることができますが、中国語で言わないといけません。なので、事前に、「日本円を中国元に変えたいです」の中国語は勉強しておいた方がよいと思います。あと、行動はできるだけ友達と行動したほうがよいです。

【日常生活について】

・生活する上での注意事項、決められた約束事や条件について

中国に行く前に事前研修があると思うので、それはしっかり遅刻せずに参加してください。大事な話をたくさん聞けるからです。自分は何回も遅刻、無断欠席してしまいました。

・放課後や週末の課外活動について

授業は、中国は8時に始まり、午前で終わります。その後、お昼ご飯を食べて、友達と地下鉄やタクシーなどを利用して出かけて、実際に現地の人と中国語を使って話してみたりすると思います。

・他国留学生のつながり

クラスには、他国の留学生がたくさんいます。例えば、アメリカ、韓国、ドイツなど。その人らとも、少しは中国語でコミュニケーションをとることが可能です。とても楽しいです。

・買い物、お金の管理、食事について

買い物は、コンビニでもいいし、地下などにスーパーとかがあったりするので、スーパーで買い物をした方が、必要なものがたくさん手に入ります。

お金の管理については、少しずつおろしたほうがよいです。なぜなら、現金で持ち歩いていると、盗難などにあってしまうからです。

食事は毎日、朝、昼、夜、自分で用意しなければなりません。大学の食堂でも朝、昼、夜、食べることが可能です。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私が、この中国北京短期研修を通して得たことは、中国語のレベルの上達と、友達と協力することの大切さです。私は将来、語学(中国語・英語)を活かした警察官になろうと思っています。この中国北京短期研修で中国語や、中国の文化や食べ物についてたくさんを学びました。これらのことを、将来、警察官になったら活かしたいと思っています。



スターバックスにて



外から見た北京大学

村上 百恵 外国語学部 中国語学科 2年

都立松が谷高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



留学生

北京短期留学で知っておいたほうがよいこと

【研修国・地域の紹介について】

私が北京大学に行った夏は晴れが多くて暑かったです。雨の日は数えるほどしかありませんでした。空気は心配しているほど悪くは慣れれば平気でした。北京大学は学生証や許可書がなければ入れません。校門には中国人の観光客が沢山います。北京大学は中国人にとって憧れの場所のようで、中に入りたいため警備員さんに知り合いだと言って通してほしいと言われたこともあります。この年は北京大学120周年で、それを記念するオブジェクトが置いてありました。夏休み期間中は留学生以外の学生はいません。北京の街は道路・建物・敷地など、広大な領地があるからか広々と建てられています。北京大学の中も迷子になるくらい広くて、食堂は大きいものから小さいものまで10以上もあり、安くて種類も豊富です。大学内には運動場や体育館が何個もあり、バスケットや卓球などができます。教室は広い所もあれば狭い所もあり、綺麗なところもあれば、そうでないところもありました。大学内ではいつでもどこでもフリーWi-Fiが利用できます。また北京大学は都会のど真ん中なのでどこに行くにも交通の便がいいです。

【日常生活について】

私が住んでいた留学生寮は1人部屋、トイレ・お風呂は2人共用でした。留学生寮によっては、2人部屋のところもあります。私の寮からは10秒も歩かずにはコンビニ(コンビニ)があります。留学寮の敷地内にはバドミントン、ボーリング、カラオケなどができる娯楽施設があります。留学寮に住んでいる学生は割引価格で利用できます。学校内と同様に寮の中ならいつでもフリーWi-Fiが利用できます。寮内には何箇所も洗濯機が設置されており、部屋のカードにお金をチャージして使う形です。注意すべきことは自分が電気使い放題の寮か制限がある寮か事前に確認しておくことです。でないと突然停電になってしまうことがあります。寮から歩いて20分のところに中关村という大きな繁華街があります。必要な生活用品をすべて調達できます。放課後や休日におすすめ

の場所は、お得に買い物なら西単や秀水街、夜景が綺麗で飲み食いするなら三里屯、お昼から夕方にかけて食べ歩きをするなら王府井、観光するなら頤和園や円明園です。大学での校外活動は、雑技や京劇の鑑賞、万里の長城に行くことです。また、内モンゴルを希望制で参加することができます。値段は高いのですが、砂漠や大草原に行ったらラクダや馬に乗ったり、4つ星ホテルやゲルに泊まったり、なかなか経験できないものが経験できます。また、個人で行くにも現地状況の把握や治安の問題もあるので北京大学の団体のプロのガイドさんがいる中で行くことをお勧めします。全体的に日常生活ですごく困ったことはなかったのは安心して、怠けずに学習して、後悔しないように思い切り遊んだらいいと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修で自分が今まで人や本、媒体を通して得た間接的な情報と実際に自分で足を運んで目で見て耳で聞いて、交流して肌身で感じて知った情報はまったくと言っていいほど違うことが分かりました。同じ中国でも地方が違うと文化や人の性格がこんなに違うのかと驚きました。また、数年たっただけでこんなに技術の進化が急激に進んでいることを知り、自分の勉強不足を反省しました。現地で、今まで学んでいた語学や知識を活用できたので、学習していることが無駄ではないと知りました。これからよりいっそう勉学に励みたいと思います。また、現地で知った自分の語学での弱点である成語や難易度の高い用語の使いこなし、不足している知識を今後補っていきたいと思います。最後に、研修を通してやはり学んでいる語学を使って仕事したいと思いました。



内モンゴル



万里の長城

山田 宏明 外国語学部 中国語学科 2年

福島県立白河実業高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



9クラス

北京大学短期研修プログラム

【研修生活について】

研修生活についてですが、授業はレベル別で10クラスにクラス分けされていました。事前に北京大学からのクラス分けのためのアンケートに答え、レベルにあったクラスに振り分けられます。最初の授業に出てからレベルに合わないと思えば翌日にクラスの変更を申請することも可能でした。自分は9クラスでしたが、先生たちも良い人たちでクラスの雰囲気もよく、楽しく授業を受けられました。しかし、教科書は高級（高レベル）の教科書なのでピンインが書いていないため、予習で読めない単語を調べ教科書に書き込まないと授業の速度にはついていけないと思いました。毎回しっかり予習をして臨まないで頭に入りません。また、宿題や一人一回のパワーポイントを使った好きなテーマを紹介する課題もありました。テストのために復習もやっておかないといけないため、観光に行くのも大切ですが部屋で予習復習もしなければなりません。1、2限の先生のテストは4人一組に振り分けられ、くじで引いたテーマを20分間グループディスカッションをする、という内容でした。3、4限の先生のテストは中間と最後に1回、合わせて2回テストがあり教科書の内容の筆記テストでした。現地の先生のため、自分が知らない現地の事情や文化などいろいろな小話があり非常に興味深かったです。また、色々な国の人が来ているのでその人たちの国の事など、今まで知らなかった事を知れたので本当に良い機会でした。

【日常生活について】

寮は昨年とは違い、北京大学を東門から出て道路を挟んだところにある中関新園という場所の中にある寮でした。二人一部屋で共用スペースと共用ユニットバス、そ

して一人一部屋用意されていて非常に良いところでした。しかし去年はタオルが用意されていたという話だったので持って行かなかったのですが用意されていなかったため購入しました。また、鍵がカードキーでありインロックをしてしまわないように注意が必要です。洗濯はカードキーの中にお金をチャージしてその中のお金を使い選択をします。中関新園の中には地下にスポーツ施設がありみんなでボウリングなどをしていました。また、常備薬の他に虫除けスプレーやムヒなどかゆみ止めも必須です。通信に関してはSIMロックを解除しておかないとWi-Fiがないと使えなくなってしまうのでその点も注意が必要です。連絡が取れないと非常に不便です。また、寮の電気使用量には上限があり超えてしまうとブレーカーが落ちます。そうなるとお金を払って電気を買わなければならないのでエアコンの使いすぎには注意しないといけません。また、最後の一週間くらいの時に水道から黒い水が出る時がありました、そうなるとお風呂等入れないということになるので他の寮の人と仲良くしておくことも大事です。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して中国の文化や食生活にも触れられました。また、他国の留学生の話などを聞いて違う国の文化なども理解できました。さらに、レベルの高い授業を受けて中国語のレベルも上がったと思います。短期研修により日々の授業へのモチベーションも上がりました。進路はまだ決まっていませんが、この研修の経験を有効に使っていきたいと思っています。



三里屯



中関新園

坂本 佑介 工学部 電子システム工学科 2年

和歌山県立串本古座高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.2 カナダ短期研修参加
2018.8 中国短期研修参加



クラス 卒業 集合写真

初めての中国

【研修参加の動機について】

中学校入学後、父に英語以外にも他言語を勉強してみたらと勧められて、独学で中国語の学習を始め、高校生の時に HSK4 級、口試初級を取得しました。中国には行った事が無く、私自身の実力はどれだけあるのか分かりませんが、研修を通じて中国語能力の更なる向上や現地の文化や習慣等の多くを目で確かめたいと思い、参加を志望しました。

【日常生活について】

今回泊まった先は中关村新園（ちゅんぐあんしんゆえん）と言う留学生寮が9棟もあり、大学の門に近く、広いエリアでした。寮ではトイレ、シャワーは共用ですが、部屋は一人部屋なのでゆっくり過ごせます。寮のカードで出入りする他、各棟に管理人が常駐しており、困った事があれば気軽に相談できるので安心して楽しい寮生活が送れます。授業は朝8時から昼12時まで50分ずつの授業で、放課後は基本的に寮でゆっくり過ごしますが、博物館や天安門、外食、街をぶらぶらする時もあります。外出中でも現地の人と話す機会が多く、困った事があっても助けてくれ、お店やどこでもフレンドリーに接してくれるのでありがたかったし、助け合いの精神があるのだなと実感しました。こんな機会は滅多にないので、内モンゴル4日間のプログラムにも参加しました。片道だけで10時間ぐらいかかりましたが、行きと帰りは人生初の寝台列車でゆっくり休めました。ラクダ

や馬に乗った事や、現地の方々との交流、モンゴル相撲の観戦、羊の丸焼きも、砂漠の下り坂をソリで滑走して楽しんだ事、ダンスパーティーで盛り上がりたり、ゲルに泊まった等、私にとって初めての体験を多くさせていただいたり、知り合いも増え、楽しい思い出がたくさんできました。北京より気温が低く、朝は涼しく夜は寒かったけど快適に過ごせました。朝5時頃に大草原に現れた雲海も人生で初めてで、なかなか見ることのできない絶景に感動した4日間でした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はまだまだだなんて実感しました。リスニングは学習を始めて以来あまりトレーニングしてなくて、ゆっくり喋るのが普通かなと思っていましたが、現地の人々は話すのが早すぎて聞き取れない時がよくありました。その他、聞いたことのない単語が多く使われるので「何言っているのかさっぱりわからない」時もありました。長い期間学習を継続してきましたが、やっぱり自分は甘かったなと感じた他、もっと学習するべきだったと後悔していますが、授業で初めて知った単語が多く、先生が分かりやすいように説明してくれるのでその場で身に付きました。現地で味わった様々な失敗や成功体験をバネにして学習を続け、更に HSK5 級以上、口試中級取得を目標にしており、将来は中国語も使える技術者になりたいと思っています。



モンゴル相撲



雲海

佐々木 雄也 外国語学部 中国語学科 3年

新潟私立東京学館新潟高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



全体の集合写真

【研修生活について】

授業では私は5班を選びました。授業はすべて中国語で行われます。

3年生だとしたら6班以上のクラスがいいと思います。

5班は自分の能力的に丁度よく、たくさん学ぶことができます。

宿題は毎日出て、予習と復習は必須です。

授業は全部が中国語で行われるため授業に出るだけでリスニング能力を上げることができます。文法の説明も教科書に載ってるものだけでなく、実際にどういところで使うことができるか教えてくれます。一日欠席するととても授業に遅れるので欠席はできるだけしないほうがいいと思います。

内モンゴルへ行くのはとてもおすすめです。砂漠や草原今までに見たことのないものや感じたことのない空気を感じることができます。

この旅行でたくさんの留学生と知り合うことができます、様々な大学の留学生が来ているので良い刺激になると思います。

【日常生活について】

私たちが宿泊した寮はとても綺麗で1人1人個室になっており、自分だけの時間を確保することができ本当に良い宿泊先です。ですがトイレにはトイレットペーパーがないことがとても残念です。

午前授業を受け午後は自由時間だったので観光地に行ったり、お店にご飯を食べに行ったりしました。

留学に行く学生で知り合いが同期と後輩に一人しかいなかったのですが、拓大の留学生の全員とコミュニケーションをとれたので良かったです。毎日7人前後でたくさん場所へ行くことができました。留学を通してたくさんの仲間を作ることができます。留学から帰ってもこの一か月一緒にいた仲間たちはとても強い絆で結ばれると思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

中国語学科に入学して中国に対してのイメージが変わり良いものになってはいましたが、行くとなると少し抵抗を感じては行ってみて大分イメージが変わりました。

なんでも先入観を持って行動するのではなく自分の目で確かめたほうが良いことがわかりました。

中国では路上喫煙が普通に行われていて汚くなるはずなのに路上が汚くないです。至る所にゴミ箱や灰皿があるのできれいなのかと思いましたが町の人がきれいにしてるところを見て中国も日本もあまり変わらないんだなと思いました。

この留学を通してもっと早く中国に行けばよかったと思いました。なんでもぐずぐずして行動を遅らせるのではなくこれからは興味を持ったことにはどんどん挑戦したいと思います。

これから就職が始まるので何事も早く行動していきたいです。



内モンゴル



拓殖大学留学生

中原 華美 外国語学部 中国語学科 4 年

私立埼玉平成高等学校高等学校出身
2015.4 拓殖大学入学
2018.8 中国短期研修参加



寮の個人部屋

北京大学での勉強を通して

【研修参加の動機について】

今回私が北京大学の短期研修に参加した動機は主に二つあります。一つは自分の中国語の能力の再確認の為です。自分の話す中国語がどれくらい現地で通じるか、発音などに問題はないか、どのくらい聞き取れるかなどを今回の研修を通して知れたらと思い応募しました。もう一つの理由は来年の大学院受験に備えるためです。私は来年中国の大学院を受験したいと思っています。主に中国語を教える専門を目指しています。そのために事前に先生たちの中国語の教え方や大学内、またその他の大学を見て回りたいと思い今回の研修に参加しました。

【日常生活について】

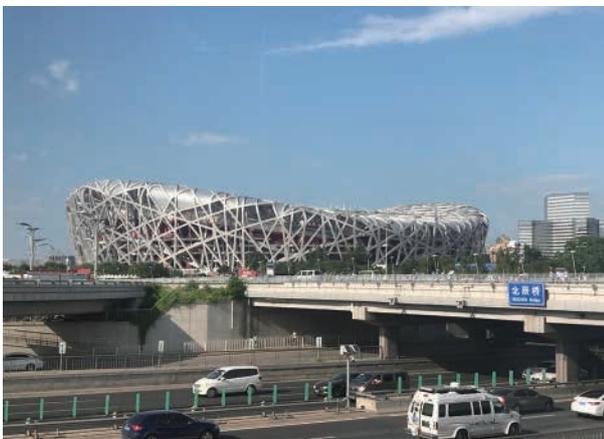
まず寮は大学の大通りを挟んだ向かい側にあります。私が授業を受けていた教室までは徒歩で 30 分くらいかかります。トイレ、シャワー、小さなリビングは二人共同でそして基本的には一人一部屋です。部屋はカードキーで寮の入り口、自分の部屋は同じカードキーを使います。洗濯は各階の廊下の端にあり一回洗濯するごとに 3 元かかり、カードキーに予めお金をチャージしておかなければなりません。洗剤などは自分で用意しなければなりません。寮のすぐ近くに夜 11 時半まで営業しているコンビニがあり日用品などはほとんどそこで揃えられ

ます。現金も使えますが学生証にお金をチャージして使うこともできます。また中国ではお金の電子化が進んでおり、ウィーチャットペイやアリペイなどがあれば財布を持ち歩かずに済みます。お勧めの地図アプリは百度地図です。行きたい場所までの経路や賃金などを交通手段ごとに出してくれるのでとても便利です。交通費などはとても安く、近くであれば 1 元か 2 円で済みます。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の短期研修を通して私は自分の中国語スキルを再確認できただけでなく、色々な国の人と交流が出来て大変貴重な経験が出来たように思います。また中国語の世界での重要性や普遍性を改めて知ることができました。この一ヶ月で自分の中国語の能力を伸ばせただけでなく、先生や周りの人達との意見交換などを通して自分の勉強意欲も強く促進されました。そして今回の研修でより一層中国に留学したいという気持ちが強くなりました。わたしの大学生活は残り半年しかありませんが、この残された時間で自分の中国語の能力をより一層磨くとともに大学院受験の準備もしっかりと整え万全の状態で見たいと負います。



鳥の巣



京劇

吉田 圭吾 外国語学部 中国語学科 3年

私立日体荏原高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 中国北京短期研修参加



中关村

28日間の北京留学

【研修先について】

中国の都市北京の中で最も有名な大学と言われている北京大学に1ヶ月留学してきました。僕は去年もこのプログラムに参加していたので今回は2回目の留学というのもあってアシスタントとして参加してきました。そこで2回目だからこそわかる中国のことや中国の魅力について書きたいと思います。

まず中国の印象として空気が汚くて、人が多くて、車が多いと思っている人が多いと思います。確かに人はとても多く、車や自転車、バイクが多く交通整備がきちんと出来てないのが現実です。しかし空気はテレビで映し出されるものよりは綺麗ですし、晴天の日もあります。中国の飲食店やコンビニに行くときみんなお喋りしながら仕事をしてたり、ご飯を食べながら、また煙草を吸いながら仕事をしている人もいます。同じことを日本でやるとすぐにお客さんや仕事仲間から「何をしているんだ、やめなさい」と言われると思います。しかし中国人は誰も言いません。こういうラフなところが中国の良いところだと思います。逆に日本はみんながあれをやってはいけない、これをやってはいけないと決めつけるから仕事をする人々がいきいきと出来ないのではないかと思います。

最後に大学内の事についてです。大学内はとても広く大学の中を散策するだけで1日かかると思います。また食堂が10か所以上あり1ヵ月では食べきれないです。その他にもスーパーやジムなど勉強をする場所以外にも施設がしっかりしているので生活するうえで何も心配することはありません。しかし今回は前回と違って学校から少し離れた場所に宿舎があったのでスーパーが少し遠いのが難点でした。しかし地下鉄の駅からは近かったのでそれは良かったです。また前回と大きく違ったのは寮が格段に綺麗なのと、2人1部屋だったのが1人1部屋になったことです。なのでとても快適に1ヵ月過ごすことが出来ました。

【留学のプログラム内容について】

僕たちの受けている夏季短期留学のクラスは10班あって1から10にかけて難易度が上がっていきます。クラスは北京に行く前に大学から送られてくるアンケートをもとに大学が適当に振り分けられるので自分に合ったクラスで授業を受けることが出来ます。僕は前回の留学の時間が3班だったので今回は6班にしました。クラスには日本人のみならず様々な国の人がいて年齢も様々です。中国語の勉強をすることはもちろんですが、自分とは異なった生活をしている人々とコミュニケーションをとることも楽しいし、勉強になります。また、宿題もありますがそんなに量も多くないし、授業が午前中で終わるので午後は全然遊びに行くことも可能です。6班が決して簡単だったわけではないですが、もう少し上のクラスでもよかったかなと思いました。次行く人には自分がこのクラスがっていると思うクラスの1、2個上のクラスに行ってみてほしいです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

僕は今回アシスタントとして留学に参加して中国語はもちろんなのですが、みんなをまとめることの大変さや大切さを学びました。集合時間に間に合わない子がいたり、気づいたらどこか行っている子がいたり自由な人ばかりで正直大変なところもあったけど、みんないい子でとても楽しい留学でした。

今回の留学で北京にいる時は僕がまとめていたけど、その前に国際課の方々や先生方、旅行会社の方々が支えてくれたおかげですべてうまくいったのかなと思います。多くの人達に感謝しかないです。ありがとうございます。

3年生も後半に入り、そろそろ就職活動が始まります。しかし未だ自分の就職したいものが決まっていないので、これから色々調べて2回の留学とアシスタントが役立てるような仕事に就きたいです。



内蒙古



食堂

【インドネシア（第15回）】 ダルマプルサダ大学

1. 研修概要

1. 研修先 インドネシア ダルマプルサダ大学
2. 研修期間 2018年8月9日～2018年8月30日
3. 滞在方法 ホームステイ
4. 概算費用 学費、滞在費、旅費など 約170,000円
5. 引率者 石川 一喜 国際学部准教授
徳永 達己 国際学部教授

2. 日程

- 8月9日（木） 羽田発 ジャカルタ着
空港よりホテルへ移動
- 8月10日（金） クラス分けテスト、歓迎会、学内見学
- 8月13日（月） 授業開始
- 8月23日（火） 授業終了
- 8月29日（水） 修了式・送別会
ジャカルタ発
- 8月30日（木） 羽田着、通関後解散

3. 参加者名簿

氏名	学年	学部	学科
小澤 瑠晟	1	85097	国際
親川 理貴	1	85102	国際
鈴木 拓磨	1	85172	国際
土佐 涼華	1	85203	国際
平地 彩奈	1	85236	国際
増淵 琴子	1	85251	国際

氏名	学年	学部	学科
松木 紗綾	1	国際	国際
村上 仁葉	1	国際	国際
安田 胡桃	1	国際	国際
小西 怜	2	国際	国際
奈良 亮磨	2	国際	国際
吉野 穂乃華	北短 1	農学ビジネス	地域振興ビジネス
井戸 彩夏 (アシスタント)	2	国際	国際

※学年は研修参加時のもの

小澤 瑠晟 国際学部 国際学科 1年

私立東京立正高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



インドネシアの学校にボランティア

初めての海外がインドネシア

【研修参加の動機について】

私が研修に参加したきっかけは、ごく小さな動機でした。その理由は二つあります。一つは、拓殖大学の国際学部に入ったからには必ず一回はなんらかの研修に参加したいと考えていました。なぜなら、私は海外への渡航経験がその時は一度もなく、どうしても海外に行ってみたくて考えていたので、インドネシア短期研修にぜひ参加したいと考えました。二つ目は拓殖大学に入学した後、国際学部特色の第二言語に私はインドネシア語を選択しました。志望した理由もとても単純なもので、インドネシア語を教わっている竹下愛先生の説明がとても面白く、インドネシアに興味を持ったからです。そのインドネシア語の授業の中で、語学だけではなくインドネシアのいいところや、明るい人間性。またはインドネシアの文化や食生活、その他諸々を詳しく聞くことができました。クラスにもインドネシアに留学していた友人がいたので、その友人に話を聞いていた中で、改めて研修に参加しようと考えました。

【日常生活について】

今回の研修は今までの研修と違い、基本ホテルで生活するのが中心だったので、お金が多少かかること以外は不自由なく生活できたと思います。しかしホテルで生活が基本なのでインドネシアの普通の生活について触れる点が週末のホームステイのみだったので、そこは少し残念だと感じました。しかし、買い物などは自分たちで行わなければならないので、買い物の仕方や日本と海外とのお金の価値なども勉強でき、特に食事の際は味や辛さを聞くことが普通だったので、そこでも言語の勉強をすることができました。授業のなかで日本人の先生ではな

く、インドネシアの先生と会話をしながら授業をすることで、インドネシア語がさらに上達することができました。とてもいい経験になりました。そして、休日を利用して日本語を勉強している現地の人たちと触れ合う機会がありました。そこではインドネシア語を使ってみるいい機会になりました。ほかにも現地の学生と遊園地や日本のアニメなどを主体にしたお祭りなどにも行くことができ、そこでは日本の文化を愛してもらっていることの有難さを感じるすることができました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回のこの研修に参加したことで語学力はもちろんですが、会話をする力と社交力などの挑戦する力を鍛えることができました。初めて日本語以外の言語で生活することによって頭を100%にフル活用させることもできました。異国の地でも友人を作ることができました。これは私の未来にとってかけがえのない財産になること間違いなしだと考えます。友人たちと生活する中でインドネシアの礼儀も直に教わるすることができました。その土地での礼儀を知ることで、その国の人たちも心を開いてくれることもわかりました。この研修は決して言語だけを上達するための研修ではなく、まず最初に経験をすることによって言語が上達していくことを目指した研修ではないかと思います。今回のこれを経験することによって学校内の留学生の友人ともっと仲良く話すことができると考えます。そして将来、インドネシアの日系企業を訪問した際、とても素晴らしい企業を見ることができました。そして私は将来海外と関わる仕事をしたいと考えます。



インドネシアの友人宅で料理



現地の人とバスの様子

親川 理貴 国際学部 国際学科 1年

都立青梅総合高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



現地学生との交流会

インドネシア研修に参加して

【研修参加の動機について】

私は地域言語科目でインドネシア語を選択しています。入学当初、多くの地域言語科目の中でインドネシアという国が私にとって一番馴染みのない国でした。本来であれば、興味のある言語を選択することが普通の流れですが、逆に何も知らないという状況が、私の中に興味を沸かせ選択しました。他の教科に比べて特別熱心に勉強していたわけではありませんでしたが、授業中に先生が話すインドネシアにまつわるエピソードが楽しく、行ってみたいと思うようになりました。そのタイミングよく短期研修の存在を知り、友人と共に参加することを決めました。私はまだインドネシア語を学んで間もないため、現地でインドネシア語を使うことが難しかったのですが、研修で知り合った現地の友人と次に会う時まで、インドネシア語を頑張ろうという良いモチベーションを持つきっかけ作りになりました。一番馴染みのないと思っていた言語を今ではとても好きになり勉強しているので、とても不思議です。このインドネシアとの不思議な縁を大切にしたいです。

【研修国・地域の紹介について】

研修先はジャカルタにあるダルマ・プルサダ大学です。1986年に設立され、日本の大学との交流が盛んな私立大学です。工学部、海洋工学部、経済学部、文学部が設置されており、文学部の中に日本文学科があります。日本文学科の学生、特に上級生は日常会話が普通にできるレベルで日本語が使える人が多く、日本人研修生も助けられました。授業は日本語ができる先生が適度な

ペースで教えてくれるため、ついていきやすく、実りあるものになりました。授業日の昼食は大学構内にある学食か大学のすぐ横のコンビニで買うことができます。学食では驚くほど低価格でお腹いっぱいインドネシア料理を食べることができます。これは大学に限らずですが、室内の冷房が強い場所が多いため、服装には気を使いました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はインドネシアでの生活を楽しみにしていたのと同時に、日本と異なる生活に不安を抱いていました。しかし、その不安は到着してすぐに払拭されていました。研修先の学生や先生方が毎日のように私たちの体調を気遣い、生活をサポートしてくれたからです。まるで自分のことのように海外から来た私たちのことを考えてくれる姿に、なんて心優しく、頼もしいのだろうと感銘を受けました。彼らの日々の言動から、損得でものを考えたり、見返りを求めたりせずに、真っすぐに人と向き合うことが人間関係を構築する上で大切なのだと学びました。人のためにすることや考えることが、回り回って自分のプラスになる。言葉にすると簡単ですが、決して簡単ではない大事にすべきことです。今後、国際学部の人間として世界を学ぶ中でこのことを心掛け、今の自分にできること・すべきことは何か考え勉学に励んでいきます。また、インドネシア語を引き続き大学で学び、インドネシアの友人が日本に来るとき、私がしてもらったことと同じように彼らをサポートしたいです。



アジア大会観戦



学食外観

鈴木 拓磨 国際学部 国際学科 1年

都立東大和高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



ホームステイ

インドネシア短期研修を振り返り

【研修参加の動機について】

私は今まで海外に行ったことがなく、今回の研修で初めて海外に行くことになりました。拓殖大学の国際学部に入る前から拓殖大学にある海外研修プログラムについては色々調べており、語学の向上、海外での貴重な経験を積むためにも必ず参加しようと決めていました。また、インドネシアという国について最初は何も知らず椎野先生の東南アジアを履修してからインドネシアの基本的なことを知ることができました。しかし知らないことの方が多く、イスラム教とはどのような宗教なのか、発展途上国の現場の姿はどのような感じか、これらについても知りたいと思い今回の研修に参加しました。

海外研修が初めてでなくても、現地の交通、地理、食生活、宗教、現地語については事前に調べておくことが重要だと実感しました。特に日本人とは、あまり縁のない宗教に関しては重点的に調べておくことが大事です。宗教ならではの慣習にも理解を深めることができると思います。

【研修生活について】

私は英語コースを選択して今回の研修に参加しました。現地の大学の授業では、90分間使用する言葉はもちろん英語で、先生は皆日本語を話すことができず英語を勉強する環境としてはとてもよかったです。授業の内容は、教科書の文章をベースに発音の練習をひたすらしました。「R」と「L」の発音が難しく、普段の会話においても伝えたいことが伝わらない場面が何度かありました。また、イントネーションやジェスチャーを加えることの難しさもありました。研修の前には、拓殖大学の英語の授業で学んできたことを総合的に復習しておく、研修先の授業でもかなり応用できると感じまし

た。そして、授業が終わったらその日のうちに教科書の文章の発音練習の予習復習をすることで英語力を向上につながります。

インドネシア語コースの人たちと合同の授業では、インドネシアの伝統的な遊びや料理を学びます。ここでは、基本的に日本語で授業が行われます。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修先では、ホテルでの会話や町中では積極的に英語を使って会話をするのができ、自分の英語はしっかりと伝わるんだと自信につながることができました。また、日本語ボランティアにて、インドネシアの高校生と会話をする際に英語を使って会話した際に日本の高校生との英語力の差に驚かされました。私もいくつか単語が分からなかったりして会話がスムーズに進まないこともありました。この経験から英語の勉強の意欲がかなり湧くものとなりました。

今回のインドネシア研修では英語コースで参加をしましたが現地の友達ができ、インドネシアを学び、次はインドネシア語で会話がしたいという新しい目標をつくることができました。

SANYOに企業訪問して日系企業のインドネシアでの評価を聞いて、日本の製品の信頼というのはすごく良く、同じ日本人とし誇らしく思いました。私は今まで外資系企業に勤めたいと思いつけていましたが、今回の企業訪問を通じて日系企業の魅力を知ることができ、自分の進路や興味の幅を広げることができました。今後は、春休みを活用してほかの海外研修にも参加して経験を積んで、新しい発見をしたいと思っています。



日本語ボランティア



企業訪問

土佐 涼華 国際学部 国際学科 1年

都立小平高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



ホストファミリー

インドネシア短期研修

【研修国・地域について】

インドネシア研修を終えて一番印象に残っているのは、Duri 駅から Tanah Abang 駅までのエリアを歩いて見た、風景や子供たちの姿です。Duri 駅から一歩外に出れば、そこには今まで見てきたインドネシアとは全く違った風景が広がっていました。線路わきの狭いスペースに立ち並ぶ住居や、踏切のない線路を渡る裸足の子供、鼻を突くような臭い。そこにはそれまでのインドネシア研修でも、もちろん日本でもあまり体験したことのないものや出来事が溢れていました。とても新鮮で、刺激的なそれらのものを体験した私は、インドネシアのより深い部分に触れることが出来たような気がしました。またそれとともに、私はインドネシアの少しディープなこのエリアに、インドネシアの発展と開発、経済格差の現状の一部を見たような気がしました。

【日常生活について】

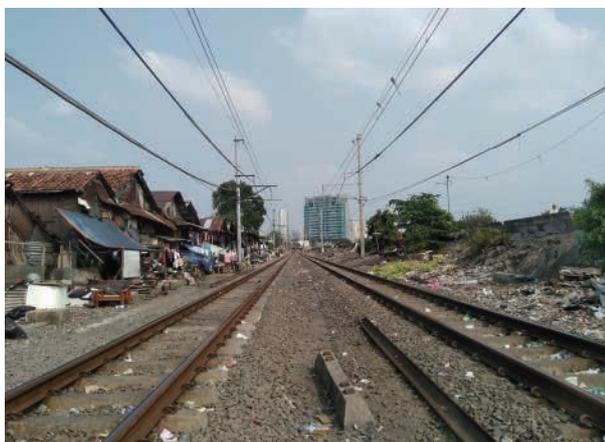
インドネシアで買い物をしたときに、面白いなと思ったことが2つありました。1つ目は、場所によりけりですが、値段交渉をして上手くいけば元値の半分程の値段で欲しいものを購入することが出来るということです。実際、私がキャップを買おうとしていると、現地の学生が店員に 50000 ルピアから値下げしてほしいと交渉してくれて、最終的に 35000 ルピアまで値下げをしてもらうことに成功しました。こんな光景は日本ではなかなか見

ないですし、自分も日本だったらきっとやらないので面白いな、と思いました。また2つ目は、お釣りがぴったり返ってくるのが少ないということです。これも場所によりけりですが、私が買い物をしたコンビニや屋台、ショッピングモールではお釣りは少し多く返ってくるか、あるいは少し少なく返ってくるのがほとんどでした。日本の場合ぴったりお釣りが返ってくることは当たり前ですが、お釣りがぴったり返ってこなくてもあまり問題ないのもこれもまたインドネシアならではのな感じました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、学ぶことに対する姿勢を考え直すという機会と異文化に触れる楽しさです。インドネシアで日本語を勉強する学生の方々と沢山交流して、学生の方々の学ぶことに対する意欲の強さを感じました。質問タイムがあれば、日本語や日本について知ろうと多くの質問をしている学生の方々の姿を見て、自分も学ぶことに対する姿勢を改めようと背筋が伸びるような思いでした。また、異文化にこれ程長く触れていたことはなかったのも、日本とは違うインドネシアの文化が私にはとても刺激的で、発見と驚きの毎日でした。おなかを壊したり、不思議に思ったこと、あまり理解できなかったことなども含めて、異文化を体験することが出来てとても楽しかったです。今後は、今までのようにインドネシア語を学ぶとともに、海外の日系企業などへの就職も考えながら勉学に励みたいと思います。



線路と住居



日本語ボランティア

平地 彩奈 国際学部 国際学科 1年

市立松戸高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



ホームステイ先の学生と

全ての出会いに感謝

【研修参加の動機について】

私がインドネシア研修に参加した理由は、まず第一に、同じ国の中でもジャカルタとバリ島のように地域によって全く異なる魅力を持つインドネシアという国に以前から興味・関心を抱いていたからです。また、この研修はホームステイを体験できるため、数多くある研修制度の中でもより現地の人々の暮らしぶりや日本との相違点を学べる良い機会だと考え参加を決めました。現地の人々との交流や日本とは異なる文化や習慣に触れることは、自身の視野を広げることに繋がり2年次からのコース選択をする際の一つの材料にもなると思うので、一年生の夏に参加するのが望ましいと思います。私は英語コースでこの研修に参加しましたが、英語の発音の仕方やイントネーションを先生と繰り返し練習したことで、以前よりも自信を持って英語を話せるようになりました。そのため、インドネシア語を履修していなくても興味があれば積極的に参加すべきだと思います。きっと良い経験になるはずですよ。

【日常生活について】

大学では授業の他にも伝統的な料理や物作り、踊りやゲームなどインドネシアの文化を体験型で学ぶ機会が多くありました。勉強だけでは飽きてしまいますが、そのようなプログラムのおかげで毎日楽しく学ぶことができました。放課後は、宿泊先近くのモールに行き食事をしたりショッピングを楽しみました。また、研修中にできた友達ともフットサルをしたり映画を見にも行きました。インドネシアでは、映画がたったの300円で観ることができとても驚きました。



現地の友達とフットサル

休日はホームステイをしました。初めは、インドネシア語が全く話せないためとても不安でしたが、受け入れ学生が日本語を勉強していることもあり日本語で会話をしたり、英語やジェスチャーなど様々な手段を使い、学生とだけでなく家の人も積極的に交流することができました。トイレの仕方や水浴びについては、初めは少し抵抗がありましたが、現地の人々の生活を実際に体験できたことはとても貴重だったと思います。これまでは、言葉が全てだと思っていましたが、いかに自分が人と積極的に関わろうとするか、日本とは異なる生活習慣を楽しむことができるかが大切なことなんだと今回のホームステイを通して改めて感じました。

研修中に、みんなでアジア大会の観戦にも行きました。水泳とサッカーの応援に行きましたが、本場の盛り上がりや味わうことができただけでなく、大勢の現地の方々が日本のことを応援してくださりととても嬉しかったです。インドネシアという国が、が親日国であるということをもっと感じた瞬間でもありました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は、この研修を通してたくさんの友達を作ることができました。現地の人々とはとてもフレンドリーで心が広く、どこへ行っても私達を温かく迎え入れてくれました。お互いの事やそれぞれの国について話し合うことで、自分とは異なる物の見方や考え方を多く学ぶことができました。また、彼らの勉強に対する意欲にはとても圧倒され、自分も負けじとこれまで以上に努力しなくてはいけないと刺激を受けました。

3週間という短い時間でしたが、私はインドネシアという国がこれまで以上に大好きになりました。いつかまた、インドネシアを訪れたいです。



アジア大会（水泳）の会場にて

増渕 琴子 国際学部 国際学科 1年

私立常磐大学高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



インドネシアの遊園地

初めての海外、インドネシア

【研修国・地域の紹介について】

8月のインドネシアは湿気が少なく、涼しく感じて日本より過ごしやすいです。ですが、日差しは強いので日焼け止めを持っていくことをお勧めします。食べ物はとて辛いのが多いです。日本人とインドネシア人の辛さの基準が違うので、食べすぎには注意です。私が特に好きだった食べ物は、Mie ayamとMie gorengです。どちらも麺料理なのですが、とてもおいしかったです。Ayamは日本語で鶏肉です。つまり鶏肉が入っている麺料理です。Mie gorengは見た目は焼きそばのようなもので、味は甘い醤油のような味です。中には、辛い味がするものもあるので、分からないときは現地の人に聞いてみるのが一番です。服装は宗教上、女性は肌の露出が少ない服を着ています。民族衣装を着ている人もいれば、私たちのような服を着ている人もいました。

私は、インドネシアのダルマプルサダ大学というところで3週間勉強をしました。教室は白を基調とした教室で椅子と机がセットになっていました。教室にはたくさん蚊がたくさんいたので虫よけスプレーなどを持っていくと良いと思います。またお昼は近くのローソンやカフェ、食堂で食べました。私はよく食堂で食べていたのですが、食堂のおじさんがとても親切で良い人でした。料理もどれもおいしかったです。一食230円などで食べられて安かったです。

【日常生活について】

ホームステイ先の家の中では常に裸足でした。玄関で



とても大きかったモナス

靴も靴下も脱ぎます。トイレは和式でお風呂と一緒になっていました。ここも裸足で入りました。トイレは溜められている水をすくって便器の中に流したりしました。お風呂は、お湯ではなく水で体を洗いました。夏でしたが、少し寒かったです。

日本と違い、車やバイクの交通量がとても多いです。初めて見たときはあまりの多さに驚きました。道路を渡るときに合図をだせば止まってくれますが、車やバイクにひかれないように注意してください。

週末の観光では、ホームステイ先の人たちと遊園地やモナス、博物館へ連れて行ってもらいました。遊園地には日本と同じような乗り物がたくさんあり、とても楽しい一日を過ごしました。モナスではプロジェクションマッピングを見ました。30分くらいだったのですが、音楽も流れてキレイでした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して私は、色んなことに臨機応変に対応できる人になろうと思いました。初の海外では中々、時間通りに物事が進まなかったりしたことがたくさんありました。そういったことに焦らずに柔軟に対応していくことが大切なのだと思います。またインドネシア人は初めて会った私たちに対して、みんな明るく話しかけてくれて親切で心が温かい人たちで溢れていました。今後の学生生活、私も人見知りをしたりせず、積極的に話しかけていこうと思います。また進路は細かく決まっていません。ですが、空港で受付をしている人たちを見て、私も外国語と日本語を話せるかっこいい人になりたいと思います。将来は空港関係の仕事に就きたいと思いました。



ホームステイ先のリタさん

松木 紗綾 国際学部 国際学科 1年

私立花咲徳栄高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



現地の子供達との交流の様子

国の温かさ・異文化に触れて

【研修参加の動機について】

私はインドネシア語ではなく、マレーシア語を第二言語として履修しています。もし今回の短期研修に「マレーシア」という選択肢があったなら、私はおそらく第二言語であるマレーシアを選択していたと思います。正直、最初はマレーシアが選択肢にないことに少し気を落としていました。しかし、今もなお発展が進んでいる国を自分の目で確認し、拓殖大学での学習・将来の職業へと活かしていきたいと思い、マレーシアと似た言語を話すインドネシアの短期研修への参加を決めました。

行きたい国・行きたい理由によって参加するタイミングは変わってくると思いますが、私は一年時からインドネシア短期研修に参加できたことを嬉しく思います。その大きな理由としては、インドネシア語に加えて流暢な日本語でも教えてくれる、優しい先生に巡り合えたことです。一か月弱しかいない自分たちに、一から丁寧に教えてくれ、終いには日本に帰った後もいつでも教えるから連絡して、とまで伝えてくれました。一年時から現地の先生方に出会えたことは、この先、言語を学習していくうえで私たちの大きな支えになると思います。

【研修国・地域の紹介について】

インドネシアは、自分が思っていた以上に貧富の差を感じる国でした。街中でも、食べ物がなく苦しんでいる子供を目の当たりにし、バスからも、手前にスラム街、

その奥に高級住宅という複雑な風景に出会いました。初日からインドネシア人の人柄の良さや温かさは感じていましたが、貧困の状況にある子供たちも、何一つとして変わらず気さくな笑顔で駆け寄ってきて挨拶をしてくれました。本当に優しく温かい国だからこそ、余計に、貧富の差が存在する現状を悔しく思いました。

そのような中で、宗教の違い・国の温かさを一番に感じたのが犠牲祭でした。牛やヤギ・羊を殺して、命の意味を考え、貧困層の方々にお肉を差し上げる、という行事です。日本にはないものなので胸が痛くなりましたが、私たち自身、宗教の違いに触れられる一番の経験だったと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

現地の方との出会いは、この先もずっと続く、かけがえのないものです。帰ってほしくない、インドネシアにいてほしい、と泣いて悲しんでくれる仲間・また、帰りたくない、必ずまたインドネシアに来たい、と思わせてくれる仲間に出会えたことは一生の財産になると思います。私には開発コンサルタントになりたいという夢があるので、短期研修に参加したことで気づくことができました、インドネシアのいいところ・日本のいいところを多くの人に共有し、発展途上国の発展に活かしていきたいです。そして、言語の習得に励み、今度は日本語ではなくインドネシア語で、現地の人とたくさん会話できたら嬉しいです。



スポーツは世界共通



Herosの学生との交流の様子

村上 仁葉 国際学部 国際学科 1年

神奈川県立横浜清陵高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



手食文化

外国を知って日本を知る

【研修国・地域の紹介について】

私は海外に行ったことがなく、今回のインドネシア研修が初めての海外に行く機会でした。

大学受験の際、比較文化に関する小論文をたくさん読み、そして自分も書いてきました。なので、今回の研修ではただインドネシアを楽しむだけではなく、また語学の勉強だけではなく、インドネシアの文化に注目して生活しました。

ここでは日本との違いを一番感じたのは食について紹介します。インドネシアの食べ物は、周知のとおり辛いものが多く、「Apakah ini pedas?」（これは辛いですか？）とお店の人に確認をとることが必須事項でした。Sambalと呼ばれるとても辛いソースをインドネシアの人はたっぷりをつけて食べます。辛い物好きの先輩が挑戦したところ、やはり翌日お腹を壊していました。辛い物を避け、頻繁にスープでお腹を休ませるなど気を付けてはいましたが、1週間を過ぎたあたりで早くもお腹を壊し、その後も治ることはありませんでした。日本食がお腹にとっても優しいということ、身をもって知りました。

それだけではありません。私は手食文化を知ることができました。多くの場合、スプーンとフォークを使いますが、4回ほど私たちは手を使って食事をしました。日本では、手で食べることは行儀が悪い、不潔とされ、小さいころからしてはいけないことだと教わります。しかし、手食文化は、「聖なる手」で食べ物の柔軟性や温度を感じ取り、手で味わってから口に運ぶことが自然という発想や、道具を使うよりも聖なる手を使ったほうが清潔だという考え方があるそうです。大きな文化的思考差異を知ることができました。

【日常生活について】

比較的、自由な時間が多かった印象です。朝は9時に



gado gado 作り体験

集合してバスで大学に向かい、授業を受け、17時30頃にホテルに戻ります。そのあとは自由時間で、モールで買い物をしたり、みんなでご飯を食べたりしました。また、ちょどアジア大会が行われており、希望者だけでサッカー観戦にも行きました。研修も後半にさしかかると、私たちはお土産や、お礼のプレゼントを買おうと、ほぼ毎日モールを歩き回りました。買い物を通じて、数字には強くなりました。インドネシア語で値引き交渉をすることもできました。

現地の学生との交流については、大学の生徒さんや、へロスの学生とも交流する機会をいただいたので、交流会後もSNSで連絡を取り、フットサルをしに行ったり、一緒にご飯を楽しんだりしました。

日本に帰国した今でも連絡を取り合っています。就寝時間も決められていないため、夜遅くまで起きていました。しかし、このことをとても反省しています。2週間がたったころ、私は体調を崩し、イスラムの行事の一つである犠牲祭を見に行くことができずじまいました。インドネシアを満喫したいのなら、きちんと睡眠をとることが必要だと分かりました。

ホテルの生活はとても快適でしたが、一つだけ苦労した点がありました。ホテルに出した洗濯物が全く返ってこない事です。何度もフロントに行き、英語でやり取りをしました。日本のホテルではクレームになることが、ここでは日常茶飯事であることに驚きましたが、これも一つの異文化体験だと思いました。それと同時に、日本のホテルのサービスが外国人から見ても高品質だと称賛される意味が分かりました。

日本に帰る日、ホームステイ先の学生がたくさん空港まで送りに来てくれました。インドネシアで過ごした日々があまりにも楽しく、お別れが本当に寂しかったです。またインドネシアを訪れたいと強く思いました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

生きたインドネシア語や、文化を学ぶことができました。しかし、何よりも、現地の友人ができたことが一番の収穫です。本当に素晴らしい出会いに恵まれました。

また彼らに現地で会うためにも、日本で一生懸命インドネシア語を勉強したいと思います。



アジア大会観戦

安田 胡桃 国際学部 国際学科 1年

東京都立若葉総合高校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



スラム街の環境に近い地域を訪問

インドネシアに行くまでと行った後の変化

【研修参加の動機について】

私は高校3年生の時にインドネシアへ行ったことがあり、その時にインドネシアに関心を持ちました。また、その時のジャカルタ滞在は1日限りでジョグジャカルタという地域に5日間滞在していました。そのため、大学ではインドネシア語を履修して、今度は留学でジャカルタに滞在してみたいと思い、参加を決めました。

研修に参加するおすすめの時節は1年生の夏休みです。渡航することで確実に勉強のモチベーションが上がります。そうすると1年生後期のインドネシア語の授業が楽しくなる上に、意欲が高まります。そのため、インドネシア語に限らず語学研修は1年生のうちに参加することをお勧めします。

出発までしておくべきことは、インドネシア語の勉強と英語の勉強です。また、インドネシア語で1分程度の自己紹介を暗記しておくことでかなり色々な場所で役立つと思います。留学先の先生たちの前で言う時に覚えておくことで便利ですし、現地ですぐに話せる友達と話す時に披露すると盛り上がると思います。更に英語の勉強も必須です。日本に比べて現地学生やホストファミリーは英語ができる人が多いです。私たちは中学生の時から英語を勉強しているため、インドネシア語よりも英語の方が話せる人も多いと思います。そのため、英語の会話力を伸ばした状態でいくとインドネシア語で通じなかった時に英語で代わりに会話ができるため、とても便利です。

【研修生活について】

まず、最初に感じた日本での授業との違いは、少人数授業などです。2つにクラス分けされているため5人という少人数のクラスで授業が行われました。日本では19人で授業が行われるため先生との距離が遠く、積極的に授業に参加しようとしても難しいです。しかし、インドネシアでは5人で先生を囲む形で授業を受けるため常に先生と会話のキャッチボールができます。また、授業用に配られるテキストはかなり難易度が高いと感じました。聞いたことのない単語がたくさん書かれていますし、初めて習う文法の量がとても多いです。日本の授業よりはるかに進むペースが速いため、毎時間ついてい

くことに必死でした。しかし、それくらいで丁度いいと思います。授業が難しいことで、焦る気持ちもありますがその気持ちが勉強のモチベーションを上げてくれます。また、辞書など調べられるものがあると便利だと思います。基本的に知らない単語が出てくるため、それらの意味をすぐに調べられる物があると勉強もしやすくなります。

ダルマ・プルサダ大学での授業内容には、歌や踊り、買い物、料理、作品製作も含まれています。特に踊りは興味深かったです。今年はPocopocoという伝統的なインドネシアの踊りを習い、送別会で発表しました。練習は体力が必要で疲れる日もありましたが、日本語学科の学生が一生懸命日本語を使って教えてくれたのでみんなのやる気も上がっていきました。この体験は何物にも代えがたいと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

語学留学であるのにも関わらず、様々な貴重な体験をさせていただきました。渡航前までは挨拶程度のレベルのインドネシア語しか話せませんでしたが、現地に到着した途端に、勉強がみるみる楽しくなりました。最終週には無意識なうちに語彙が増え文章構成能力やインドネシア語の表現力が身に付いていることを実感できました。

今後は授業外でも新たな単語や知識を自分自身で習得していきたいです。また、インドネシア語検定の受検も考えています。今回の研修でインドネシアで働きたいと思いました。これは、3週間で私の将来の夢を変えるほどの体験をさせてくれたということだと思います。インドネシアで働く道が開けるように、これからもインドネシア語の勉強を継続していきたいです。



授業後に先生とみんなで一枚



モールで夜ご飯

小西 怜 国際学部 国際学科 2年

東京成徳大学高等学校出身出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



Mie ayam

毎日が新しい発見

【日常生活について】

平日はホテルでの生活で、土曜日はホームステイ先の家で過ごし、日曜の夜にはホテルへ戻るといった生活です。平日の朝ご飯はホテル内のバイキングです。昼ご飯は大学内の食堂またはローソンです。食堂は値段がとても安くご飯がとても美味しかったのでおススメです。夜ご飯はホテルの下の階にモールが設置されており、フードコートで食事をします。フードコートでは沢山のインドネシア料理があります。毎回ご飯を選ぶのが楽しかったです。ホテルの生活は日本と変わらない生活です。

しかし、私がホテル生活で大変だったことは洗濯です。一人二点まではホテルのランドリーが無料でした。下着類は手洗いで行いました。毎日手洗いで嫌になる日もありました。ランドリーでは洋服は二点までが無料でした。それ以上の洋服を出すと結構な料金を取られます。

ホームステイでの生活はとても自由で楽しく過ごすことが出来ました。一回目のホームステイでは他のホームステイ先の方と合流し、ドゥファンという遊園地に行きました。スリリングなアトラクションを中心に乗りました。その後、海が見える場所へ移動しました。とても綺麗な場所でした。二回目のホームステイではインドネシア大学へ行きました。とても大きく、駅直結です。インドネシア大学では日本文化祭が行われていました。コスプレしている人がとても多かったです。来場者がとても多く移動が大変でした。次の日にはホームステイ先の家でバーベキューを行いました。各自がきちんと役割を果たしてとても思い出に残りました。

【授業について】

授業は一コマ90分の一日三コマです。歓迎会の後にインドネシア語のクラス分けテストがあります。私はAクラスでした。授業内容は発音・数字・形容詞・動詞などを勉強します。一つずつゆっくり丁寧に教えてくれます。少人数なのでわからないことがあればすぐに質問することができます。その他の授業ではゲーム、バド

ミントン、踊り、料理体験、買い物、インドネシアの文化について学びます。踊りではポチョポチョを踊りました。約6分の踊りですが、覚えやすい振り付けであり、お別れ会の際に研修生全員で披露しました。料理ではインドネシアの伝統的料理ガドガドを作りました。文化ではジャカルタの交通やインドネシアの観光地について学びました。買い物の授業では大学内のお店に行き実際に商品を買うことをしました。ゲームでは伝統的な遊びを教えてもらいました。また、順位を決める本気のゲームも行いました。バドミントンは大学内のバドミントンコートで行います。体を動かしたりする授業もあるのでとても充実したプログラムになっています。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回、私は初めて海外へ行きました。最初はとても不安でした。しかし、現地の方々がとても優しく明るい人たちだったのですぐに不安はなくなりました。インドネシア人はとても日本に興味・関心をもっています。しかし、私は日本のアニメや漫画についての知識がなく日本の文化について伝えることができず、黙り込んでしまうことがありました。もっと自分の国について学ぶことが大切だと痛感しました。

語学についてはとにかく話して言葉を覚えることが一番良いと感じました。インドネシア語検定に向けて頑張りたいと思います。

今回の研修では、インドネシアの生活や宗教行事・食べ物・ダンスなど色々な体験をすることができました。慣れない環境での生活は私にとって大きな刺激となりました。毎日が驚きの連続でした。研修生全員とも仲良くなれたと思います。これらの体験は一生の宝物です。この経験を忘れずに今後の生活を充実したものにしていきたいです。



食堂のメニュー



遊園地のキャラクター

奈良 亮磨 国際学部 国際学科 2年

埼玉県立越谷東高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



ダルマプルサダ大学

インドネシア研修

【研修国・地域の紹介について】

1. 季節について インドネシアでは赤道に近く日本よりかもとても暑く過ごしにくいと思っていましたが、実際にいってみると確かに暑いのですが、湿気が全くなくからっとしていたため日本よりかは全然過ごしやすかったです。またインドネシアは日本みたいに四季があるのではなく、乾期と雨期しかありません。そのため僕たちが行ったときはちょうど乾期だったので3週間雨が全く降りませんでした。

2. 現地の人について インドネシアの現地の方は日本人みたいにシャイみたいな人がいませんでした。みんな挨拶をすると返してくれるし、いつも笑顔のため気さくに話しかけることができます。またとても親切で、困っていることがあると助けてくれるのでとても助かりました。それにインドネシアでは ONE PIECE やナルトなどの日本のアニメや日本の歌などがとても人気があり、その影響もあり日本語や日本の文化について学んでいるという人もたくさんおり、日本に行ってみようという人がいたり、日本に行ったことがあるという人や、日本の企業に就職する予定の人がいたり親日の人がたくさんいて、日本人の僕たちからするととてもうれしく思いました。

【研修生活について】

1. 授業について 授業では冊子になっているテキストが配られて、僕のクラスは4体1で行われていました。少人数なので発言する機会がとても多く、参加型の授業だったので、とても楽しかったです。また授業の内

容は挨拶を教わったり、数字、自己紹介を教わりました。授業でやったのもある程度拓殖大学でやった奴なので、ついて行けなくてとても大変ということはありませんでした。またずっと勉強だけではなくインドネシアの伝統的な遊びをしたり、送別会の時に踊ったインドネシアの伝統的な踊りの「pocopoco」の練習をしたりとインドネシアでしかできないようなことをしたため、とても貴重な体験ができたと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修をとして感じたことは、日本人である以上日本のことをもっと知らなければならないと思いました。現地の方は僕たち以上に日本のことを知っており、日本のことについて話しているのに話しについて行けないときがありました。また、現地のひとは日本のことをもっと知りたい人が多く「日本とインドネシアはどちらの方が暑い?」、「日本で有名なものは何?」と聞いてくる人も多く日本のことを好きな人がたくさんいることを感じました。

今後の学生生活への影響と進路は、現地の学生は、日本語、英語がペラペラなためインドネシア語はあまり使わないでしゃべっていたのですが、次に何かしらの形でインドネシアに行ったときは、主にインドネシア語を使ってコミュニケーションできるように語学の勉強を頑張ろうと思います。また、進路については大まかではありますがインドネシアに関係するお仕事に興味を持ちました。



交流会



インドネシアの食べ物

吉野 穂乃華 農学ビジネス学科 1年

大阪府立阿倍野高等学校出身
2018.4 拓殖大学北海道短期大学入学
2018.8 インドネシア短期研修参加



Friends

Pengalaman !

【研修生活について】

ダルマプルサダ大学で8月13日から授業が始まりました。

1日3コマ×90分、英語の授業を受けました。

授業はテキストを使ったり、ゲームを行いました。テキストは和訳をするのではなく文章を記憶することを主にしていました。そして、みんなの前で発表したり友達、先生と交代で言い合ったりしました。その文章を読んでいる中でよく先生が「intonation!」と言っていたのを覚えています。だから英語を話す人達はいつもイントネーションを大切にしていることが分かりました。また、先生と会話している中で日本のカタカナ語をそのまま発音しても通じないことが多くあり、カタカナ語にしても英語の単語もネイティブのような綺麗な発音でないと理解してもらえないことが分かりました。スピーキングの大切さを痛感しました。

実際に日本語が全く通じなく英語だけの授業は初めてだったので始めは英語を聞きとることさえしんどかったけど、だんだん耳が慣れてすんなりと聞き取れるようになったときは授業の理解もさらに深まり、ネイティブの英語を肌で感じる事ができとてもいい経験になりました。



インドネシア料理

【日常生活について】

平日はホテルで過ごしていましたが、土日はダルマプルサダ大学の学生の自宅にホームステイをしていました。

初めてインドネシアの家に入るときはとても緊張し不安でした。しかし、家族の皆さん、友達が温かく向かい入れてくださりとても安心して過ごすことができました。

私はインドネシア語を話すことが出来ないのですが英語とジェスチャーで会話をしながらインドネシア語も教えてもらいました。

インドネシアの沢山の場所に連れて行ってもらい、沢山の子ども達にも会いました。みんなとてもフレンドリーで一緒に遊ぶのがとても楽しかったです。

インドネシアの人柄、文化、生活を知ることができ充実した週末でした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して言葉の大切さ実感しました。私はインドネシア語を勉強していなので全く分からないことが多く悔しかったからです。英語、ジェスチャー、少しのインドネシア語で過ごすことが出来たのですが、もっと知っていれば今回よりもっと話せたりインドネシアについて知れたのではないかと感じました。今後も勉強を頑張っていこうと思います。



Poco Poco

井戸 彩夏 国際学部 国際学科 2年

私立実践学園高等学校出身
 2017.4 拓殖大学入学
 2017.8 インドネシア短期研修参加
 2018.2 タイ短期研修参加
 2018.8 インドネシア短期研修(アシスタント)参加



企業訪問

また何度でも行きたいと思わせてくれる国

【研修先の紹介】

インドネシアは東南アジア南部に位置し、13,000を超える大小の島で構成されています。また人口も多く、世界第4位を誇る多民族国家です。総人口の約88.6%、約2.1億人がイスラム教という世界最大のムスリム国家でありながら、イスラム教は国教ではありません。自身の信仰に従い、それぞれの神に祈ることとしています。また研修先のある首都ジャカルタは、経済発展がものすごい勢いで進み中央ジャカルタには多くのビルが立ち並びます。しかし人口の過密化により、ジャカルタの交通渋滞は日常茶飯事です。なのでホテルから大学に向かう道が渋滞していて高速道路を使うという日もありました。

【日常生活について】

今年から平日はホテル、休日はホームステイという形になりました。最初のほうは現地の学生とも友達になっていないので買い物や夕食を食べる時など日本人学生だけでした。これが悪いことではなく、現地の学生は優しいので会計があればそばにいて助けてくれます。しかし現地の学生に頼らず自分1人で会計が出来る環境があったので、良かったと思います。また食事については辛いもの油っぽいものが多いので、調子に乗って食べてると確実にお腹が痛いなどの症状が起こります。気をつけて食べていれば何も問題ないです。むしろインドネシア料理はすごく美味しいので、お腹を壊すことなくたくさん食べてほしいです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

1年前に同じ研修に参加しまさか自分が今年アシスタントとして参加するなんて思ってもいませんでした。自分が参加したときと研修の形態がガラッと変り、サポートできるか不安もたくさんありました。アシスタントとして何かしてあげたいと思ったときに、通っている大学の学生との交流会を開きたいと思いました。全ての日にちがホームステイではなくなった分、今年現地学生との交流が少なくもったいないと感じていたからです。それを現地大学の先生に相談したら快く受け入れてくれて研修中に2回も交流会を行うことが出来ました。交流会を通して現地の学生の勉強に対する姿勢だったり、話をすることでインドネシアの人の温かさだったり、少しでもみんなが感じてくれていたら嬉しいです。やってみたいと思ったことがあれば相談してみるなど自分で全てどうにかしようとするのではなく、相手を頼ることも大切だと感じました。

インドネシアから帰ってきてまだ数日しかたってないですが、今すぐにも戻りたいです。そう思わせてくれる国、人に出会えて私は本当に幸せです。また今回アシスタントとして参加できたことを誇りに思います。この経験が無駄にすることなく大学生生活を過ごしていきたいです。



ASIAN GAMES 2018



大好きな sate kambing

【カナダ（第10回）】 カナダ観光実務研修

1. 研修概要

1. 研修先 カナダ バンクーバー市 JEIC (JTB Educational Institute of Canada)
2. 研修期間 2018年8月22日～2018年9月4日
3. 滞在方法 ホームステイ
4. 概算費用 約353,000円

2. 日程

- 8月22日（水） 羽田発 バンクーバー着
JEICにて研修についてのオリエンテーション
ホストファミリーと各家庭へ
- 8月23日（木） 研修開始
- 8月31日（金） 研修終了
- 9月1日（土） 自主研修
- 9月2日（日） 自主研修
- 9月3日（月） 帰国日 ホームステイ先からJEICへ
リッチモンド観光
JEICから専用車でバンクーバー空港へ
バンクーバー発
- 9月4日（火） 羽田着、通関後解散

3. 参加者名簿

氏名	学年	学部	学科
井深 真帆	1	国際	国際
入江 美里	1	国際	国際
小椋 聖那	1	国際	国際
酒井 杏奈	1	国際	国際
志村 高良	1	国際	国際
鈴木 沙季	1	国際	国際

氏名	学年	学部	学科
津嶋 陽向	1	国際	国際
根岸 宏旭	1	国際	国際
諸橋 麗	1	国際	国際
結城 郁央里	1	国際	国際
横田 莉央	1	国際	国際
岡本 啓希	2	国際	国際

※学年は研修参加時のもの

井深 真帆 国際学部 国際学科 1年

岐阜県立岐阜商業高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務短期研修参加



公園から見える景色

充実した2週間

【研修国・地域について】

私の研修先であるカナダは、事前研修の段階で日本よりも涼しく、とても過ごしやすい気候であると聞いていたのですが、予想以上に気温が低く、朝晩はとても冷え込みました。

また、私のホームステイ先であった、リッチモンドという地域は中国人を中心にアジア系の方が多く生活している地域で、近所のスーパーや飲食店には中華料理のものが多くありました。リッチモンドの中華料理は、一度食べたら日本の中華料理が食べられなくなるほどおいしいので、ぜひ一度食べてみてください。

約2週間の研修の中で私が訪れた地域は、カナダという広大な敷地のなかでもほんの一部ですが、ビーチで優雅に愛犬と散歩をしていたり、サイクリングをしている人もいれば、アジア系の人々で賑わっている場所もあったりと、少し場所を移動するだけで景色や雰囲気、住んでいる人々が変化し、とても面白い国だと感じました。

私が研修中によく耳にした言葉は、「カナディアン」という言葉です。カナダには様々な国の人々が共存しているため、多くの国の文化や習慣が受け入れられています。そして、カナダの人々はそれこそがカナディアンなのだとの誇りに思っています。そういった考え方も、カナダが世界で一番住みやすい国と言われる理由のひとつだと感じました。

【日常生活について】

平日はホームステイ先から JEIC へ行き、英語の講義を受けたり、インターンシップや空港視察などを行います。一日のプログラムは基本的に夕方4時頃ですべて終了するため、夕食まで少し時間がある場合に、どこか寄り道できるような場所をホストファミリーに聞いておくのも良いかもしれません。私たちのホームステイ先は、夕食時間が午後6時と少し早かったので、寄り道したい日は事前にホストマザーに連絡をしておいて、ナイトマーケットやアウトレットモールへ行きました。たまにはレストランで食事をするのも、カナダのサービスの

良さやチップ制など、日本との違いも感じられてとても面白いと感じました。週末はキャピラノつり橋へ行ったり、ビーチへ行ったりと自分たちで計画をたてて楽しみました。日曜日には、ホストファミリーと一緒に教会へ行きました。私にとっては初めての体験で、とても不思議な感じがしました。教会では、みんな周りを気にせず自分の世界に入り込み感情込めて賛美歌を歌い、お祈りしていました。両手を上に挙げ、大きな声で楽しそうに歌う人もいれば、前にあるステージにひざまづき祈る人もいました。現地ではかできない貴重な体験ができてよかったです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この2週間の研修を通して、私は言語の壁以上にコミュニケーションをとろうとする姿勢が何よりも大切なのだ学びました。JEICのインターンシップをする中で、日本語ではなく英語でコミュニケーションをとりながら仕事をするのがほとんどでした。正直、会話の中でわからない単語があったり、仕事を進めていくなかで疑問に思うことがいくつかありました。そんな時、流さずにわからないということをはっきりと伝え、積極的に質問をしたりと、自分からコミュニケーションをとりに行くことで相手も、より分かりやすいようにジェスチャーや実際にやって見せてくれたりと工夫してくれました。

今回の研修では、空港やホテル、レストランの視察、ブライダルについてのお話を聞く機会もありました。普段は見ることのできない部分まで知ることができ、とてもいい経験ができました。今までは、かっこいい姿に憧れて夢を抱いていましたが、今回の研修を通してさらに自分自身の将来について深く考える良いきっかけとなりました。また、自分が伝えたいことを自由に英語で伝えることができず悔しい思いを研修中に何度も経験したので、その悔しさをこれからの学習に生かしていきたいと思えます。



ホストファミリーと共に



キャピラノつり橋

入江 美里 国際学部 国際学科 1年

県立与野高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務短期研修参加



出発前 羽田空港にて

カナダ観光実務研修で学んだこと

【研修国・地域の紹介について】

カナダに行ったことで日本人の良い点、悪い点を感じることができました。

良い点としては、マナーが良いところあげられると思います。大抵の場合、日本の電車やバス内で電話をしている人はほとんど見かけません。しかし、カナダでは電車でもバスでも構わず電話をしている人を何度も見かけました。もしかしたら、日本とは違い電話はしてはいけないというルールがないのかもしれませんが、電話をしていれば周りの人には迷惑がかかります。ルールがないのであればそのこと自体が日本との差であり、日本の方が良いと私は感じました。

悪い点は、シャイなところだと思いました。日本人は、なかなか見知らぬ人に声をかけるという事はしないと思います。しかし、カナダの人たちはフレンドリーでバスの中でも知らない人同士で会話が始まるほどです。

私自身、ナイトマーケットで相席をした人たちと話したり、バスの中で声をかけられたりしました。

日本人は気を遣うことがうまいので、特にこのような行動はしない人がほとんどだと思いますが、度が過ぎるのではないかと考えます。一言何か声をかけただけでも、それがきっかけで印象強い思い出になるかもしれません。

ほんの少し勇気を出して声をかけることができれば、何気ない日常に変化をもたらされるのではないかと思います。

【日常生活について】

私たちのホームステイ先はキリスト教の家庭らしく、食事の前に必ずみんなで目をつぶり、お父さんかお母さんが言葉を言います。また、日曜日の午前中は教会に行きます。教会に行く機会はなかなかないと思い、一週目の日曜日は私たちもついて行くことにしました。私が想像していた教会は日本でよく結婚式が行われるようなと

ころでしたが、実際行ってみると小さいホールのようなところで、聖書を読むのではなく数人が前に出て演奏をし、それに合わせてさまざまな歌を歌っていました。それ以外にも活動報告のようなものがあったりと、ドラマや映画で見ていたものとは違っていました。実際に足を運んでみたらこそ知ることができた事実です。

また、日本のバス停にはほとんどあるであろう時刻表がないバス停がありました。時刻表があったとしても時間通りに来ないこともあり、外国人は時間にルーズだと聞いていたため、妙に納得しました。

たしかに日本でも時間通りにバスが来ないことは多々ありますが、時刻表がないというのはとても不安に感じたのが今でも忘れられません。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は将来ホテルで働きたいという夢があり、JTBでの実務研修とホテルの視察があるということでこの研修に参加することを決めました。この研修に参加するまでは旅行業もいいかもしれないと考えていたのですが、JTBで研修をしてみてやはり私は旅行プランを提案するよりもホテルでお客様にサービスを提供したいのだと強く感じ、改めてホテルに就職できるように頑張ろうと心に決めることができました。そのため、ホテルの視察は私にとってとても価値のあるもので、海外のおもてなしを知ることができたのと同時に、私は日本で日本流のおもてなしを海外から来た方々に提供したいとも思いました。

また、英語の授業や日常生活で英語をたくさん使って生活できたおかげで、以前よりも英語に対しての苦手意識が少なくなったと感じています。流ちょうな英語を聞くことに耳が慣れ、何を言っているのかが理解しやすくなりました。また、文法としては間違っていたとしても、自分の思いを英語で伝えるということに抵抗がなくなりました。そのため、これからの生活もこの気持ちを忘れず、積極的に英語を使っていきたいと感じました。



最終日の JTB 研修



English bay にて

小椋 聖那 国際学部 国際学科 1年

私立成立学園卒出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務研修参加



JTBの看板の前で

カナダ観光実務研修に参加して

【研修参加の動機】

志望動機

将来、観光業界「ホテル」で働きたく、どのような人材が求められるのかを考えた結果、国内の情報と海外のホテルの情報を知っていて、それを用いて新しいホテルを造っていく力を身につけておくことが良いと感じたので、ホテル視察が入っているこの研修を選びました。

研修に行くオススメの学年は早ければ早いほどいいに越したことはないと思います。ですが、旅行業務取扱管理者の資格試験と日程が被ってしまうこともあるので気をつけたほうが良いです。

出発までしておくべきことは、観光入門を履修することを、まずオススメします。観光の基礎について学んでおいたほうがより馴染みやすいです。そして自分が行く場所の情勢を知っておいたほうが良いです。

【研修国・地域の紹介】

カナダの公用語は英語とフランス語です。歴史的に先住民が多かったが、外からやってきた英仏両国の植民地だったことから、英語とフランス語が公用語です。首都はオタワで最大の都市はトロントです。

日本との一番の相違点は、気候だと思います。8月なのに最高気温が23℃、最低気温が12℃です。これは、日本の夏では絶対にありえないことだと思います。その他にも、チップ制度や税金の違いなど、金銭面でも日本とは異なっています。

研修先のJTBの立地もとてもよく、私がホームステ

イをさせていただいていた家からは15分という近さで良かったと思っています。家が遠い生徒でも30分程度なので迷うこともないと思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して学んだことは、自分からしゃべるということを意識するだけで英語力はあがるということです。観光に関することもそうですが、現地では英語が話せないと言語もできないので、拙い英語でも良いので伝えることが大切です。

観光面においては、やはり「時代の一步先を進んでいるな」と感じました。例えば、視察をしたFairmont Hotelでは、介助犬を二匹、ホテル内で飼っています。日本ではペット禁止のホテルもあるので、「旅行者を最優先に意識した素晴らしいアイデアだな」と感じました。これは些細な例ですが、この他にも観光立国なりの様々な工夫がされているホテルでしたのでとてもこの視察には満足しました。

今後の進路は変わらずホテルへの就職を目指しています。ホテルといってもピンからキリまであるので、その中でのラグジュアリーホテルへの就職を目指しています。この目標達成のためには、英語というツールが必要不可欠なので、この先の大学生活の中で留学生と積極的に会話をを行い、日々、自分を高めていきたいです。



JTBでのバーベキュー



研修終了後の集合写真

酒井 杏奈 国際学部 国際学科 1年

日本大学三島高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務研修



ホストファミリーとの一枚

「観光実務研修を通して」

【研修生活について】

JEICでの英語の授業は、自分たちのレベルに合わせて授業を行ってくれて楽しく英語を学ぶことができました。また、少人数なので質問がしやすい環境にあり、それはとても良かったなと思いました。視察では、たいへん歴史のある格式高いホテルや有名人や内閣総理大臣が訪れたことのあるレストランに行き、普段聞けないようなことをたくさん聞いてとても貴重な経験になりました。空港視察では、ガイドさんを先頭に自分たちの足で空港内を回り、動線が考えられていることやその場で何が行われているのか、さらに自分たちが旅行する際のアドバイスなどをもらい、とても貴重な体験になりました。三日間の実務研修では、SilkwayとPurchasing & Reservationという部署に配属されました。Silkwayでは、パッケージ旅行を国ごとにリストアップし、その内容と期限をExcelにまとめる作業やパンフレットを仕分ける作業などをしました。Purchasing & Reservationでは、リストアップされているホテルの近くのレストランを調べたり、ツアーの作成をしたりしました。英語が好きで、将来観光業の仕事に就きたいと考えている自分にとって、最高の環境でとても楽しく色々なことを学ぶことができました。

【日常生活について】

今回のホームステイ先のホストファミリーは、トリニダード・トバゴ出身のお父さんと両親がベトナム出身のお母さん、そして三人の子供の家族でした。子供たちは、みんな自分よりも年下で、いつも元気で、とても明るい家庭でした。毎晩帰ってくると、「遊ぼうー!!」

と駆け寄ってきて、それがとても可愛くて毎日遊ぶのが楽しみでした。また、子供たちとたくさん遊ぶことで英語も上達するので、一石二鳥だなと思いました。バンクーバーの街にはFree Wi-Fiが多くありますが、繋がりにくかったり、何かを登録しなければならない場合もあるので、個人的にはポケットWi-Fiを持って行ったほうが良かったなと思いました。放課後は、友達と一緒に近くのショッピングモールやアウトレットに行き、ショッピングを楽しみました。週末には、フェリーに乗って少し遠出をして観光を楽しみました。また、最後の週末はホストと一緒にランチをしたり、観光スポットを巡ったりして楽しみました。カナダは基本的に物価が高く、今回の研修先であるバンクーバーがあるBC州では消費税率も12%と高いです。ですが、MACやCOACHなどのブランド品はカナダで買うほうが断然安いです。カナダは移民の国なので、色々な国の料理がありました。また、ホストの料理も美味しかったので、食事に困ることは無かったです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

将来、観光業の仕事に就きたいと思っている私にとって今回の研修はとても良い体験となりました。いつもは利用する側として見たり接したりしていたものが、今回の研修では利用される側として、利用する側では絶対に知ることのできないようなことがたくさん知れたので、とても自分にとってプラスになりました。今回学んだことを踏まえて、もっと知りたいなどの興味が湧いたことについて今後の大学生活で学んで、将来の進路に繋げていけたらと思います。



実務研修



空港視察の様子

志村 高良 国際学部 国際学科 1年

甲府市立甲府商業高校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務短期研修参加



仲良くなった人たち

【研修参加の動機について】

私が今回このカナダ観光実務研修に参加した理由は大きく分けて2つあります。

まず1つ目は私の目標である大学生活で10か国に行くという目標の第1か国目にカナダに行きたかったからです。カナダという自然と都市が一体化した国に1年生のうちに行って自分の視野を広げようと思いました。スケジュール的にも忙しくない1年生のうちの方がいいと思いました。そして私が選んだ国がカナダでした。1年生の早いうちにどこか海外に行きたいというアバウトな気持ちが入学時の気持ちでした。そこから大学の中の短期研修に参加したいと思い、今回の研修に参加しました。

2つ目の理由はJTBバンクーバー支店でインターシップができるからです。私は元々観光業に興味がありました。大学生活のうちに観光関連のインターシップに参加したいと思っていました。そんな中この研修を見つけ海外で観光のインターシップができることを知り、私にとってこの研修は一石二鳥だと思い参加しました。

1年生でこの研修に参加してよかったと思いました。多くのことを得ることができ、自分の視野が広がりました。

【日常生活について】

私は日常生活で困ったことはありませんでした。事前研修でしっかりと学んでおけば心配することは1つもありませんでした。むしろ私が過ごした日常生活は楽しいことだらけでした。ホームステイ先ではホストファミリーとホストマザーと息子と娘と私たちのようにホームステイしているペルーとカナダの留学生がいました。両親以外は私たちと年齢が近かったので家に帰ってからよく遊

びました。ホームステイ先の約束事もあまりなかったので普段家で過ごすのと同じくらいリラックスして生活できました。物価については日本と変わらないと思いました。お金の管理については私が警戒していたほど治安が悪くなかったので私は日本同様に管理していました。治安の良さで言ったらカナダのほうがよいかもしいい人たちばかりでした。通信はポケットwi-fiを借りていきましたがホームステイ先でもカフェでもwi-fiは使えたので借りたことが正解かわかりませんでしたが、頻繁にスマートフォンを使う私は借りて行って正解だったかもしれません。今回のこの研修で過ごした生活は私にとって新鮮で非日常的だとも思えますが、安心していつも通り過ごせた日常的だとも思えました。私のこの日常生活は一生忘れないものになりました。

【研修を通して得たことと

今後の大学生活への影響と進路について】

この研修に参加して私は観光業に携わりたいと思いました。理由は単純に楽しかったからです。もちろんその道に進めばつらいことが多くあると思います。しかし、今回感じたこの楽しかった気持ちを忘れずに残りの大学生活で観光を学べば将来自分の仕事を楽しめると思いました。この研修で得たものを1つにまとめると「楽しみ方」だと感じました。海外に出る緊張感も初めて会う人に対する気持ちも色々なことすべてを楽しもうとすることが大事だということを学びました。今回得たものを一生忘れないようにしたいです。



お世話になったロンドンドラッグ



トーテムポール

鈴木 沙季 国際学部 国際学科 1年

静岡県立浜名高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務研修参加



バンクーバー国際空港

カナダ観光実務研修を通して

【研修生活について】

研修内容は英語での授業3日間とJTBでの実務研修3日間、ホテル視察、レストラン視察、空港視察、ウエディングプランナーとプロのカメラマンによる講義などがありました。英語での授業はホームステイ先での生活を英語で生徒同士交換したり、カナダの歴史や文化を英語で学んだりしました。英語が苦手な私でもとても楽しい授業でした。JTBでの実務研修では2つの部署で研修を行いました。最初の部署、P&Rではカナダのホテル周辺の情報収集をパソコンを使って行いました。2つめの部署、DPSではチラシの情報を訂正したり、スポーツ観戦のチケットなどをまとめたりしました。ホテル視察ではバンクーバーの中でも高級なホテル、フェアモントホテルバンクーバーへ視察しに行きました。ほぼ満室の中、空いている3部屋を見学させていただきました。見学させていただいた3部屋はすべて宿泊料金が異なりスイートルームも見学することができました。レストラン視察では高級レストラン、GLOBALへ視察しに行きました。レストランの中を見学した後部屋に招待され質疑応答を行った後レストラン側の素敵なはからいで料理をいただきました。空港視察ではバンクーバー国際空港で視察を行いました。空港ならではの話を聞き、ANAの行っているサービスの話も聞きました。ウエディングプランナーとプロのカメラマンによる講義では最近増えている海外ウエディングの実情を知ることができ、写真の撮り方も学びました。

【日常生活について】

カナダですごした2週間はホームステイでした。なので、家に帰ったら同じ日本人のルームメイトと話すとき以外はすべて英語でした。初めての海外、初めてのホー

ムステイということで最初はとても緊張していました。しかしホストファザーもホストマザーもとても優しくホームシックは感じませんでした。そして私のホームステイ先は3人いました。それぞれ年齢は6歳、8歳、11歳で日本の子供と同じようにまだ難しい単語を知らないもので子供達とよく話したり遊んだりしていました。土日はホストファミリーから自由だといわれていたのとある1日はビクトリアに行きました。ビクトリアはバンクーバーのあるブリティッシュコロンビア州の首都です。バンクーバーからビクトリアまでは電車、バス、フェリーと乗り継いでいくので日帰りで行くのはとても大変でした。ビクトリアは「花の都」と呼ばれているだけあって街中には花がたくさんありました。また州議事堂など歴史を感じられる建物なども多くあり少ない滞在時間でしたが行ってよかったです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して、ホテルやレストラン、空港、旅行代理店などの観光産業の現場の実情や現場の雰囲気などを知ることができました。各視察先で質問もできて自分が気になっていること、その職業に就くために必要なこともきくことができました。ホームステイ先ではホストファザーやホストマザーとの会話で相手が話している英語はほぼ聞き取ることができても、いざ自分が英語で伝えようと思ったときに英語の単語がでてくることができないことや、英語で伝えたとしても自分の伝えたいことと相手の思っていることの少し違いがあるなど実感することも多々ありました。なので、今後の授業では英語の勉強をよりいっそう頑張りたいと思いました。



ホストファミリーの子供達との交流



ビクトリア

津嶋 陽向 国際学部 国際学科 1年

秋田県立大館国際情報学院高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務短期研修参加



ホストファミリーと

Grow up

【日常生活について】

私たちが訪れたカナダでは多種多様な人を見かけることが日常的でした。まず初めに人種です。街には中華系移民が多く、それ以外にもブラジル人の留学生や日本人の人も多く見かけました。また、私のホストマザーはギリシャ人でした。続いてLGBT（性的少数派）の人々です。男性同士が手をつなぎ、キスをしているシーンを何度も見ました。日本ではあまり見ない光景に、はじめは動揺しましたが、次第にドギマギすることもなくなりました。私はカナダでの13日間、これらの状況に触れ、ひとつ分かったことがあります。多種多様な人種の人々、性的少数派の人々。彼らは、人種や自分の性的派閥、他人からの目が自分を変えられるものでない知っているのだということです。自分は自分であるということを知り、自信をもって堂々と過ごしていました。ここにかききれない程の、そう思わせる体験がありました。この体験が私にとって特に印象的な日常生活お体験でした。

【研修生活について】

私は観光実務研修を「観光」という分野、一点についてのみ学ぶ研修だと考えていました。しかし、実際はESL（英語授業）、旅行業実務体験、ホテル・レストラン・空港視察など「観光」からはじまる多岐にわたる分野について学ぶことができました。これらの多種多様なプログラムは、常に私の関心を様々な方向へと導き、新たな発見や興味へと発展させてくれました。こういったプログラムは観光やカナダという国についての理解を深

めると同時に、私の英語能力をも向上させてくれたと確信しています。なぜなら、この研修はPDCAサイクルを効率よく行うことができる研修だったからと考えています。ESLでの授業で実際に英語での問かけ方について学び、何を質問するのか考える。(PLAN)その後、視察に向かい実際に自分で質問を試みる。(DO)視察後、自分がした質問と、もらった回答を照らし合わせて悪かった点や良かった点を確認する。(CHECK)ホームステイ先に帰宅し、その日学んだ失敗を改善して会話をする。(ACT)1日のあいだに「観光業」について学ぶだけでなく、さらに「英語学習」も自然とおこなうことができました。こうした日々を重ねた2週間は自分自身に対し自信を与え、自らの可能性を広げてくれたのだと感じています。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は研修を通して自分の未熟さと小ささと教養のなさを体感しました。これからは興味なかった分野へも視野を広げ、興味をもっている「観光」をもっと多角的な面からとらえられるよう、アプローチしていこうと思っています。また、これからの学習では身をもって体験したPDCAサイクルを取り入れ、実用的な英語力を鍛えていきたいと思っています。加えて研修で得た興味関心に敏感にアンテナを張り、自分の新しい一面の発見に尽力したいとも考えています。14日間の経験を「あの日のもの」にせず常に自分を奮い立たせる糧にしていきたいです。



現地で知り合った家族と



カナダ観光実務研修 Girls

根岸 宏旭 国際学部 国際学科 1年

県立海老名高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務短期研修参加



JTBの担当の方と談笑

バンクーバーでの生活について

【バンクーバーについて】

「カナダ」と聞くと、広大な森や雪、オーロラを思い浮かべる人も多いと思います。カナダの国土のほとんどがそのような土地ですが、私たちが研修先として行ったバンクーバーは、とても大きなビルが立ち並ぶ大都会でした。その規模は東京と同じくらいで、有名なブランド店も多く、街中を歩いているだけでも楽しめました。しかし、町の中心部からバスで数十分も行くと、きれいな砂浜の続くビーチや、巨木が生い茂る森に行くことが出来ます。町と自然の調和がうまく取れた都市のようでした。今、世界で最も地価が上がっているといわれていますが、それにも納得できます。ここバンクーバーでの滞在は、私にとって初めての海外経験でしたが、日本と似たような部分も多く、すぐになじむことが出来ました。電車やバスは「コンパスカード」という、「Suica」のようなものを使って乗ることが出来ますし、乗り換えはむしろバンクーバーのほうが単純で分かりやすいです。クレジットカード決済の普及率はとても大きく、使えないのは公園で開かれた出店くらいでした。一度やり方を覚えれば、様々な買い物も簡単にできると思います。物価は日本と同じくらいで、カナダの人が良く利用していたスターバックスはカナダのほうが少し安いくらいでした。

【ホームステイ先の生活について】

研修が楽しいものになるかそうでないかは、ホームステイファミリーとの関係が大きいかもしれません。私の



ホームステイファミリーとサッカー

ホームステイファミリーは、息子と娘がそれぞれ一人ずついる四人家族でした。子供といっても、それぞれ自分たちよりも少し年上くらいだったので、すぐ仲良くなる事が出来、楽しく過ごすことが出来ました。夜はリビングで日本やカナダのことを話し、よく一緒にコーヒーを買いに行ったりもしました。お母さんはとても面倒見がよく、料理もおいしいものを出してくれました。帰宅すると毎回、「おなか減った？」と聞かれたのですが、「減ってない」というと、絶対に出てこなく、逆に「おなかすいた」と答えると、山盛りサイズが出てきたりしたので、はっきりと自分の気持ちを伝えるということは大切だなと感じました。また、しばらくすると湯船が恋しくなりました。日本でお湯につかっている生活を送っていると、芽生えない感情でしたね。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回、カナダで生活することによって、様々な面を日本とカナダの二国間で比べることが出来るようになりました。帰国後は、街中でも家の中でも、日本を見る目が少し変わった気がします。バンクーバーを歩いて気付いたのが、市是が身近に感じられる環境が整っているということです。なので、今後はそのような取り組みを日本でも実施し、紹介していきたいと思っています。



ホームステイ先の夜

諸橋 麗 国際学部 国際学科 1年

埼玉県私立星野高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務短期研修参加



JEICの前で記念撮影

カナダ観光実務研修に参加して

【テーマ3：研修生活について】

私たちは2週間の研修の中で、最初の3日間の午前中は、JEICで英語のレッスンをし、午後はバンクーバー市内を観光したり、ホテルやレストランの視察に行きました。その後、28日～30日の3日間は今回の研修のメインイベントでもあるJTBのオフィスでの実務体験を行いました。その後、ウエディングプランナーの方々からの講義を受け、YVR空港へ視察へ行き、私たちのほとんどのスケジュールは終了しました。3日間の実務体験は、ほとんど初めてやる事が多く、緊張と不安で押しつぶされそうな思いでしたが、担当の方々や、時には日本人のスタッフの方が、丁寧に教えてくださり、本当に充実したものになりました。私自身、英語力に特に自信があるわけでもなかったのですが、1日目に聞き取ることができなかった英語が3日目の実務体験の時には、ほとんど聞き取れるようになっていたり、日に日に自分の英語を聞き取る力や、読んですぐに理解する能力が付いたように思います。

【テーマ4：日常生活について】

私たちは、全部で12人で研修に行ったので、2人1組でホームステイを2週間行いました。私自身、初めてのホームステイの体験だったので2人1組のホームステイで友達と協力をしながら、生活をする事ができ、心強いと思う面も多くありました。私たちがお世話になった家庭は、すでにお仕事を退職されている夫婦の家庭でした。最初は、ホストマザーの姿しか見当たらず、のちにホストファザーがどこにいるのか聞いたところ、別の家に住んでいることが分かりました。2、3日するとホストファザーも来てくださり短い間でしたが、お話をすることが出来ました。また休日にはホストマザーのお孫さんが遊びに来たりと、楽しい思い出が沢山できました。小学生の外国人の子供と遊んだりお話をすることは

めったにないことだし、簡単な自分自身の英語力で楽しく遊ぶことができることに達成感を感じたり、逆に子供達から英語を教わったりすることもあり、とても良い経験になりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回のカナダ観光実務研修を通じて、まず一番感じたことは自分自身の英語力の低さです。最初慣れるまでは現地の方々の英語を聞き取ることに大変苦戦しました。また最初の3日間くらいは、環境や文化の違いにも慣れず、戸惑う部分も多々ありました。しかし、毎日ホストファミリーと積極的にコミュニケーションを取ったり、JEICでの英語の授業を通じて、物怖じせずどんどん自分の意見を言えるようになると、日に日に現地の人たちとコミュニケーションを取ることに楽しさを感じるできるようになりました。またそのような経験を通じて海外で通用する英語を身に付けるようにするには、まずは英語の耳を作ることだと感じました。また、勿論英語の文法を身に付けることは大切ですが、それ以上に単語の知識をつけることはもっと大事なことだと強く感じました。そのためこれからはリスニングに力を入れた勉強をやっていきたくと思っています。また今まで以上に英語に触れる時間を多く取っていきたくです。

私自身は将来観光関係の仕事に就きたいと考えているので、今回この研修に参加して学んだ多くのことを今後に必ず生かすのと同時に、日本の歴史や文化をもっと多くの外国人観光客に知ってもらい、日本を好きになってもらえるお仕事に就きたいと更に強く思いました。



バンクーバーオリンピック聖火台の前で記念撮影



JTBの方々とBBQ！

結城 郁央里 国際学部 国際学科 1年

福島県立福島東高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務研修参加



ビクトリアにある州議事堂

「なんとなく知っている」国が自分の「好きな」国に

【志望動機について】

私は高校のころから国際的な勉強や仕事に興味を持っていましたが、興味があるだけで、まだまだ知らないことのほうが多く、もっと視野を広げたいと考えていました。そして大学に入ってからの観光実務研修の存在を知り、この機会にぜひ挑戦してみようと思い、参加を決めました。観光業にも関心があったので、ホテル、空港、レストラン、旅行会社等、あらゆる視点から観光業について学ぶことができるような留学は、自分にとってとても理想的なものでした。また、私は海外にも行ったことがなかったので、英語圏で、かつ自分ではなかなか行く機会のないようなカナダを実際に訪れ、「海外」というものに自分で触れてみるのも面白いのではないかと考えました。

【日常生活について】

私のホームステイ先は、他のみんなよりも一番遠く、計1時間程度かかる場所だったので、平日は2つの路線を使って通っていました。しかし他の人より遠い分、道中に寄り道できる場所がたくさんあったので、同じホームステイ先の友達と少しずつまわりながら帰ったりしていました。リッチモンドやバンクーバーにはショッピングセンターが多く、電車の乗り換えでお店の多いところを通ったりもしたので、友達と一緒にショッピングをしたり、有名な観光スポットに寄って写真を撮ったりと、遠いからこそ利点もたくさんありました。

また土日はJTBでの研修がないので、平日の研修後のわずかな時間では行けないような、少し離れたところに、自分たちで観光をしに行きました。ホストファミリーは、こんなところに行くといいよ、とたくさんおすすめの場所を教えてくれて、外出に関してもほとんど決まりがなかったので、ご飯が必要かどうかや、帰る時間などを連絡して出かけていました。

ちなみに、カナダの電車は日本の電車に比べ、少し不

便だと感じる点がいくつかありました。例えば、運賃が一つ一つの区間ごとに異なっているわけではなく、3つのゾーンで分けられていてわかりにくかったこと、乗車中の揺れが大きく、後ろ向きの座席に座ると酔いそうになってしまったこと、一つの車両が小さく、普通の座席も優先席も少なかったことなどです。また、一番困ったのは、ブザーが鳴ってからドアが閉まるまでの時間が短く、しかもホームではあまりブザーの音が聞こえないということです。私は普段よく日本でも電車を利用しているので、日本での感覚が当たり前になってしまっていたのですが、カナダに行って、いかに日本の電車が便利で親切なのかというのを身をもって体験しました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修に参加して、自分から伝えたり発信することの大切さを改めて実感しました。人見知りで、普段も間違いを恐れたり気にしてしまう私は、初めての海外、ホームステイで畏縮してしまうかもしれないと思ったので、絶対に後悔だけはしないようにしようと心に留めて行きました。そして恥ずかしがらずに伝えたいことをしっかり言葉にすることで、向こうの人でも理解しようとしてくれました。自分の思っていることが伝わったときはすごく嬉しかったし、外国人と接することの楽しさも身をもって感じることができました。

これを機に、やはり自分は、多くの外国人と直接関わることのできる仕事がしたいと、これまで以上に強く実感しました。またそれと同時に、語学力の改善・向上も不可欠だと痛感させられました。自分の思い描いている将来像に少しでも近づけるよう、今からできる最善の準備をして、今回の研修で得た、多くの新鮮な発見と貴重な経験を無駄にしないよう、大学での学びをさらに深めていきたいと思っています。



ギヤスタウン



夜のBCプレイス・スタジアム

横田 莉央 国際学部 国際学科 1年

埼玉県立所沢高等学校出身
2018.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務研修参加



折り紙に挑戦

経験することの重要性

【研修参加の動機について】

私は将来、漠然と海外で観光に関する仕事がしたかったため、観光業における視野の拡大を念頭に置き、実際に仕事ができる今回のプログラムは自らの海外進出のきっかけになると考え、このカナダ観光実務研修に参加しました。現地 JTB さんでの実務研修に加え、カナダの文化や習慣について触れることのできるホームステイが設けられていたことや、バンクーバー市内観光、なかなか体験できないであろうホテル、レストラン、空港の施設視察が出来ることも動機の一つでした。

この研修に参加しなければ得られないことが数多くあるので、観光業に興味のある生徒は、なるべく早く、できれば1年生のうちに参加することをお勧めします。

【研修生活について】

JTB での実務研修前には、カナダという国、歴史、政治などについて現地の JEIC スタッフから英語での説明や、簡単な英文法・語法の問題を解くレッスンがあります。レッスン自体は決して難しいものではなく、楽しみながら知識をつけることが出来ると思います。レッスンを通して、Canada という国名が先住民の言葉である Kanata (村) からつけられたこと、カナダ特有の俗語など、カナダについて深く知ることの出来るとてもいい機会であり、初めて知ることも多く大変興味深いものでした。

JTB の実務体験では一人二部署を1日半ずつ担当します。私の担当させてもらった一部署目では、カナダの

ホテルの評判について調査をし、英語で記載されている評判は日本語に訳し

ました。ホテル調査をして情報を更新することで、お客様に正確な情報を提供できるのだらうと感じました。二部署目では、カナダにある1つのリゾート地についての広告づくりをしました。様々なサイトから多くの情報を得て、自らデザインを考えて作った広告はとてもいいものに仕上がりました。二部署目は日本語を話せるスタッフがいないため、海外で働くということがどうということなのか、より現実的に知ることが出来ました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修に参加したことで観光業における視野を広げることが出来、新たな課題と目標を見つけることが出来ました。幼少期から習い事の影響で英語が好きでしたが、更に英語が好きになりました。また、海外で働きたいという気持ちが一層強くなり、これからの学生生活の中で、より多くの地域と国々についての深い知識を得て、将来の夢を叶えるためにも自分自身で数多くの国を訪れ、当大学での短期・長期研修プログラム、さらには交換留学プログラムに積極的に参加していきたいです。



Victoria の街並み



別れの日

岡本 啓希 国際学部 国際学科 2年

都立三田高等学校 出身出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 カナダ観光実務研修参加



駐車場でバーベキューにて

この研修を終えて得たもの

【研修国・地域の紹介について】

日本の夏とは違い、カナダの夏はとても過ごしやすい気候という風に感じます。その原因は湿度の違いです。日本は高温多湿ですが、カナダはそのようなことはなく、湿度が低いので日本のように歩いていて汗だくになることはほとんどなかったです。

海外では日本とは違い、家の中でも土足で入るというイメージが強いと思っていましたが、カナダのバンクーバーはそのような感じではなく、日本と同じように家では靴を脱ぎ、スリッパやサンダルを着用する家庭が一般的のようです。

一軒家の家庭では、地下室を設けることが多いそうです。しかし、バンクーバー南部のリッチモンドという町では地盤があまりしっかりしていないため、地下室を設けることができずほとんどの世帯が地下室は作っていないそうです。それが原因かどうかは不明ですが、リッチモンドの町の住宅街で見たほとんどの家が3階建てになっていたのではないかと思います。

自分がホームステイで滞在したリッチモンドという町は、中華系の人が多いらしく、中国語で書かれている看板や店がたくさんあります。それだけではなく、ショッピングセンターもここが本当にカナダなのかと疑問を抱くほど中国系のお店や人がたくさんあります。

【研修生活について】

最初の1週間はガイドさんについてもらい専用車に乗りバンクーバー市内を観光したり、英語の授業を受けた



JTB 最寄りの駅とカナダ line

ります。英語の授業の内容は、カナダの歴史を学んだりカナダの広い国土の様々な気候の違いや文化の違いなどをすべて英語で授業を受けました。先生もほんの少しだけ日本語が話すことができ、自分たちが全く先生の英語を理解していなかった場合のみ日本語で少し手助けをしてもらえることがあります。

この研修は観光実務研修ということで、3日間 JTB のバンクーバー支店で業務について働くことができます。個々で2つの部署を担当させてもらうことができます。1日半で分けて業務をすることになっています。

絶対このような研修に参加しないと経験できないことばかりをやるので、3日間以上のものを得ることができると思います。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修に参加して得たものは、ひとくりに旅行業務の会社といっても、社内では多くの部署に分かれていて、それぞれどの部署がどのような仕事を担当しているのかを学ぶことができたことです。実際に自分が目指す旅行業務の会社のやっていることを実際に体験することができたので、自分でどのようにすればもっと自分が行きたいところに行けるかを考え、そこに近づけるために多くのものを在学中に身につけていけたらなと感じます。引きつづき将来の進路は旅行業務として、残りの在学期間を過ごしていけたらなと思います。



英語の講師 Mana 先生と

【個人研修奨学金】

1. 参加者名簿

氏名	研修先	学年	学部	学科
井料田 隼人	フランス	2	商	経営
小宮山 理緒	フランス	2	商	国際ビジネス
細川 麻琴	フランス	3	商	国際ビジネス
田代 ひより	フランス	2	政経	経済
弓田 怜央	フランス	2	政経	経済
垣谷 麻里菜	フランス	3	政経	経済
山岸 宥太	フランス	2	政経	法律政治
井村 文哉	ドイツ	3	商	経営
小松 里樹	ドイツ	3	商	国際ビジネス
五十嵐 ゆり	ドイツ	2	政経	経済
川口 郁也	ドイツ	2	政経	経済
山本 峻太郎	ドイツ	2	政経	法律政治
宗像 祐未	ドイツ	3	政経	法律政治

氏名	研修先	学年	学部	学科
高梨 純	スペイン	4	商	経営
伊東 朋美	スペイン	3	商	国際ビジネス
田村 凱樹	スペイン	3	商	国際ビジネス
富澤 佳亮	スペイン	2	政経	経済
五十嵐 ゆう	タイ	3	国際	国際
中野 太陽	韓国	2	商	国際ビジネス
松本 明日香	韓国	2	商	国際ビジネス
岩田 隆浩	カナダ	3	外国語	中国語
菅沼 将仁	ブラジル	3	商	経営
北山 明恵	中国	2	商	国際ビジネス
菅原 早絵	マレーシア	2	国際	国際
池田 野亜	インドネシア	3	国際	国際

※学年は研修参加時のもの

個人研修奨学金

フランス

井料田 隼人 商学部 経営学科 2年

私立東京学館浦安高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（フランス）参加



日本とはまた違うディズニーランド

目的があつての研修

【研修参加の動機について】

そもそも、どうしてフランスに行ったのか。それはディズニーランドパリがあるからです。

第二語学を選定するときも上記の理由で選びました。今回の研修では主に日本とフランスの違いを主軸に取り組みました。ディズニーランドがあるという一見遊びではないのか？と思われるかも知れませんが、私はディズニーに興味があればそもそもフランスについて知ろうとも思わなかったです。日本にある東京ディズニーリゾートに幼少期から行って、高校の時には海外のディズニーについて自分なりに研究をしていました。日本以外にあるディズニー3か国5か所、その中でも大学ではフランス語を専攻した故にフランスのディズニーをより知ることが出来てかつ日本とどのように違うのかをお金を負担してもらいながら見に行くことが出来ると思い研修を志望しました。

自分で言うのもあれですが、例えば2018年ロシアワールドカップで優勝したからフランスに興味を湧いた。やK-POPが好きだから韓国語を専攻した。など些細な事でも自分が研究する動機が生まれることは大切だと思います。

結果としてですが、2つの相違から食文化やその地域で客を何で集めているのかなどの商法が見えてきました。特に物価の違いは普通の生活を行っていたため、身をもって痛感します。

研修に行く際の注意事項ですが、日本で普段やっているようなものがやっていないケースがあります。例えば、フランスではスーパーが日曜日定休または午前中のみ営業がほとんどでした。私は現地に着くまで調べていなかったの思わぬところで苦労しました。皆さんも行かれる際には生活面の情報を調べ上げておくことをお勧めします。

【日常生活について】

今回の研修では、レジデンスホテルといういわば1人暮らしをしました。普段は実家暮らしで経験上やってみたかったという気持ちがありました。近くに大きなスー

パーがあり、買い物も無理することなく出来ました。但し上記にも書いていますが日曜日定休が殆どだったのでそこに注意する必要がありました。

自分の研修先であるフランスのリヨンでは、乗り捨てが出来るレンタサイクルがありました。1回利用が約200円位でしたが、年間利用だと2000円ちょっとでした。30分以内に市内に300か所近くある自転車置き場に返せば、実質使い放題でした。私は年間で購入して語学学校や周辺に行く際の足として非常に便利でした。

自分が一番気を付けたことは金銭管理です。日本とは物価が大きく違い、青果野菜以外のものは日本より高いと思ってもいいです。一番大きく出費が激しいのは外食です。私が滞在中一番利用したマクドナルドでも同じサイズメニューで日本の2倍です。レストランやカフェでも同じように跳ね上がったような額をしているので、外食を続けていると手持ちのお金もすぐ無くなります。1人暮らしで節約するにはスーパーをうまく使いましょう。材料自体はそこまで高くないので自炊できる時は自炊し、使いたいときのお金を残せるようにしましょう。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

まずこの研修で身をもって思ったことは、英語が出来れば渡り合えることです。日本語以外だと1年弱しかやっていないフランス語より中学からやってきた英語が即座に頭に浮かんでくるのが殆どでした。確かに現地の言葉で話してコミュニケーションをとることが出来れば一番いいですが、もしもの時に備えて考えると世界共通語である英語が話せると便利である点もあります。フランスであればヨーロッパの主力言語に対応している施設や地域が多いです。自分は現地に慣れていないときは英語を使って生活して徐々にフランス語を取り入れて頑張りました。

でも英語だけで地域が成り立ってはいないで、会話表現や標識に書いてある単語など最低限のフランス語は事前に調べておくといいと思います。



約一ヶ月滞在したレジデンスホテル



サッカーW杯で優勝したフランス、リーグ戦もアツかった

個人研修奨学金

フランス

小宮山 理緒 商学部 国際ビジネス学科 2年

山梨県立甲府昭和高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（フランス）参加



リヨンの町並み

人生最大の挑戦

【研修国・地域の紹介について】

フランスと日本の相違点で気づいたことがいくつかあります。中でも重要だと感じた2つのことを紹介します。1つ目は気候です。夏は日本に比べて気温は低く湿度がないので、暑い日でも汗が出ることはなく、とても過ごしやすかったです。しかし、気温が低い日でも日差しは強いので、日焼け止めやサングラスを持参したほうが便利だと感じました。薄着だと寒い日もあるので上着や長袖を1枚持っていくことをお勧めします。電車やバス、お店では冷房が効いていることはほとんどありません。しかし、暑いと感じることはあまりなく、冷房なしでも生活できるような気温です。また、日の出と日の入りの時間が遅く、時間の感覚が少し麻痺しますが大きな支障はありません。2つ目は交通事情です。フランス人は歩行者の信号を全く守っていませんでした。信号無視が当たり前で、信号が変わるのを待っている人は見かけませんでした。また、車の運転が少し荒いようにみえました。ウインカーも出さず車線を変更する車ばかりで、事故が起こらないか冷や冷やす場面が何度ありました。しかし、信号のない横断歩道に歩行者がいたとき、必ずといっていいほど車が止まってくれ、歩行者を渡らせてくれました。車道の脇は縦列駐車車で埋め尽くされており日本では見ない光景でした。

【研修生活について】

私は Lyon Bleu International という語学学校に4週間通いました。レベル分けの Web テストがあり、その

結果によってクラスが振り分けられます。1クラス8人~10人で授業を行います。自分のレベルにあった授業を受けられるのでフランス語が話せなくても心配する必要はありません。しかし、授業はすべてフランス語で説明されるので、フランス語をある程度勉強していったほうが理解するのがはやいし、よりレベルの高いものを身につけられるなと思ったので、仏検5級程度の単語は覚えておいたほうが良いと思いました。授業はとても大変ですが、わからなければ先生がジェスチャーを交えながら優しく教えてくれるので困ることはありませんでした。クラスの仲間たちとの会話は英語が多いので、英語力があればより楽しくさまざまな国の人たちと会話ができると思います。多くの刺激を受けるし、自分の価値観や各国による日本の見られ方を知ることができるので、いろいろな国の人と会話することはとても大切なことだと思いました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通してコミュニケーションの大切さを学びました。片言の言葉でも相手に伝えようとするのが大切で、話すことを怖がっては何も始まらないなと思いました。言葉が通じたときの嬉しさは話した人にしかわかりません。今後、相手に良い印象を与えられるようなコミュニケーションを学び、日本人だけでなく、留学生とも積極的にコミュニケーションをとっていきたいです。



クラスの仲間たち



ホームステイの家族

個人研修奨学金

フランス

細川 麻琴 商学部 国際ビジネス学科 3年

岩手県花巻市立花巻南高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（フランス）参加



リヨンのテッドドル公園

フランスでの生活

【研修参加の動機について】

私は高校からフランス語を学び始め、現在も第二外国語として選択しています。フランス語を勉強しているうちに実際にフランスに行きたいという思いが強まり、今回研修に参加させていただきました。研修の参加にあたり、自分の中でとても迷いましたし、一人で海外に過ごすということ自体初めてで不安に思うこともありました。しかし、両親の応援があり、親戚に支えてもらいながら準備をすることができ、無事に研修を終えることができました。もともと二年生の夏休みにいこうと考えていましたが、お金の面やスケジュールの都合でいけませんでした。

研修が決まり、準備がとても大変でした。航空券をとるのも初めてで心配しましたし、留学の仲介業者さんに頼み、学校、ホームステイ先の手配をすべてお任せしました。そのため、わからないことがあれば担当の方にすぐ連絡しました。実際、留学先の学校にいた日本人学生の方たちはすべて私の担当者さんと同じでした。仲介料もかからないため、価格も抑えられました。

【日常生活について】

私は学校が決めてくれたホームステイ先でした。日本語がわりと話せる優しいマダムでした。お昼ごろに到着

し、学校が用意してくれたタクシーでホームステイ先まで行きました。ついたらマダムとリヨンで使える一ヶ月の定期を作りにいきました。次の日に一緒に生活するイタリア人の女性が来ました。彼女とは同じ学校なので一緒に登校しました。だんだんイタリア人の時間にルーズなところが気になりましたが、休みの日は一緒に観光したり、美術館をたくさん訪れたり、買い物を楽しみました。英語よりもフランス語をよく使っていたため、簡単な会話は少しできるようになりました。

学校も親身になってくれる先生方や、いろんな国の生徒がいたため、毎日楽しく過ごせました。みんなでテッドドル公園という大きな公園に遊びに行ったのも楽しかったです。簡単な表現を覚えると、みんなとあいさつをし、休みに何をしたの？とか聞けるようになり、会話が広がりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

三週間の研修でしたが、とてもあっという間でした。出発前の不安がうそのようです。フランスに研修に行ったことはとても勉強になりましたし、素敵なお思い出です。改めてフランスが好きになりましたし、もっとできるようになって、また訪れたいです。



ビューリヨン



リヨンの川

個人研修奨学金

フランス

田代 ひより 政経学部 経済学科 2年

新潟私立北越高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（フランス）参加



リヨンの博物館にて

フランスでの経験

【研修参加の動機について】

私が研修先にフランスを選んだ理由は、フランス語の授業を受けていく中でフランスの歴史や文化に興味を持ったからです。授業内でフランスを旅する番組などを見て実際に訪れてみたいと思いました。研修に行くには2年生がちょうどいいと思います。なぜなら就活などないので研修に時間をたっぷり使えるからです。また、これからの勉強のモチベーションが上がると思います。研修に行く前に、フランス語会話演習などを履修しておくといいと思います。私は必修のフランス語しか履修していませんでしたが、フランス語会話演習を履修していたほうが、実際にフランスで生活するときを使う会話を学べると思うので履修しておくことをお勧めします。また英語の勉強もしっかりしておくといいと思います。英語を話せるのが普通で、店内などでの表示もフランス語と英語で書いてあることが多かったです。なので英語もしっかり勉強したいほうがいいと思います。

【日常生活について】

私はホームステイをしました。寮もいろいろな国の学生と触れ合うことができていると思うのですが、ホームステイの方がホストファミリーとの会話などでフランス語を使う機会が多いのでホームステイの方がいいと思います。また実際の生活感が味わえるのはホームステイだと思います。私のホームステイ先では特に決められたルールなどはなく、時間を自由に使うことができました。授業がお昼からだったので、朝は1人で美術館に行ったりしてました。朝は開いているお店が少ないので教会など建築物を見に行くのがいいと思います。授業が終わると友達と遊びに行くことが多かったです。週末に

はTGVを使いパリに行きました。リヨンでの日曜日は閉まっているお店が多かったのですが、パリは観光客が多いのでとても賑わっていました。またフランスにいった最初の週に、放課後に町を案内してもらったりなどの行事がありました。自由参加だったのですが、そういった行事には積極的に参加したほうがいいと思います。私は初心者クラスでした。クラスメイトは、オーストリアやノルウェー、ドイツ、クウェートなど様々な国の留学生がいました。休憩時間や授業前など喋ったりして楽しかったです。また学校に早く行き勉強をしていると他のクラスの学生とも話すことができて仲良くなったのでよかったです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して私はもっとフランス語に対する勉強意欲がすごく高まりました。実際に現地に行ってみるとフランス語が全然話せなくてとてももどかしさを感じました。お店でのちょっとしたやり取りとかだけではなく、スラスラ日常会話ができるようになりたいと思いました。なのでこれからの勉強は、まずは基礎を固めて仏検3級の取得を目指し、リスニングも重点的に勉強していきたいと思います。この研修は、行きたい学校、期間、日程すべての計画を自分で決めました。現地では1人なので不安もありましたが帰ってきたときにはとても達成感がありもありました。こういった経験はとても貴重な経験だと思います。ぜひいろんな人に経験してほしいとおもいます。



授業の様子



旧市街にて

個人研修奨学金

フランス

弓田 怜央 政経学部 経済学科 2年

私立日本体育大学荏原高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（フランス）参加



授業中

研修を通じて得たこと

【研修国・地域の紹介について】

フランスの季節は日本と変わらないですが、同じ夏でも全く違いました。日本の夏は蒸し暑く気温も高いですが、パリの場合、気温は20℃前後で湿度も低いのでとても快適です。ですが、朝と夜は肌寒いです。

フランスの習慣として時間にルーズだなと感じました。例えば、電車に乗ろうと駅へ行ったとき日本だったら駅のホームの時刻表は電車の到着時間を示していますが、パリの場合はあと何分後に電車がくるという表示で電車が来る時刻は表示されていません。また授業始まる3分前に学校に着いたときがありました。そのとき教室には2人くらいしかいなかったこともありました。そしてパリの人々は朝に活動する人が少なく全体的に夜型でした。なので、深夜までやっている飲食店が多々ありました。

パリ市内の建造物は高さや外観がほとんど同じなので、たまに自分がどこを歩いているかわかなくなってしまう迷子になってしまうことがあります。

【日常生活について】

ホームステイ先の生活様式は主食が米を食べるかパンやパスタを食べるかくらいの違いしかなく全く日本と変わらない生活を送ることができました。またパリ市内の水道水は飲めるのでお腹を壊す心配はありませんでした。

物価は日本と比べてかなり高いので少し余裕を持ってお金を持っていかないと生活はかなり苦しくなります。大体一食1500～2000円はかかります。そして日常生活



登校中

で使う言語はほとんどが英語でした。フランス語ではあまり話しかけられません。またフランス人はあまり他人に心を開かなくて聞いていましたが、実際はそんなことなくほとんどの人がフレンドリーに接してくれます。語学学校には色々な国の人がいました。私のクラスには韓国人、タイ人、コロンビア人、スペイン人、ポルトガル人、ドイツ人、デンマーク人がいました。みんなで授業を受けたあと放課後にご飯を食べに日本食レストランに行ってお箸の持ち方を教えてあげたり、観光名所を一緒に回ったりと放課後や友人関係はかなり充実しました。

お金の管理は徹底したほうがいいです。友人はお財布をスラレ、カードと現金数万円が無くなりました。貴重品はズボンのポケットやリュックのポケットには入れず、肌身離さず持ったほうがいいです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修で得たことは自分の小ささに気付かされたことです。海外の人はみんなと同じがいいとか、自信がないと英語を話さないとかそういうことが一切なく、みんなしっかり自分を持っていて恥ずかしがることはありませんでした。日本では海外の学生事情は分からなかったのですが、いざ多国籍の集団の中で生活すると英語圏じゃない人達もみんな英語は普通に話すことができ、コミュニケーションも取れているので、そういった面では他の国々に置いていかれていると感じました。今後の学生生活では海外に目を向けながら勉強に励まなくてはいけないと思いました。そして残りの学生生活で日本のことや語学学習得はもちろん海外にも目を向け色々なことを学び、大学卒業後は日本だけではなく海外でも働きたいと思っています。



現地の子供たちとサッカー

個人研修奨学金

フランス

垣谷 麻里菜 政経学部 経済学科 3年

千葉県立佐倉高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（フランス）参加



カヴィラム

3週間のフランス留学について

【研修参加の動機について】

私は、フランスのヴィシーという街に3週間留学させていただきました。私は、1年生の時から第2外国語としてフランス語を勉強していくなかで3年生の秋に仏検準2級を取得したいと思いました。私は仏検3級を取得するにあたってリスニングにとっても苦労しました。そのとき2年生から興味を持っていた個人研修という制度で実際にフランスに行き、リスニング力を身につけたいと思ったからです。また、授業を通してフランスの歴史や文化について興味を持ちました。ですからフランスに行き現地でしか学べないことを学びたいと思いました。私は、2年生の時にフランス語会話演習を履修していました。私がフランスに行ってから思ったことは、ホストファミリーと会話するときや学校で会話するときに単語が分からないと話すことが出来ないのではやはり単語力を身につけることがとても大切だと思いました。ですから、留学する前に単語を勉強し、日本で買った単語帳や自分で作った単語帳を持って行くと良いと思います。

【フランス・ヴィシーの紹介について】

私が滞在したヴィシーは、温泉やミネラルウォーターや化粧品で有名な街です。19世紀にはナポレオン3世により公園や大きなカジノが造られました。そのためヴィシーには、ナポレオン3世の公園や銅像があります。第二次世界大戦の時のヴィシーは温泉地だったので多くの人々がヴィシーに集まっていたなどのことからフランスの首都として定められており「ヴィシー政権」と呼



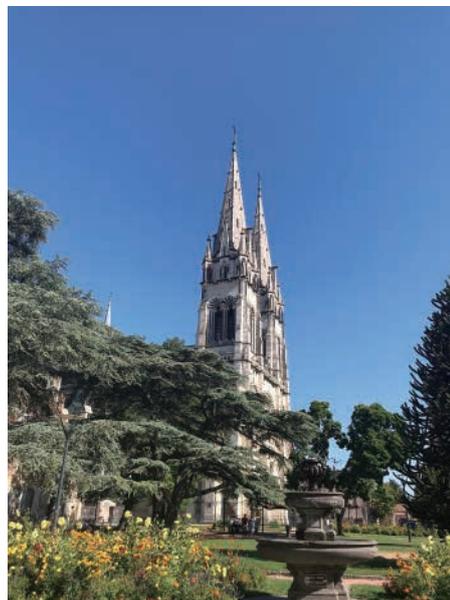
ムーランの建物

ばれていました。カヴィラムは、少人数制で初日にクラス分けテストがあったので自分に合ったクラスで学ぶことが出来ました。また授業は、発言重視で放課後や休日にはアクティビティがあり、色々な場所に行くことができ、他にもスポーツや映画を観ることが出来たのでクラスの人だけでなくたくさんの人とコミュニケーションをとることが出来ました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

個人研修を通して得たことは向上心です。現地では上手く伝えることが難しくとても苦労しましたが、その分もっと話せるようになりたいと思い、現地の人とたくさんコミュニケーションを取ることが出来ました。これからは勉強を続けていき、語学力を向上させたいです。研修では自分で計画を立て、1人で行く研修なので分からないことは現地の人に自分で聞かなければなりません。私は自分には積極性が足りないと感じていましたが、フランスへ行き積極的に行動し、コミュニケーションを取ることの重要性を改めて感じる事が出来ました。私は現在3年で就職活動があります。個人研修を通して学んだことを自分の強みとして就職活動に活かしていきたいです。



ヴィシーの風景

個人研修奨学金

フランス

山岸 宥太 政経学部 法律政治学科 2年

都立足立西高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（フランス）参加



現地で知り合った友人

フランス・ニースでの一か月の生活について

【研修国・地域について】

ここに住む人たちは時間に追われず、幸福のために生活をしている印象でした。日が昇るのが遅く、沈むのも遅いため、一日が長く感じました。フランスの中でも比較的治安は良いほうらしいですが、やはり自己管理能力は日本に居る時よりもより一層強めるべきだと思いました。ホストファミリーの方に聞いたところ、日本人は規律をとて守る人たちが、臆病に見える、と言っていました。私の研修先は南仏のプロヴァンス地方に属するイタリアに近い場所で、世界的にも有名な観光地でもあります。歴史的に見ればイタリアの文化圏に属したことが長かったため、風習や文化の面ではイタリアに近いともいわれています。ニースは地中海に面しており、地中海性気候に属した居るため、一年中安定した気候でもあります。そのため私の研修期間で2回しか雨が降っていません。日中でも30度を超えることは稀で、乾燥しているため、とても過ごしやすい印象でした。

研修先はIHニースという場所で、生徒と先生の距離が近く、困っていてもすぐにサポートしてくれるようなとても居心地のいい場所でした。時期ということもあり、学校には日本人が多くいました。なので孤立する不安はなかったです。研修先の近くには大聖堂やロシア正教会や旧市街など、歴史的な建物もあり、語学以外の勉強にもなりました。

【日常生活について】

ホストファミリーの方はバカンスということもあり、多くの時間を費やしていただきました。基本的なルールは午後7時に夕飯、水曜日に洗濯ということだけで、あとは基本自由でした。研修をするにあたって、渡航前に基本的な単語などを勉強することでホストファミリーの方との会話の幅が広がっていいと思います。自分がお世話になった家では他にコロンビア人の留学生がいました。その人は内向的な性格だったこともありあまり親しむことができませんでした。

授業終わりは基本自由なので現地で知り合った日本人



ホストファミリーと海で

と交流することが多かったです。ニースという場所はほかの観光地にも行きやすいようにバスなどが安価で網羅されていました。なので学生定期券を作り、色々な場所に視察できました。

金銭感覚は、渡航前から意識して居ましたが、物価が高い分「こんなに使ったっけ」とすぐに思います。なので毎日いくら使ったかを記入していました。そこでしか買えないものも沢山ありますが、計画的に使うことを常に意識しておくことが大事だと思いました。現地での金銭の貸し借りは、トラブルを引き起こさないためにもできるだけ控えるべきだと思いました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、日本以外の文化や異国の方との交流を知り、日本の常識が外国で通じるわけではないということ、そして積極的にコミュニケーションをしていくことの重要性を痛感しました。言語能力が上がるにつれ、日ごろの生活も楽しくなってきたことから、言葉の大切さと言葉を一つでも多く知ろう、知りたいと思う気持ち、向上心がとても大事だと思いました。それに外国に行くにつれまずは自分の住んでいる国、地域のことを外国の人に説明できるようにならないといけないと思いました。

今後の学生生活では、フランス語を学ぶ意欲がより一層増したので、成績があまりよろしくないフランス語に力を入れるのはもちろんですが、外国の経済や貿易に関する勉強も新たに取り組みたいと思いました。それに加え教職課程を履修しているのも、外国の教育方法や教育史も学んでみたいと思います。進路としては教員というのは変わりありませんが、本学でより一層外国のことを学び、進路の幅も広がると思います。



観光地マセナ広場

個人研修奨学金

ドイツ

井村 文哉 商学部 経営学科 3年

千葉県立幕張総合高校出身出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（ドイツ）参加



ポツダマープラッツ駅

自由の街、ベルリン

【研修国・地域の紹介について】

私の行った研修先のベルリンはドイツの北東に位置する首都です。言わずもがなの国際都市で多国籍の人が生活しています。シェンゲン協定加盟国なのでヨーロッパのツアリスト、さらにトルコ人などの移民が多くいます。ベルリンの壁による分断から再生した都市であり、ほかの世界の都市と比べても特徴的です。イーストサイドギャラリーやペルガモン博物館などの歴史的な建造物があります。さらに自由文化の都市です。その象徴として、ベルリンではナイトクラブが盛んで、特にハウスやテクノと言ったクラブのメッカとされ市内に百を超えるクラブがあります。中にはツアリストの冷やかしを拒むことで逆に人気を得ている箱もある。街中での喫煙は基本自由です。世界的な禁煙ブームの中で喫煙に対してかなり寛容な都市です。言語はドイツ語ですが英語も通じます。

ドイツの名物といえばビールです。各地方の醸造場地でビールが作られ売られています。基本的に瓶で売られていて、買う際に容器の代金として幾らかデポジット代を取られます。飲み終わった容器をお店に返すとその代金が帰ってきます。ペットボトルも同様です。その為、街にそのようなゴミはなく、また街中で捨てたとしてもそれを拾って換金することを生業にする集団もいます。

【日常生活について】

ドイツでの生活は語学学校が提供するホステルにシェアハウス暮らしをしていました。1kの部屋でユニットバスが共有でした。隣は韓国人やウクライナの人が住んでいました。上の階に住んでいた同じクラスのスペイン人の部屋にはキッチンがなくたまにキッチンを貸していました。

ホステル暮らしの細かい規則はありましたが、その中で自由でした。ベルリンの治安はよく、地区による貧富

の差はあまりありません。また市内を走る鉄道は24時間走っています。物価は日本とほぼ同じで、ドイツや関税のかからないものは日本より安いです。何よりビールが日本の4分の1ほどの値段で売っています。法律により製造方法が厳しく規制され高品質を保っています。ドイツでは16歳から蒸留酒などを除くアルコール飲料を飲めるようになります。ドイツで生活をして一番重要だったのは挨拶です。お店に入った時に、店番の人やレジの担当者に挨拶をしないとするとでは全く対応が違います。無言でお店に入っただけでは買い物客なのか不審者なのかかわからないのでコミュニケーションが必要でした。ドイツ語が上手く話せなくても英語が通じるので（特に若者や旅行者がよく訪れる店）とにかく自分の意思を最初に伝えないといけません。さらにベルリンでは多国籍な人が住んでいる為、日本のように暗黙の了解はありません。よってルールに厳格でルール外のことには寛容です。例えば電車（地上線）での飲食はOKでタバコはダメ。誰かが車内でピザを食べていても皆平気に過ごしています。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して学んだことは自分のしたいことをしっかり伝えることです。そのためにちゃんと言葉を伝えることです。1番は話せることです。

また特定の言語に依存しない趣味がある事にも価値があるということがわかりました。また趣味を生業にしている人は訪問するととてもフレンドリーに接してくれるし、伝えたいことがあるから、お互いジェスチャーをオーバなくらい使ったりして、話がでることに魅力を感じました。

最後に今後の学校生活ではドイツ語の語学検定3級の取得を第一の目標にしていこうと考えています。さらに拓殖大学に来ている留学生にもっと話しかけて繋がりたいと思っています。大学卒業後はドイツで働くことを視野に入れています。効率の良い仕事や習慣を身に付けていきたいと思っています。



ポーター美術館



イーストサイドギャラリー・兄弟のキス

個人研修奨学金

ドイツ

小松 里樹 商学部 国際ビジネス学科 3年

目黒学院高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（ドイツ）参加



クラス集合写真

ドイツでの生活と労働について

【研修参加の動機について】

第二外国語でドイツ語を選択していたので、ぜひ現地で学び実際に話してみたいという思いがあり参加を決めました。ドイツ語を選択した理由は大きく二つあり、ひとつはドイツのサッカー中継の実況がドイツ語だったことがあり少しでも理解できれば面白いのではと思ったことです。もうひとつはドイツの労働様式が素晴らしいと感じていたからです。安易な動機ではありますが、これらふたつも現地に行くことで理解を深められるのではないかと考え個人研修奨学金制度の利用を決めました。

【日常生活について】

私はホームステイを選択しました。より様々な人とかわることが出来、ドイツ語を学ぶのにも今回の個人テーマについて理解を深めるのにも助けになると考えたからです。ホストマザーはトルコ系ドイツ人でとても朗らかな方でした。ホームステイ先では常に4、5名の生徒が滞在していました。ホームステイ先では朝食と夕食が提供され、毎日夕食後にお茶やコーヒーを飲みながらドイツ語での会話時間が設けられていました。主に政治的な話や歴史的な話が多く、期せずして労働についての各々の見解をきくこともできました。リスニングはなんとかできていたのですが、なかなかドイツ語の文章が口から出てこないで会話に参加できないことがありました。そんなとき同部屋だったロシア人の男子が僕にとにかく話すことに挑戦するよう促してくれそこから臆せず会話に参加できるようになりました。また、ホストマザーは英語が話せないのですがスペインとインドのハー

フの女の子が通訳に入ってくれ、伝えたいことを正確に伝える助けを買って出ってくれました。

研修計画ではサッカーを観戦する予定でしたが観戦可能な試合がすべてその日のうちに帰宅できなかつたり深夜の帰宅になったりと危険を伴う可能性があったため、昼間行われていたスタジアムツアーに変更しました。ボルシア・ドルトムントが私のお気に入りのチームなのですが、そのホームスタジアムの隅から隅まで見学することが出来、感動しました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修でははっきり意思を伝える力を得ました。また、欲しくて仕方がなかった外国人の友達も得ることが出来ました。個人テーマ「労働について」ですが、ドイツでは顧客と従業員が対等であることを強く感じました。労働と従業員の関係も対等で、良い言い方をすれば「人間味のある労働」をしていると感じました。ホストマザーは「日本人が異常に働くことは知っている。ドイツでは人は仕事のために死なない。」と話していました。日本の労働に良いところはたくさんあります。しかし悪い面に目をやると、先進国と呼ばれる国の働き方ではないなと思います。責任ある仕事をするのは当然のことですが抱え込み過ぎてもいけないと思います。生活の一部にすぎない、生活するための手段にすぎない、とまでいくと乱暴すぎる表現かもしれませんがもう少し各々の労働とドライに向き合ってもよいのではないかと思います。



スタジアムツアー



Dima（ロシア男子）と私

個人研修奨学金

ドイツ

五十嵐 ゆり 政経学部 経済学科 2年

都立葛飾野高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（ドイツ）参加



カールスルーエ

初めての留学

【研修参加の動機について】

私は第2外国語でドイツ語を履修しており、それがきっかけでドイツに興味を持ち、1年生のときにドイツ語を教えてくださいました先生から個人研修奨学金をオススメされたことがきっかけです。先生からヨーロッパの中心ともなるドイツの経済の豊かさや文化の興隆など日本にはないモノを留学をすることにより学び、得ることができるということを教えていただきました。また、お金をもらって留学をできる個人研修奨学金があるということを知っていただき、私は、留学をするのに高額な資金が必要となり、留学をすることが困難だと思っておりましたが、個人研修奨学金を利用して行けば、留学のための一部の費用を大学側が負担してくださるので、ドイツに行きやすいなと思いました。

研修に行くオススメの学年は、ドイツ語を履修している2年生のときに行った方がドイツから帰国してきたあとでもドイツ語の授業でドイツで学んだことを活かし、勉強に励むことができるからです。

【研修生活について】

学校の授業は、月曜日から金曜日まであり、主に日常生活で使う会話を学んだり、実際にスーパーマーケットやお肉屋さんに行き買い物の仕方を学びました。また、映画館に行き子どもが観る映画を観に行ったり、フロイデンシュタットやバート・ヘレンアプに行き、校外学習もしました。

学校の授業がない日は、先生の紹介で知り合った友人と一緒にシュトゥットガルトやハイデルベルク、プフォルツハイムに行きました。私は車にすごく興味があったので、シュトゥットガルトにあるボルシェ博物館とメル

セデス・ベンツ博物館に行きました。昔の車から現代の車が展示されており、見たこともない車がたくさんあったので、すごく楽しかったです。

また、宿泊先で私は共同部屋だったので、いろいろな国の方に出会うことができ、たくさんお話することができたのでとても良い機会となりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、4つあり、1つ目は同じ宿泊先に泊まっている人でもすれ違ったら挨拶をしたり、スーパーのレジをやっている人でも挨拶をするなど挨拶が大事であるということ、2つ目はドイツでは日曜日はお店がほとんどやっていなかったり、夏休みは3週間とれたりするなど働きすぎるのではなく、自分の生活を豊かにするために休みをたくさんとること、3つ目は私は1人でドイツに行ったので、道や電車のチケットの買い方がわからなければ、人に聞いて教えてもらったりしたので何事も自分から積極的に行動すること、4つ目はドイツ人はお互いの意見を尊重しながら自分の意見をはっきりといい問題などを解決したりするので自分の意見をはっきり言うことが大事であるということを知りました。

今後の学生生活への影響は、ドイツに行きいろいろなことを学び経験したのでこれからもたくさんの国に行きさらに成長したいなと思いました。進路については、私は将来ホテルで働き、たくさんの外国人の方に出会い、ドイツで学んだことを活かして働けるように、さらに語学力を向上させることができるよう、頑張っていきたいと思います。



フロイデンシュタット



ハイデルベルク

個人研修奨学金

ドイツ

川口 郁也 政経学部 経済学科 2年

浦和学院高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（ドイツ）参加



ノイシュバンシュタイン城

ドイツでの3週間

【日常生活について】

私は南ドイツのミュンヘンという場所に、8月11日から3週間研修に行きました。ミュンヘンはバイエルン州最大の都市でBMWの本社やオクトーバーフェスがあることで有名であり、年間を通してたくさんの日本人観光客が訪れる都市です。またドイツはとても乾燥しているため、昼間は30℃近くまで上がるのですが日本のジメジメとした暑さは全くなく、気温が高くてでも過ごしやすい気候です。

私の通っていた学校は毎日8時20分から授業が始まるので、毎朝7時には同じ語学学校の友達と登校していました。ランチは語学学校で仲良くなった様々な国籍の友達と学校の近くのレストランに行き、食事中は各自の国の文化やお互いの趣味について話すことが多く、今までに習ったドイツ語を実践的に使ういい機会にもなりました。放課後は、友達と学校の近くの川やミュンヘン周辺のフェスティバル、観光地などに一緒に行くことが多く、授業ではなかなか出てくることのない単語を学ぶ機会になりました。

ドイツでの生活は常に色々な物事に集中しなければならない環境でしたが、そのような環境で生活することによってリスニング力や語彙力がより身についたと思います。また日本ではドイツ語の文法を習っても、それを生活していくうえで使う機会はほとんどありませんが、留学をすることで習ったことを日常生活で使いながら覚えていくことができ、表現のレパートリーは日本だけで学ぶよりも増やすことができると思いました。

【研修を通して感じた日本とドイツの相違点】

ドイツは環境問題への意識が極めて高い国だと感じました。まずスーパーマーケットや市場では基本的にビニール袋が付いてこない点に驚きました。私は、ドイツに到着した当日にスーパーマーケットへ2Lの水やシャンプーなどの日用品を大量に買いに行ったのですが、エコバックを忘れてしまい大変な思いをしました。しかし、ドイツ人は常にエコバックを持っており、そういった点で環境問題への意識の高さが感じられました。ま

た、アパートやオフィスの廊下などはどこも人を検知すると電気が付き、一定時間が経つと自動で消える装置が付いており、無駄を省くということが徹底されています。

私がドイツで過ごして、最も驚いたことは飲み終わった瓶やペットボトル容器のリサイクル率が高いことです。ドイツの瓶の飲料水とペットボトル飲料には、基本的にデポジット代が支払う金額に入っており、飲み終わった容器を専用の機械に入れることによって一本あたり25セント（日本円で35円前後）が返ってくるデポジット制度があります。その制度があるため、ドイツのホームレスが公園などに落ちていた瓶やペットボトルを拾っていき、その拾った容器のデポジットを受け取り、そのお金で食べ物や衣類を買うため瓶やペットボトル容器の返品率が高く、多くの瓶やペットボトルを再利用することを可能にしています。このような制度は、今後の環境問題への配慮を考えると、とても有効的な制度だと思ひ、ぜひ日本にも取り入れてもらいたいと思ひました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

個人研修奨学金は、他の拓殖大学の研修プログラムとは違い、個人で研修に行くため予期せぬ問題が発生した際に自ら考え、行動しなければなりません。私は研修初日からそうした様々な問題に見舞われ、繰り返し解決していくうちに自分自身で問題を解決していく力を身につけることができたと思います。また、今回の研修でよりドイツ語を生かすことのできる仕事に就きたいと思う気持ちが強くなりました。今後は語学力のさらなる向上に力を入れ、最終的にはドイツ語検定2級を取得出来るよう、ドイツ語の学習により精進していきます。



新市庁舎



オリンピック公園のフェスティバル

個人研修奨学金

ドイツ

山本 峻太郎 政経学部 法律政治学科 2年

私立つくば秀英高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（ドイツ）参加



ミュンヘンの新市庁舎

今回の個人研修を通して感じたこと

【研修参加の動機について】

私はもともとヨーロッパに憧れを持っていました。というのも、高校生の時に修学旅行でヨーロッパに行くはずだったのですが、テロの影響でそれがキャンセルになってしまったからです。それ以来いつかはヨーロッパに行って他国の言葉に直で触れてみたいと思っていました。その後大学に進学し、第二外国語でドイツ語を選択することになりました。そして、一年次から学習する中でもっとドイツについて知りたいと興味を持ちました。なぜなら、ドイツは栄光から没落まで様々な歴史を持っている国家だと思ったからです。私は個人研修奨学金という制度を知り、利用してみたいと考えました。そして、今年行かなければ、来年からは就職活動等で忙しくなってしまう、行く機会がなくなってしまう可能性があると考えたので今回応募することに決めました。

【研修生活について】

研修先はカールスルーエという都市で、フランクフルトから電車で一時間くらいの場所にありました。カールスルーエはとてもどかな場所で、自然が豊かで治安もよくとても暮らしやすそうな都市でした。学校があるのは、その中にあるドゥルラッハという場所で、とても古い建築物が残っている綺麗な町という印象を受けました。ドイツは第二次世界大戦の影響で多くの場所が焼けてしまい、古い建物があまり残っていないようなのですが、ドゥルラッハは昔からの古い町並みが焼けることなく残っていました。そのような歴史ある場所で研修を行うことができるとてもうれしかったです。講師のシルビアさんはドイツ語を基礎から教えてくださり、あまりう

まく話すことができなくても理解できるまでやさしく教えてくださいました。また、授業の一環でドイツで靴職人になった日本人の方とお話しする機会をいただきました。その方からドイツでの生活から歴史、政治までたくさんのお話を聞くことができました。長年住まなくてはわからない現場の声を聞くことができ、自分にとってとても貴重な経験になりました。しかし、困ったこともありました。今年のヨーロッパは例年にはない猛暑で、自分も体の調子も悪くなってしまいました。むこうは冷房もほとんどなく、21時まで日が落ちないのでそれはとてもつらかったです。また、虫がとても多かったです。特に蜂が多く、私も授業中に刺されてしまいました。しかし、ドイツでは安易に蜂を殺してはいけなく、種類によっては殺したことによって多額の罰金を取られてしまうそうです。そのことに私はとても驚きました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通して、自分の視野を広げることができたと思います。というのも、私は将来の具体的なビジョンが見えないまま今まで過ごしてきました。しかし、今回ドイツに行くことができ、日本では見ることができない人々の多様な暮らしを生で見ることができました。そして同時に、今まで私はとても狭い世界で暮らしてきたのだと実感することができました。これからは、いろいろなことを経験して自分の将来の選択肢を増やしていこうと思いました。



シュバインツハクセ



フランクフルトのアイゼルナー橋

個人研修奨学金

ドイツ

宗像 祐未 政経学部 法律政治学科 3年

私立関東国際高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（ドイツ）参加



フランクフルトの大聖堂

ドイツ個人研修について

【研修生活について】

私の研修先は、フランクフルトから電車で一時間くらいのところにあるカールスルーエという町にありました。授業は私たちのレベルに合わせて挨拶や時間の見方など基本的なことから学んでいきました。また、ドイツ人との交流やドイツの映画を見たり、いろいろな場所に見学連れて行ってくれたりと机に向かう勉強だけでなく実践的な勉強法も取り入れてくれたのでとても面白かったです。その中でも特に印象的だったのがドイツ人との交流で、自己紹介の仕方を授業で学んだ後に実際にドイツ人と会い、授業のあとに一緒にビアガーデンにいき、ドイツ料理などを食べたりしました。

【研修国・地域の紹介について】

私が実際にドイツで生活してみて日本と違うなと思ったことや驚いたことがいくつかあります。まず、日曜日に営業しているスーパーやコンビニがないことです。これはドイツにいてみて一番不便だなと思ったことです。大体のお店などは日曜の営業がないので買い物は土曜日までに済ませておく必要がありました。次に駅に改札がないことです。切符を自分で買って電車に乗り、駅員さんが切符を確認しにきたら見せるという感じですが、このときに切符がないと高い罰金を払わなければいけないので注意が必要でした。次に、トイレが有料ということです。日本だとお店や駅に行けば無料でトイレに行けると思うのですが、ドイツではデパートや駅

でトイレに行く場合、大体1ユーロくらいをはらう有料のトイレが多かったです。最後に、クーラーがないことです。ドイツは、日本に比べると夏場でも比較的涼しく、基本的に家やホテルなどにクーラーはなかったです。ただ、今年のドイツは異常気象でドイツ人も驚くほどとても暑く、窓をあけたり、水を飲んだりして暑さをしのいでました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の個人研修は、昨年行ったイギリス短期研修とは違い、何でも一人でやっていかなければいけなかったり、現地で本当に自分のドイツ語が通用するのかなどとても不安なことばかりで正直不安でした。ドイツについてからもドイツ語の発音が難しく、最初のほうはなかなか言葉が通じなかったり、聞き間違えられてしまったりしていましたが、あきらめずにジェスチャーや授業で習った言葉を使いながらがんばっているとだんだんドイツ語が聞き取れたり、会話ができるようになっていきました。また、日本とはぜんぜん違う生活や文化に戸惑ったりもしましたが、ドイツでの生活の慣れていくにつれ、その戸惑いも少なくなっていき、何事も自分から発信、行動することが大切なんだと感じました。コミュニケーションがとれるようになってくるとドイツ研修も一段と楽しく感じられました。今回の個人研修を通して残りの学生生活や進路についてもさらに視野を広げることができ、自分を見つめなおすいいきっかけになったと思います。



ミュンヘンの白ソーセージ



カールスルーエ城のプロジェクションマッピング

個人研修奨学金

スペイン

高梨 純 商学部 経営学科 4年

私立柏日体高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（スペイン）参加



ミハス・プエブロ

マラガへの研修

【研修参加の動機】

私がスペインへの個人研修に参加した動機は、スペイン語の上達のきっかけ作り、スペイン語への興味、そしてスペインへの興味があったからです。その中でもなぜマラガを選択したかという点、率直に言えば費用が安く済んだからです。というのも、私はこの研修に行くならば、出来るだけ長い期間現地に滞在したいと考えていたので、主要都市であるマドリードやバルセロナは費用が高いため選択出来ませんでした。また、マラガは主要都市と比べ旅行で行く可能性も低いと思ったので、他の人が得ることの出来ない貴重な経験を得られると思い選択しました。

私の場合4年次に研修に行くことになったのですが、なぜそれが可能だったのかというと、就職活動を他の人と比べ運良く早く終わらせることが出来たからです。3年次の時にこの研修を初めて意識し、語学学校の資料や宿泊先などの情報、そして渡航費用の確保など少しずつ行ったおかげで、実際に行く事が決まった時に素早く対応することが出来ました。

【研修先の紹介】

マラガはアンダルシア州に属し、夏の間日本と比べ湿度が低く、降水量もかなり少なく、私の5週間の滞在期間中には一度も雨が降ることはありませんでした。湿度が低いので気温が高くとも日陰に入れば暑さを凌ぐことが出来、快適な気候でした。反面、雨が全く降らないので、その間は道路や歩道の汚れが流される事なく残っているというデメリットも感じました。また日の出、日の入りの時間が遅く、21時を過ぎても小さな子供が外で遊びまわっていました。さらにスペインにはシエスタと

言う昼休憩の文化があり、14時から17時までは多くの店が閉まり、昼食を取ったり、お昼寝をしたりし、また日曜日には多くの店が休み、閉まります。このような、休むときには休むという働き方に、個人的には不便けれども魅力を感じました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回で2度目の海外生活だったのですが、そのおかげで、正直生活などで驚くことは少なかったと思います。ですが、今回のスペインも含め3つの国の視点や考え方を得ることが出来ました。なので、「～は…のはずだ」のような考え方をせず、常に色々な考え方がある、とより一層思えるようになりました。日本にいると考え方も似たり寄ったりなので、どうしても考え方に偏りが出てしまいがちです。日本で何気なく生活をし、それが普通だと思っている事が海外の普通ではなかったり、おかしな行動に見えてしまったりする事は間違いなく多々あります。独特な髪型や服装といった外見のなところから、自分が悪くないのにとりあえず謝れば良いと思っているとこや、自己主張をせずグループに所属したがるなど、内面的なところも色々含めて日本は変わっていると私でさえ感じます。しかし、この気付きは外に出て初めて感じるものなので、少しでも行こうか迷っている人は、是非自分の凝り固まった考え方を解消するためにも研修に参加することを勧めたいです。

私は来年外国で就職する事が決まっています。私自身、その国は初めてなので3度目の海外生活になる事になります。ですが、今回も含めた海外での経験を生かし、何事にも柔軟に対応していきたいと思っています。



アトランザス市場



コスタ・デル・ソル

個人研修奨学金

スペイン

伊東 朋美 商学部 国際ビジネス学科 3年

神奈川県立市ケ尾高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2017.8 長期研修(カナダ)参加
2018.8 個人研修奨学金(スペイン)参加



クラスメイト

スペイン3週間留学

【研修先について】

私はスペインのバルセロナに3週間研修に行きました。語学学校は International House Barcelona という所でバルセロナの中心地にとっても近く、学校が終わった後観光するのに便利でした。語学学校の初日はレベルチェックとして、選択式の文法のテストと先生と会話をするテストがありました。その結果、私は初級クラスでした。授業はリスニング、ライティング、文法、会話など、幅広く行われます。クラスは最大8人までの少人数制なので、授業でわからないことがあってもすぐに先生に質問をすることができたので良かったです。クラスメイトは、日本、中国、韓国などのアジア出身もいますが、イギリス、イタリア、ドイツ、ノルウェーなどのヨーロッパ出身の人が多いです。授業は基本的にはもちろんスペイン語で行われますが、初級クラスはまだスペイン語を理解することが難しいため、スペイン語がわからないときは英語で説明してくれます。また、ヨーロッパ出身の人は英語が流暢なため、休み時間はみんな英語で会話をしていました。したがって、英語を話せると授業の理解も深まりクラスメイトとも仲良くなれるので、英語も少し勉強していくと研修先で役立つと思います。

【日常生活について】

3週間ホームステイをしました。家は学校から電車と徒歩で約20分の距離で、サグラダファミリアの近くでした。すでに仕事をリタイアしたホストマザーと私の2人で生活をしていて、朝食と夕食は用意してくれます。スペインはシエスタの文化があり食事の時間が日本とは全く異なるため、夕食の時間は21時過ぎと遅いです。最初は遅くてお腹がとても空いていましたが、3日ほど

で慣れます。ホストマザーの話すスペイン語が早く、言っていることが理解できないことがありましたが、ジェスチャーや知っている単語からなんとなく理解していました。また、学校は毎日13時半に終わるため、その後お昼ごはんを食べ、街を観光することが多かったです。バルセロナは観光名所なので、他のスペインの地域と比べると物価は高いですが、見所が多くあり食べ物もとても美味しいので3週間いても全く飽きません。夜でも若者が普通に外を出歩いていたりして、治安は良かったです。しかし、人が多いため観光客を狙ったスリが多いのも事実です。私は被害にあうことなく、スリをしているところも一度も見たことがなかったのですが、実際にバルセロナでスリにあったという話も聞きました。したがって、あまり敏感になる必要はないと思いますが、カバンを前に持ったり、派手な格好をしないようにしたり、最低限のことをしていれば狙われることもなく、安全に過ごすことができます。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

語学学校の1週目は、授業中の先生の話しているスペイン語が上手く聞き取れず、2回説明してもらうことが多くありました。しかし、2週目からはリスニング力が確実に上がっているのが実感でき、すんなりとスペイン語が理解できるようになりました。私は将来、貿易会社や商社などの語学を生かせる仕事をしたいと考えています。主に英語を使うことが多いと思うので、直接スペイン語に関わることは多くないと思います。しかし、スペイン語は母語として話す人の数が2番目に多い言語で、今後スペイン語を生かせる機会は十分にあると思います。したがって、この研修で学んだことを復習し、スペイン語検定4級取得を目指しこれからも勉強を続けます。また、単語と会話がまだまだだと感じたので、検定だけでなく実際にスペイン語を話すという努力もしていきたいです。



グラシア祭り



バルでお昼ごはん

個人研修奨学金

スペイン

田村 凱樹 商学部 国際ビジネス学科 3年

さいたま市立大宮北高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（スペイン）参加



ホストファミリーとの食事

不安から自信へ。

【研修参加の動機について】

この度私が個人研修留学プログラムに参加した理由は主に二つあります。一つ目の理由は学生生活の間に一度は留学を経験してみたかったということです。私が初めて留学に興味を持ったのは中学三年の受験勉強の時に、高校に進学したら必ず留学に行きたいと思っていました。しかし実際は上手くいかず悔しい思いをした過去があったことが大学生の今、今回の研修参加へ大きな後押しになりました。二つ目は第二外国語の成績優秀者に選ばれたことです。私はスペイン語を選び二年間学習し国際交流サークル、日本語学校訪問ボランティアなどを通じてスペイン語圏の友人を作りました。彼らのおかげで勉強が難しいときにアドバイスをもらったり、教えてもらったりすることが出来ました。結果的に自分の語学力にも大きく伸び二年間の必修授業の成績から五人の優秀者にも選んで頂き留学に行く決め手になりました。私は三年の夏休みに研修に参加しましたが非常に正解だったと感じています。理由として多くの学生はスペイン語を大学から始めますので、一通り基礎の学習を終えた頃が最良で、理解力もある程度はついていて頃だからです。研修前の準備としては必修の授業に合わせて会話、中級授業の履修は必ずお勧めします。また、スペイン語を話すことができる友人がいると尚良いです。

【研修生活について】

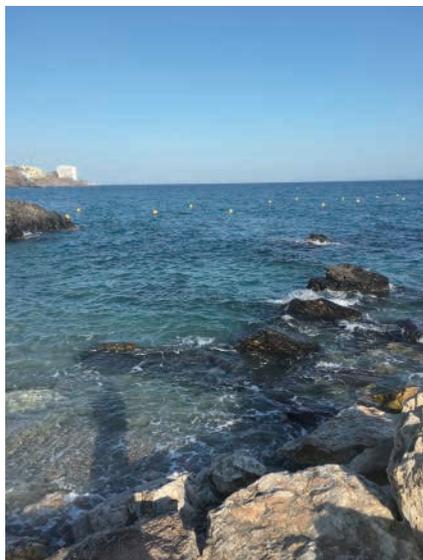
研修は約一ヶ月間ホームステイをしながら授業は四週間のコースを選択しました。出国前にオンラインでテス

トをして授業のレベルが決まります。私は六つのレベルの内下から2番目のクラスでしたので授業レベルは大学の中級クラスとほぼ同じで、自分のレベルをブラッシュアップする感じで楽しい授業でした。予習は毎日放課後に30分から1時間程度行いました。私の学校は少人数制のクラスで会話を重視した授業だったので日常生活で使う単語、表現などが学べました。場所が地中海沿いで夏だったこともあり観光客で賑わっていて観光の面でも色々日本との差を体感することが出来ました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の短期研修では自分のスペイン語能力の向上を目指し本場の環境にチャレンジしました。留学自体が初体験だった私にとってこの一ヶ月は毎日が新しい経験として自分に記憶されるものでした。そして私が日本で国際交流を積極的にしてきたことは海外で役に立つとわかったことは大きな自信に繋がりました。特にスペイン語圏は人とのコミュニケーションを重視する文化ですので私の性格と日本での経験が上手く合いました。これからも国際交流はサークル、ボランティアを通じて続けていきたいです。卒業後は就職し仕事をするにあたり今回の経験も加味して就活をしたいです。外国と交流が盛んな職業は総合商社などのビジネスは力があり活発だと思うのでそのようなアクティブな仕事ができる人材を目指して残りの学生生活も全うしたいです。



研修先マラガ（地中海）



学校の友人達と。

個人研修奨学金

スペイン

富澤 佳亮 政経学部 経済学科 2年

川崎市立橘高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（スペイン）参加



トレドの絶景

スペインに行く動機と生活

【研修参加の動機について】

私は元々スペイン語を第二外国語にしている、スペインに興味がありました。南米もスペイン語を公用語にしている国があったので候補に入っていました。やはりオリジナルのスペイン語を現地で実際に体験したかったので、スペインに行くことにしました。それと、私はサッカーが昔から好きで、サッカーが盛んであるスペインに行って、生で試合を見てみたいと思いました。

この研修制度を利用するタイミングというのは、いつ行っても良い体験ができると思うのでいつでも良いと思います。ですが、個人的には二年生の時に行けてよかったと思っています。なぜなら早めに行ったほうが、人生の夏休みと言われているこの大学での残りの生活でやりたいことが広がると思うからです。私はスペイン語に加えて英語も頑張りたいと思いました。スペイン語は元々興味があったのですが、もちろんその程度では会話がろくに出来ず悔しい思いをしたので、さらに勉強したいと思えました。そしてなぜ英語も勉強したいかという、そこで会話が出来ないときに使う言語が英語だからです。やはり、英語は世界で一番使われている言語なので、必要だなと感じました。

研修に行く前にやっておくべきことは、ある程度は現地の言語の勉強も必要ですが、それと同時に英語をしっかり勉強しておくことも大事だと思います。

【日常生活について】

私はスペインのマドリードに3週間滞在しました。天気は毎日晴れていて、湿気が少ないので気温が高い日も汗があまり出ず、とても快適に過ごせました。向こうでの生活は学生寮で過ごしました。その学生寮では、いろいろな国の人たちが住んでいました。私はアメリカ人とトルコ人と話しをする機会が多かったです。話せる人同士はスペイン語で話していましたが、私は英語で会話をすることが多かったです。ただ、あまり話せなくても社交的な感じで話せば、外人はノリが良いので仲良く

なれたりすることが多いので不安に思うことはないです。私が住んでいた学生寮は特に細かい決まりごとはなく、毎晩8時にみんなで夜ご飯を食べることくらいでした。

私は語学学校でスペイン語を学びました。授業はスペイン語で行われるのですがジェスチャーなどで表現してくれたりするので分かりやすいです。それに3週間だけの滞在でしたが、リスニング力は行く前に比べたらつuitと思います。先生が言ったことも理解できることが多くなりましたし、買い物をするときや街を歩いているときもスペイン語ばかりなので耳が慣れてきたのだと思います。やはり言語を学ぶには実際に現地に行くのが一番身につくなと思いました。

私が滞在していた場所はマドリードの中心の方に住んでいたのですが少し歩けば賑わっている場所でした。なので、放課後などはそこへ行き、日用品やお土産を購入したりしました。放課後は遠出ができるほど時間は無いですが、土日は学校が休みだと思うので、遠出をしたほうが良いと思います。特におすすめは、トレドとセゴビアです。どちらもマドリードから高速バスで1時間くらいなのでアクセスも良いです。やはり写真で見るとより圧倒的に生で見たほうが迫力もあり良いので私のおすすめスポットです。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

そもそも初めての海外だったので得たことだらけでした。食に関しても交通機関に関しても生活の文化に関しても、多くのことが日本と違って最初は戸惑いましたが、とても面白かったです。あと半年だけスペイン語の授業があるのでスペイン語にたくさん触れて、スペイン語検定と DELE 取得を目指します。

スペインに関連した仕事とかにも興味が出てきたので、この経験を今後に生かせたらなと思います。



セゴビア 水道橋



クラスメートとの一枚

個人研修奨学金

タイ

五十嵐 ゆう 国際学部 国際学科 3年

都立若葉総合高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2017.2 国際学部タイ短期研修参加
2018.2 国際学部タイ短期研修参加 (アシスタント)
2018.8 個人研修奨学金参加



クラス写真

初めてのひとり海外

【研修生活について】

私は、タイの首都であるバンコクを中心に、スタンピットにある、UTL (ユニティタイランゲージスクール) に通いました。レベルは、読み・書き・会話コース1～6、政治問題や、新聞を読んで意見を言いあう特別コースがありました。初日に簡単なテストを受けます。授業は毎朝9時から12時の3時間で、1時間ごとに5～10分の休憩が入ります。私のクラスは会話中心で、大学の授業では習わない話し言葉やスラングを多く学びました。教科書はすべて会話形式で、親子の会話だったり、上司と部下の会話だったり、友達同士の会話がありました。丁寧な言葉の使い方や、気軽な話し方、親から子への言葉遣いを習いました。会話中に出てくる単語には、意味は同じでも少しニュアンスが違ったり、日本にはない言い回しがあったり、予習よりも復習を中心に勉強しました。UTLでは授業中はタイ語以外の外国語は使用禁止で、辞書を使って調べるのも禁止でした。難しい単語は先生が簡単なタイ語で説明してくれるので、タイ語のリスニングにもなるし、辞書を見るより深く理解することができました。授業は会話をひとりずつ読んでいき、読み終わったら先生の解説がはいり、わからない部分があった時点で手をあげて質問をします。解説が終わった後は、意味やニュアンスが難しい単語や熟語を使って、自分で文を作って発表します。たまに、自由に文を考えて作ることもありました。ロマンチックな文を作ったり、日本の文化や韓国の文化、タイの文化を教えあったりしました。

【日常生活について】

私のクラスメイトに同じ年の韓国人が3人いて放課後一緒にご飯を食べたり、勉強したりしました。週末も世界遺産のアユタヤへ行き、自転車で回りました。その他にも韓国人の友達のタイ人と仲良くなり、タイの大学を見学しました。日用品以外の買い物をおまじりしなかったため、出費はほとんど食費でした。しかし、物価が安いので1食35バーツ(約115円)で済ませることができ

ました。私は1か月ずっとホテル暮らしで、特に気を付けていたことはホテルの人が部屋を掃除するときに、盗難に遭うことが多いため、荷物はすべてキャリーケースにいれ鍵を閉めてから出かけました。

【研修を通して得たことと 今後の学生生活への影響と進路について】

私は1年次にタイ短期研修に参加し、2年次にはアシスタントとしてタイ短期研修に参加しました。短期研修は集団ということもあり、個人に比べて危険が少なかったり、日本語を使う機会が多かったり、タイ人に話しかけるのも、言葉が伝わらないのが嫌で英語で話しかけたり、友達に頼る部分もありました。今回の個人研修は飛行機の手配から宿の手配、学校の手配まで自分ひとりでして現地でもひとりで行動するため行動力がついたように感じます。授業はとて難しくてタイ語しか使えないので間違っても多少は通じる、わからない単語も自分がわかる単語で説明すれば通じることがわかりました。そして、今まで私が苦手としてきたリスニング力がつきました。今拓殖大学に留学しているタイ人と仲が良いのもっと積極的に話しかけてお互いの語学が上達したらいいなと思います。

高校生の頃に外務省が実施しているJENESYS2.0に参加してから国際協力に興味を持つようになりました。そのころから将来は世界で通用するグローバルな人材になりたいと思っていました。今は、世界、特に途上国に事業を展開し、且つ会社で国際協力をおこなっている日本企業に就きたいと思っています。せっかくタイ語を勉強し、話せて聞き取れるようになったからには、もっとタイ語のスキルをあげ、就職にも活用できるように勉強していきます。



アユタヤ



タイ料理

個人研修奨学金

韓国

中野 太陽 商学部 国際ビジネス学科 2年

都立墨田川高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（韓国）参加



昌徳宮での記念写真

慶熙大学 韓国短期留学

【研修生活について】

今回の研修ではもちろん韓国語を話したり聞いたりする機会が多いですが、話しかけないとせっかくの機会なのにもったいないと思い、自分から話しかけることを心がけるようにしました。

韓国人は日本人とは違い韓国人のほうから話しかけてくれることは少なく、韓国に行った日は正直なところ孤独で頼れる人がいないので泣きそうになりました。

だからこそ自分から話しかけなければいけないと思い、3週間しかないのでせっかくきて何もしないで帰るのはもったいないと思ったので韓国語の2つの個人的な目標を立てました。

具体的な内容はまず本場の外国人（韓国人）の言葉を理解できるようになることです。そしてもう1つは日常会話程度の韓国語を話せるようになって帰ってくるという目標です。つまり今回の2つの目標は韓国人との会話が出来るようになるために積極的に話しかけようと言うことでした。

このテーマに対して、韓国語を聞き取る力はもちろんですが、話す力については留学前との自分と比べて明らかに出来るようになったと思います。

【日常生活について】

個人研修で学んだことは語学だけではなく、日常生活

の中でも成長することが多かったです。僕は毎日ノートに日記を書き、振り返った時にすぐに分かるようにしようとしていました。また食文化の課題に対する2つの個人的な目標をここでも立てました。この2つの目標は毎日食べた料理を日記に記録するということと、日本に帰ってから自分で韓国料理を作ってみるということでした。この目標についてはせっかくの韓国料理を韓国で食べれる機会なので、もう一度韓国に行くまで、どんな料理があるのか、日本で食べられる韓国料理との違いについて、または韓国人好みの特別な味はあるのだろうかという視点から韓国料理を味わってくることでした。そして日本に帰ってからはチーズダッカルビを作ってみました。帰ってきてから一度行動することも研修の振り返りになるのでとても自分の為になりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

この語学研修では多くの人に支えられて自分が生活出来ることを実感し、またそのような方々に感謝しなければいけないと実感しました。このような機会を設けてくれた先生方や、経済面等で面倒を見てくれた両親にもしっかりと自分の韓国で体験してきたことを伝え、成長した姿を見せられるよう韓国語検定に合格するという目標を達成しようと思います。



慶熙大学での写真



先生との写真

個人研修奨学金

韓国

松本 明日香 商学部 国際ビジネス学科 2年

埼玉県立坂戸高校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（韓国）参加



クラスのみんなどの写真

慶熙大学での3週間

【研修参加の動機について】

私が、韓国を研修先として選んだ理由は、高校生の時から韓国語に興味を持ち、日本ではなく、実際に韓国に行って勉強をしたいと思ったからです。

この個人研修は、第2ヶ国語の言語の国に研修に行くことができます。大学で勉強してから研修に行くことができるので、そこがいい点だと思います。

そのため、授業を受けていく中で、研修先の文化や風習などにも興味を持つようになりこの研修に応募する事を決めました。

応募するにあたって、飛行機の手配や、研修先、スケジュール作成などなど、自分で全ての計画を立てなければならないので、応募すると決めた時から沢山調べて情報収集をした方がいいと思います。特に大変だと感じたことは、課題研究についてです。語学研修の他に研究課題があるので、自分の関心のある課題を前もって見つけておくといいと思います。

また、研修に行くことが決まった場合は、移動手段であったり、宿泊する場所、その国の生活習慣など、研修先の国について調べていて損はないと思います。私は、宿泊先までの道を迷って時間がかかってしまったので、住所を地図に入力しておくのも、お勧めします。

【研修生活について】

私は、3週間、ソウルにある慶熙大学で勉強しました。初日に、学校をまわった後に、レベル分けのテストをして、自分の力に合ったクラスに分けられます。レベルテストは、作文と面接でした。授業では、韓国語で韓国語を教えてくれる直接教授法でした。聞き取れるように、区切って話してくれたり、ゆっくり教えてくれたのですごく分かりやすく楽しい授業でした。文法、話す、聞く、の授業をしました。予習は、特に必要はありませんでしたが、復習はしっかりやった方が力がつくと思います。自分が分からなかった単語や、聞き取れなかった単語などはしっかり調べるようにしました。宿題もたま

に出されたので、忘れないようにすぐやるようにしていました。

また、慶熙大学では選択授業と校外学習がありました。選択授業では、文化、作文、読解の3つの中から選ぶことができ、私は、作文の授業をとりました。作文の授業では計画についての文章や、手紙の書き方などを教わりました。実際に、ハガキに文章を書いて家に出したのが、とても楽しかったです。

また、校外学習は、2日あり、ソウル Nタワーや博物館、ロッテワールドなどに行きました。どの場所も楽しく、授業の息抜きにもなり、校外学習はとてもお勧めします。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私が今回の研修で、特に得たと感じることは、聞き取る力と話しかける勇気です。聞き取る力は、やはり授業のおかげが大きいです。3週間韓国語が溢れる中で生活したこともすごく影響したと思います。電車のアナウンスや、店員さんの言葉など、3週間前と後では全然違いました。韓国の方に尋ねられた事があったのですが、言われた言葉を理解して答える事ができたときは、とても嬉しかったです。

また、1人でいろんな場所に行ったりするので、分からないことも多く、沢山のの人に話しかけるため、最初は躊躇していましたが、段々と話しかけて通じる事が楽しくなり、話しかけることに抵抗がなくなってきました。この他にも、現地での生活がどのような感じか、日本との違いなど、沢山のことを得ることができました。

今回の個人研修を経て、韓国への理解が深まり、関心もさらに高まり、より熱心に韓国語を勉強したいと思うようになりました。大学での授業だけでなく、自分自身でもしっかり勉強していきたいです。また、将来は、正確に何になりたいということはまだありませんが、韓国と関わりのある企業へ、就職したいと考えています。



校外学習で行ったソウルタワー



修了証と大学の風景

個人研修奨学金

カナダ

岩田 隆浩 外国語学部 中国語学科 3年

私立実践学園高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金(カナダ)参加



Confederation Bridge

fairytale

【研修国・地域の紹介について】

私はプリンスエドワードアイランドのシャーロットタウンにて研修を行いました。プリンスエドワードアイランドは世界一美しい島と呼ばれ、赤毛のアン作品の舞台として有名です。そのため観光産業が盛んで、日本をはじめ世界各国の観光客が赤毛のアンの家を一目見ようとやってきます。赤毛のアンだけではなく豊かな自然も魅力の一つです。特にキャベンディッシュビーチは青く透き通った海、白い砂浜、赤い岩のコントラストがとても綺麗でした。この景色を見れば誰もが世界一美しい島と言われる理由が分かると思います。食べ物ではロブスター、ジャガイモが有名です。すぐ近くの海で捕れた新鮮なロブスターは格別です。日本との相違点として一番に食生活が挙げられます。日本では毎日お米を食べるのが一般的ですが、カナダではパンを毎日食べます。語学学校のランチタイムでは全員のお弁当がサンドイッチなんて日が何度もありました。私の場合1ヵ月毎日お弁当はサンドイッチでした。中にはランチチップスと言ってお弁当にポテトチップスを持たせる家もありました。

【日常生活について】

語学学校内は圧倒的に日本人、韓国人が多かったです。しかし、日本人同士でも英語を使って話していたのでとても良い環境でした。自分と似た状況の中国に留学経験のある韓国人とは特に仲良くなれました。彼らは近いうちに日本へ旅行しに来るので、負けないように英語の勉強を続けていきたいです。一ヶ月という短期間の研修ということで、少しでも英語に触れる時間を増やすために、休日はもちろん放課後も外出するようにしていました。友達と遊びに行かない日は、町の図書館やスーパーに通いました。図書館では主に英訳された日本の漫画を読んでいました。好きな漫画は予備知識があるので楽しく読むことが出来るのでお勧めです。スーパーには

日本では考えられない大きさの食品が数多く売っていました。感覚的には業務用の商品を現地の人たちは、家庭用に使っていました。

語学学校卒業後にナイアガラの滝へ旅行しに行きました。世界三大瀑布の一つであり、一生に一度は訪れたい場所と言われているので、旅行する前日は興奮して眠れませんでした。当日滝へ着くと圧倒されました。滝の近くは流れ落ちた滝の水しぶきでスコールのように水が降り注いできました。夜のナイアガラの滝は昼とは違う顔でした。滝はライトでカラフルに照らされ、上空には火花が咲いていました。まるでCG、映画の世界にいるような臨場感を味わうことが出来ました。滝の近くにある繁華街はアメリカな雰囲気も多く観光客で賑わっていました。どこの部分を切り取っても映える、そんな良い雰囲気の町でした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して自ら情報を集め判断、処理する能力がつかえました。旅行代理店を通さず、長距離バスから民宿の予約まで全て一人で行ったことは確実に私自身を成長させる経験だったと思います。今後の学生生活では、英語の勉強を続け最終的にはTOEICで860点を超えるレベルに到達したいです。伝える英語も大切ですが、大学院進学と就職活動どちらを選ぶとしても数値としての英語が必須なのでTOEICで高得点を取得できるよう精進します。

また在学中に中国長期研修、カナダ個人研修と二カ国留学した経験をより多くの人に伝えていきたいです。他の学校に通っていたらこの経験を得ることは出来なかったと思うので、改めて拓殖大学を選んで良かったと思いました。



クラスメイト



シャーロットタウンの夜

個人研修奨学金

ブラジル

菅沼 将仁 商学部 経営学科 3年

高知学芸高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（ブラジル）参加



MS 州立大の友達と

ブラジル語学研修報告

【研修国・地域の紹介について】

私は、ブラジルの中西部に位置するマッドグロッセ・ド・スル州（以下、MS 州）に行ってきました。この州には3番目に多くの日系ブラジル人が住んでいます。MS 州では日系人が広めた沖縄そばが有名で、ブラジル人たちも慣れないお箸を使って食べています。MS 州には沖縄県人会の会館があり、私も日系人の友達に誘われて太鼓の練習を彼らに交じってしました。そこにいる日系人達は3～5世でもう日本語は話せませんが、日本の伝統文化が地球の裏側でも受け継がれていることに感動しました。

この留学の期間、ブラジルの季節は冬で、朝晩は10度前後の日もあり冷え込みました。日本とは真逆です。季節の他に、ブラジルが日本と真逆なことがいくつかあります。まずは、フォークとナイフの持ち方です。日本人は西洋の持ち方をまねていますが、ブラジル人は右手にフォークを持って左手にナイフを持ちます。もしブラジルでレストランに行ったら見てみてください。次にブラジルは多民族国家であり、移民でできた国です。白人、黒人、メスティーソ、アジア系といった多くの人種がいます。私も様々な人種の友達ができました。

【日常生活について】

私は、ブラジルの UEMS という州立大学に留学していました。授業が終わったあとは大学の友達と町へでかけました。また、ブラジル人は夕食はあまり食べないので、自分で作っていました。近くのスーパーに買い物をするのですが、店で歩いていると店員さんが助けはいらぬか声をかけてくれました。

ブラジル人は困っている人がいると助けたいという性格があります。授業でも疑問はないかよく声をかけてくれ、助けてくれます。そうしたブラジル人の親切さに恥ずかしがることなく頼ることも、彼らと仲良くなれる方法のひとつだと思います。

私は留学して始めは大学や生活の環境になれませんでした。自分の疑問と意見を持って、ブラジル人達の生活の仕方や性格に合わせて接してみれば、周囲の環境に慣れやすくなり、彼らとも距離が縮まりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修でブラジルに留学させていただき、印象に残ったことはブラジル人は陽気さ、楽天的な性格であることや経済成長の面から見たブラジルの成長を、自分の目で見て感じたことです。授業や生活で感じたことですが、彼らは私の話すポルトガル語でも熱心に聞いてくれ、歓迎してくれました。そのようなことから、語学学習も進み、人とのかかわり方についても考える良い機会になりました。また、経済的な面から見たブラジルについては、多くの国々の良いところ、例えば衣食住の文化、自動車、航空機、医療機器などの機械類、法制度などを取り入れている国です。これらから、日本にも誇れるような技術があるので、グローバル化と言われる現代にビジネスの機会はますます増えるだろうと感じました。

今後は、語学や特技など何か自信をもってできることが必要だと感じ、ブラジルなど海外で活躍できるような人材になりたいと思います。



外国人コースの仲間達と



沖縄そばのお店にて

個人研修奨学金

中国

北山 明恵 商学部 国際ビジネス学科 2年

名古屋女子大学高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（中国）参加



紫禁城の広大さと人の多さ

新しい発見の4週間

【研修参加の動機について】

もともと中国語を勉強していたが実際中国に行き、使うことで自分の中国語力がどれほど通用するのか知りたく、また、中国語しか話さない環境に自分を置きより高い中国語を身につけたかった。

中国人の生活習慣や文化に興味があったためそれも実際に行き体験しながら知っていきたくかった。

日本人が中国や中国人に対する考え方やイメージが国内にだけじゃわからない中国の実態をマスメディアなどを通してではなく自分の目で確かめたかった。

【研修生活について】

まず初めに体調の重要性を実感しました。慣れない環境のため少し気を抜いたらダメでした。

次に毎朝日本の大学とは異なる大学生活を過ごし驚きました。毎朝八時から授業でついていくのにいっぱいいっぱいテストや作文、授業内ディスカッションなどでは自分の中国語のできなさを痛感しました。

毎日の授業が大変で外に出て遊びに行く余裕もありませんでした。しかし研修生活を送りたくさんの人とコミュニケーションをとっていくと、自分と似たようなバックグラウンドの人や、日本語を学んでいる外国人、そして中国語を学んでいる外国人がいて、彼らの中国に対する思いや熱意は素晴らしいものだと思います。

また日本にはあまり見られない貧富の格差が目立つ中国ならではの問題や貧しい生徒の考えを聞いていくのも

とても人生において勉強になりました。私は特に同じ大学生の演説を聴き、いろんなモノの捉え方考え方を知りました。とっても有意義で充実した4週間でした。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

中国人とお話したり授業を受けていく中で新しい知識や考え方を得られました。授業の中では中国に対する考えが深まりました。一番大きく変わったのは積極性だと思いました。自分から話しかけるとみんな嫌な顔一つせず親身になって話を聞いてくれたり話してくれます。そのおかげで自分から積極的に話しかけることへの抵抗が減りました。今後、より中国について知りたいと思えました。また、日本にいる中国人にも積極的に話しかけようと思えました。中国語の勉強もして、より語学力を上げていきたいです。進路も中国語を使い、中国に携われ外国にも携われる企業に就職したいと強く思いました。そして今回の留学で体調の自己管理の大きさを痛感しました。体調が崩れるとすべてに支障が出てしまいます。なので今後日々を過ごしていく中でしっかり自己管理を徹底しようと思えました。

最後に、中国留学を通してもっと外国に行きたいと思えました。たったの4週間でも自分を大きく成長させるいい経験になりました。



串刺しのサンリ



警備が厳重な天安門

個人研修奨学金

マレーシア

菅原 早絵 国際学部 国際学科 2年

秋田県立大館桂桜高等学校出身
2017.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（マレーシア）参加



ベナンにて先生とスコットランドからのコースメイト

現地でマレーシア語を学習して

【研修生活について】

私はマレーシアのスランゴール州バンギに位置するマレーシア国民大学でマレーシア語の講座を受けました。私が選んだ講座は60時間のコースです。私は日本でもマレーシア語をとっていたため基本的な文法は学習済みということで、はじめにレベル2の授業を受けた後にレベル3の授業を受けることになりました。この講座は言語だけに限らず、マレー文化やマレーシアについて学ぶ授業がカリキュラムに含まれていることが魅力です。さらに、大学で開かれている講座なので、現地の学生や大学院生と交流することもできます。

私が講座を受けていた時は、他に日本、トルコ、スコットランド、台湾と様々な地域から来ている生徒がいました。私のレベルは他に生徒がおらず私1人だけだったので、毎日先生と2人きりでの授業でした。私は一人でしたが基本的にほかのクラスも少人数での授業でした。そのため先生とより親しくなり、アットホームな環境で授業を受けることができます。基本的にマレーシア語のみでの会話だったのでマレーシア語に慣れるためにはとても良い環境でした。マレーの文化を学習するクラスではマレー系の方の結婚式や博物館に行くこともできました。

はじめに受けていたレベル2の授業は、日本で勉強していた内容の復習のような内容でした。日本語で言う「動詞」という文法用語もマレーシア語での説明だったので、はじめは戸惑いもありましたが、日に日に慣れていきました。その分宿題のレベルや量も増え、毎日授業後は図書館で復習と予習をし、ある時は24時間空いている勉強スペースで徹夜することもありました。教科書がすべてマレーシア語で書かれているものだったので、わからない単語を調べ、できるだけ授業前に教科書の内容を理解できるようにしました。復習は授業中に出てきたわからない単語やマレーシア語の説明で理解しきれなかった部分を日本から持参した教科書で調べました。大変だなと思うこともありましたが、自分のマレーシア語の伸びを感じることができたので、充実した研修生活を送っていたと思います。さらに他のクラスの生徒や、先生の紹介で友達になった現地の学生とご飯を食べたり、勉強したりすることができたので色々な人とコミュニケーションをとることができました。



犠牲祭の日に撮った友人との写真

【日常生活について】

私が通っていた大学は自然豊かな場所に建てていても静かな場所でした。しかし、授業のない週末は寮にこもることしかできないと思い、それではもったいないと思ったので積極的に外に出て授業で習ったことのアウトプットを行える環境に行きました。週末はマラッカやベナンなどの観光地に行ったり、マレーシア人の友人の家にホームステイしたりしました。マレーシアは多民族国家であるため基本的にどこに行っても様々な料理や建築物を見られることができます。さらに地域ごとに民族割合が違うことや植民地時代の建物が残っていることから、どこに行っても異国にいる気分を味わうことができました。友人の家にホームステイをした際にはイスラム教の犠牲祭があり、普段決して体験することができないようなことも体験できました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の研修で、海外で働く際に英語だけでなく現地の言語で話すことの大切さを知りました。マレーシアは多民族国家であることや、経済発展に伴う外国資本の導入によって英語が多く使われます。そこで奨学生選考の際にも、マレーシア語の重要性について聞かれ、私自身その質問の答えを改めて確かめたいという気持ちがありました。実際マレーシアに行ってマレーシア語で会話すると現地の人たちはより親しく感じてくれて会話も弾みます。同じ講座を受けていた方も仕事をする際に相手との距離を縮めるためには現地の言葉は大切だと言っていました。今までは英語を重視した勉強をしていましたが、現地語の大切さに気付いたことでマレーシア語の学習に対する意欲が大きく変化しました。さらにマレーシアの魅力に気づいたことで、今後のマレーシアでの長期滞在を視野に入れて今まで以上にマレーシア語に力を入れたいと思いました。



三つの言語が表記される看板

個人研修奨学金

インドネシア

池田 野亜 国際学部 国際学科 3年

私立品川エトワール女子高等学校出身
2016.4 拓殖大学入学
2018.8 個人研修奨学金（マレーシア）参加



お世話になった語学学校の先生

貴重な1カ月

【研修参加の動機について】

私は今回の個人研修奨学金プログラムで、インドネシアのジャカルタを訪れました。

私がインドネシアを訪れたのは、今回で3度目です。昨年8月に参加した本校の短期語学研修で、初めてインドネシアを訪れました。その際に私は、インドネシアの文化や風習、そして、インドネシアの人々に魅了されました。短期語学研修への参加以降、インドネシア語の学習意欲が向上したことに加え、インドネシアの歴史や文化への興味関心が高まりました。インドネシア語を上達させ、インドネシアという国についての理解を、より深めていきたいと考え、個人研修奨学金プログラムへの参加を決めました。

私は、今年の2月後半には既に個人研修への参加を希望していたので、3年生の前期の講義で、吉野文雄先生の「インドネシアの歴史と文化」を履修しました。この講義で、インドネシアの歴史や文化、宗教についての基礎知識を習得しました。受講後すぐにインドネシアを訪れたため、より理解を深めることができました。

また、今後、個人研修でインドネシアを訪れたい方がいたら、何度かインドネシアへ渡航した上で参加することをお勧めします。ジャカルタは特に、現地に友人がいなくて危ないですし、公共交通機関を利用する移動が難しいです。現地調査をする際も、現地に友人や知り合いがいなくて大変だと思います。

【日常生活について】

私が個人研修に参加していた1か月間は、毎日が刺激的でした。その中でも特に印象に残っている日を2つ挙げます。まず1つ目が、犠牲祭の日です。犠牲祭とは、イスラム教のお祭りの1つです。町のいたるところで4~5人の大人の男性が、ヤギや牛を捌き、その捌いたお肉を近所の人や貧しい人々に配るという儀式を行います。この貧しい人々に配るという行為が、イスラム教義として重要だそうです。この儀式は、朝早くから行われ

ているので、私は起床してすぐにその様子を見に行きました。最初は、生まれて初めて見る光景に少々戸惑いましたが、段々と自分の中で受け入れることができました。日本に帰国した後に改めて犠牲祭の写真を見返すと、少し目を覆いたくなってしまいますが、文化や風習を知ると共に、命に感謝するという大切なことを学ぶ良い機会でした。

2つ目は、友人の姉の結婚式へ参加した日です。私が去年の短期語学研修に参加した際に、とても仲良くなった友人がいます。その友人家族とは、とても親交が深く、私が日本にいる時でも連絡を取り合っています。今回結婚した友人の姉とは、特に仲が良いです。

結婚式は2日間にかけて行われました。1日目は、Akad nikahというイスラム教の婚姻の儀式を行い、2日目には、盛大な結婚パーティーが行われました。私は、家族・親戚側として出席させてもらうことになったため、家族の出身地であるPadangの民族衣装を着て参加しました。Akad nikahと結婚パーティーは共に、日本では見慣れない盛大さと、イスラムや民族の特色が色濃く映し出されており、とても感動しました。家族や親戚の方々が、信じられないほどに私を家族の一員として受け入れてくれたこと、また、大好きな友人が結婚したことに感極まってしまい、涙が止まらなかったです。とても良い思い出となりました。

【研修を通して得たことと

今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の研修に参加したことで、インドネシア語の学習意欲が更に増すと共に、インドネシアへの興味・関心が今まで以上に高まりました。今後もインドネシア語の学習に加え、歴史や文化、民族についての学習にも励んでいきたいと思っています。

この先もインドネシアで築いた交友関係を深めていきたいです。また、長いキャリアをみて、最終的にはインドネシアと関わる仕事ができたら良いと考えています。



犠牲祭



結婚式

拓殖大学海外留学プログラム
平成 30 年度研修報告

夏期短期研修／個人研修奨学金

編集・発行 拓殖大学
国際部八王子国際課
〒193-0985 八王子市館町 815-1
TEL: 042-665-1479
FAX: 042-665-1554

発行日 令和 2 年 3 月 31 日

 拓殖大学 国際交流

検索

クリック



